

竟スルニ斯クノ如キ立論ハ縱令ヒ千言萬語ヲ費スモ總テ  
 是レ廢紙朽繩ノ用ナキニ均シキノミ  
 惟フニ凡百ノ本能ハ奮昂(Impulse)ノ一種ナリ赧顔、噴嚏、咳  
 嗽、微笑、閃避等ノ如キ文字上ニ於テ各、其各辭ヲ異ニス下雖  
 所要スルニ其實體ニ至テハ渾テ同一物ニシテ唯奮昂中ノ  
 種別タルニ過キス……………(中畧)……………而シテ本能ナルモノ  
 ハ常ニ必ス目的ノ先見ナクシテ發現スルニアラス又タ一  
 定不變ノモノニアラサルナリ人類ニハ幾ント本能ノ存ス  
 ルヲ見ス其行動ハ概テ理性(Raison)ノ司ル所ナリ是レ其下  
 劣動物ト相異ナル所以ナリ之ニ加フルニ人類ハ記憶力、反  
 省力、及ヒ推度力ノ三能ヲ有スルヲ以テ一度實驗ヲ經ルルルル

ハ能ク其結果ヲ豫知スルニ至ルヘシ獨リ人類ノミナラス  
 苟モ記憶力ヲ有スル動物ニ於テハ當初本能上ヨリ出テタ  
 ル行為ト雖モ實驗ヲ經ルニ從ヒ目的ノ先見アルニ至ルト  
 明白ナリ……………(中略)……………本能ハ猶ホ其他ノ二原因ニヨ  
 リテ蔽匿セラル、イナキニ非ス即チ  
 (a) 常習ニ因リテ、本能ヲ阻碍スル、  
 (b) 本能ノ易消性アル、  
 是レナリ而シテ常習ノ阻碍ニ就テハ  
 「某種ノ物體ガ動物ニ向テ初メテ反動ヲ生セシメタ  
 ルルキハ其心性ハ專ラ初接ノ一物ニ偏向シ復タ他物  
 ニ對シテ反動スル、イナキニ至ル」



トノ定則ヲ生スルニ至ルヘシ何トナレハ家兎ハ常ニ同一ノ邊隅ニ脱糞シ鳥類ハ必ス同一ノ枝上ニ巢フ等ノ事實ヲ見テ其然ルヲ知ル可ケレハナリ又々本能ハ易消性ニ就テハ

「凡ソ本能ハ一定ノ年齢ニ至テ成熟シ然ル後チ終ニ消滅ニ歸スルヲ常トス」

トノ定則ナキヲ得サルニ至ルヘシ蓋シ本能ノ易消性(Transiency)ハ其強弱一ナラス自衛ノ本能ノ如キハ最モ消滅シ難シト雖モ吸乳ノ本能ノ如キハ最モ消失シ易キモノナリ云々

(ト)ローマンス(Romanes)『本能(Instinct)ナル名辭ハ未ダ其

意味ヲ確定ス可カラサルヲ以テ嚴格ナル定義ヲ下ス可カラサルモノナリ吾輩ノ力ヲ以テ其最モ真正ニ近キ斷案ヲ下スルハ本能ナルモノハ方便ト目的トノ關係如何ヲ知ラズシテ終ニ意識的行爲ヲ做スニ至ルヘキ諸心カハ總稱ナリ而シテ本能ノ起因ハ二様アリテ第一ニハ遺傳的常習(Inherited Habit)ニ出テ第二ニハ天然淘汰(Natural Selection)ニ由ル(1)本來智力的性質ヲ有スル心カノ活動モ累代繼續ノ常習ニヨリテ終ニ永遠不磨ノ本能ト爲ルヲアリ是レ前族ニ在テハ明瞭ナル智力的行爲ナルモ復行ヲ積ミ遺傳ヲ累ヌルノ久シキ竟ニ其神経系中ニ一種ノ機械的作用ヲ醸成スルニ職由セスンハアラス(2)當初偶然ニ做シタル行



爲ノ優等動物ニ裨益アルキハ其裔族ノ生存連續スルト共ニ之レヲ數世ニ傳下スヘシ是レ天然的淘汰即チ優種生存(Survival of the Fittest)ノ原則ニ出ツルモノニシテ優種ノ本能ニ富ム所以ナリ之ヲ例セハ解卵ノ本能ノ如キ以テ証ス可シ如何ナル動物ニテモ智力上ニ於テ孵化セシメント欲スル目的ヲ以テ能ク其卵ヲ温護シタルモノアルヲ聞カス想フニ解卵ノ本能ハ温血動物ニシテ冷血動物ノ其卵ヲ看護スルト同一ノ行爲ヲ做スニ出テタルナラン蟹及ヒ蜘蛛ノ如キハ保護ノ目的ヲ以テ其卵ヲ携帶スルトアリ己ニシテ冷血動物ノ進化シテ温血動物タルニ至ルキハ其携帶ニ由リテ圖ラヌモ自己ノ體温ヲ其卵殼ニ轉移スルニ至ルヘシ

斯クノ如クニシテ其傳温ヲ累ヌルニ從ヒ其常習ハ一變シテ解卵ノ行爲ト爲リ漸ク其成功ヲ積ムニ及テ終ニ解卵ノ本能ヲ生ス而シテ其本能ハ豫メ智力ノ其事ヲ指導スルナキモ益啓發シテ已ムトナキナリ又々世人往々本能ト理性トヲ混同スルトナキニアラスト雖モ其區別ハ最モ明白ナルモノナリ理性(Rason)ハ方便ト目的トノ關係ニ就テ既得ノ知識ヲ有スルキニ限り之ニ基テ活動スルモノニシテ本能(Instinct)ハ前族ノ實驗ヲ積ミタルト同一ナル特殊ノ境遇ニ於テノミ活動スル作用ナリ故ニ理性ハ各自ノ實驗セル各種ノ境遇ニ於テ活動スト雖モ本能ハ各自ノ實驗セサル事態ニ遭遇スルモ前族ノ實驗シタル境遇ニ臨ムキハ自ラ



其活動ヲ生スルニ至ルナリ之ヲ換言スレハ本能ニ基キタル行爲ハ同一ノ境遇ニ於テ遭接シタル激因ニ對シテハ同種中ノ動物ハ各同一ノ成績ヲ生スルモ理性ニ因テ起リタル行爲ハ縱令ヒ同一ノ境遇ニ在リト雖モ其行フ所各個各異ニシテ固ヨリ一定スル所ナキナリ且ツ本能ハ最モ變化シ易キ性質ヲ有スルヲ以テ境遇ノ變更スルニ隨ヒ自在ニ其性狀ヲ變スルモノナリ世ノ本能ヲ論スルモノ往々之ヲ以テ一定不變ノ特性ヲ有スルモノト爲ス謬見ノ甚シキモノト謂フ可シ

(チ) スペンサー(Spencer) 『本能(Instinct)ナル名辭ヲ制限シテ之ガ正當ノ意義ニ復歸セシムルハ只是レ一種複雜ナ

ル反應作用ニ過キサルノミ吾輩ハ此語ヲ定釋スルヲ爲サスシテ寧ロ之ガ講解ヲ試ミタルナリ何トナレハ真正ノ本能ト簡單ナル反應作用トノ區別ニ就テ其間ニ明瞭ナル境界線ヲ指示ス可カラサルヲ以テナリ然レモ所謂ル本能的原始性ノ反應作用トノ差別ヲ明ニスル爲メ茲ニ鷄雛ノ一例ヲ引示スヘシ鷄雛ハ初メテ其卵殼ヲ出ツルヤ能ク自ラ其體重ヲ均調シテ跳走スルノミナラス自在ニ食片ヲ啄取ス是レ外物ノ視覺神經及ヒ動眼神經ヲ刺衝シ隨テ筋肉ノ短縮ヲ誘發セシムルニ由ルナリ其飛蠅ヲ捕獲スル場合ノ如キ殊ニ然リ是ニ由テ之ヲ觀レハ反應作用ノ原始的狀態ヲ有スル日ニ在テハ神經ノ一受感ハ以テ筋肉ノ一短縮



チ生スヘシト雖トモ其作用ノ漸ク啓發チ遂クルニ至レハ  
一受感ハ以テ筋肉ノ結合的短縮ヲ來タスヘシ然ルニ本能  
ニ於テハ受感ノ結合ニ由リテ縮筋ノ結合チ生シ本能ノ啓  
發愈高等ノ位置ニ進ムキハ受感ト縮筋トハ愈ソノ複雑チ  
加フルニ至ルコ必セリ云々』

(リ)バスチン(Bastian)『動物ノ本能(Instinct)ハ其種類一ニ  
シテ足ラスト雖モ其最モ主要ナルモノヲ類別スレハ

- (1) 養○的○本○能○(Alimentary Instinct)
- (2) 生○殖○的○本○能○(Generative Instinct)
- (3) 受○感○的○本○能○(Impressional Instinct)

ノ三種ト爲スチ以テ適當ナリトス是レ博物學士ノ是認ス

ル所ニシテ養○的○本○能○トハ直接間接ニ論ナク總テ養○管  
(Alimentary Canal)ノ刺激ニヨリテ生スルモノニシテ食物ノ  
探求、捕獲、把握、貯蓄、嚥下等及ヒ或ル場合ノ移住等ノ如キ是  
レナリ生○殖○的○本○能○トハ生○殖○器○(Generative Organs)ノ刺激ニヨ  
リテ發現スルモノニシテ匹偶、造巢、下蛋、養兒等及ヒ某種ノ  
移住ノ如キ是レナリ受○感○的○本○能○トハ外部ト内部トノ二局  
面ニ存スル共通性ノ受○感○(Impression)ニ因由スルモノニシテ  
蟄伏及ヒ移住ノ如キ是レナリ』

(又)シドニー・スミス(Sydney Smith)『動物ノ本能(Instinct)ハ  
其數多ク其由來不可思議ナラサルハ莫シト雖モ之ヲ要ス  
ルニ其効用ハ同種同族ノ結合ト保安トチ完成セシムルニ



外ナラサルノミ若シ動物ヲシテ全ク本能ヲ具有スルナ  
 カラシメハ瞬時ニシテ其隻影ダモ地球上ニ留ムルナキニ  
 至ルヘシ生レナガラニシテ能ク建築ノ原理ヲ解スル蜜蜂  
 モ其造蜜ノ特能ナカラシメハ其蠢愚ニシテ生存上ノ效益  
 ナキ一啻ニ石片土塊ノミナラサルナリ滿身ノオカチ以テ  
 孳々勉々勞シテ己ムナキモ其成果ハ兒童ガ間食ノ材料  
 ト爲リ其疾苦ハ詩人ガ吟咏ノ題目ト爲リ去ルノミ十歳ノ  
 村嬢能ク寸木ノ炤烟ヲ以テ彼レガ全國ヲ勦滅ス可ク彼レ  
 ガ宮殿ハ一變シテ蠟燭ト爲リ其寶庫ハ獲テレテ終ニ蜜酒  
 ト爲ル蜜蜂ノ才榮茲ニ至テ永ク畢矣ニ屬ス人類ハ此種ノ  
 オカチ有セサルモ能ク地球上ニ生存シテ其全族ノ安固ヲ

維持スルモノハ卓然トシテ一種特出ノ理性(Reason)ヲ有ス  
 ルヲ以テナリ而シテ本能ハ一定不變ノ性質ヲ有スルモノ  
 ニアラス其境遇ニヨリテ必ス變化ヲ生ス曾テ蜜蜂ヲ熱帶  
 地方ナルバルバドース島ニ移シ之ヲシテ四季共ニ造蜜ニ  
 従事セシメント欲シタル者アリシガ蜜蜂ハ其地方ノ常ニ  
 温暖晴朗ナルト蜜料ノ饒溢ナルトニ安ンシテ其勤儉ノ風  
 ハ縱然トシテ懶惰放肆ノ性ト爲リ日出ヨリ日没ニ至ルマ  
 テ只花間ニ狂翔シテ餘念ナキ者ノ如シ是レ蓋シ勤儉ヲ保  
 持スヘキ必迫ノ勢力ナキニ至リタルヲ以テナリ世ノ人類  
 ト畜類トノ區別ヲ論スルモノ必ス曰ク人類ハ理性ニヨリ  
 行動シ畜類ハ本能ヲ以テ生活スト然レモ未タ其本能ナル



モノハ如何ナル意義ヲ有スル定語ナルヤヲ明言セス吾人  
 モシ某事ヲ做サント欲シテ某種ノ方便ヲ採擇スルニ方リ  
 其方便ノ果シテ其目的ニ適合スルヤ否ヲ明知スルキハ是  
 レ理性ニヨリテ行動シタルナリ然レモ目的ニ適合スル方  
 便ヲ採擇スルモ自ラ其然ル所以ヲ覺知セサルキハ所謂ル  
 本能ニヨリテ活動シタルノミ蜜蜂ノ造巢ノ如キ是レナリ  
 云々』

(ル)フレーツ(Perez)『本能(Instinct)ナルモノハ人畜ハ別ナ  
 ク一定ノ境遇ニ在テ一定ノ行爲ヲ做サント欲スル性向ヲ  
 表白スル作用ニシテ其性向ハ即チ天賦ト遺傳トニ由リテ  
 吾人ノ心性ヲ形成スヘキ傾向ナリ是レ蓋シ前族ガ行ヒタ

ル無意的實驗ヲ裔族ニ傳下シタルモノニシテ有機作用ト  
 心意作用トノ二因ニ出ツルモノナリ動物ガ斯クノ如キ靈  
 妙ナル奮昂力ヲ有スルハ其無心ノ器械タラサルノ証ナリ  
 而シテ方今諸大家ノ論スル所ニ從テ其特性ヲ列擧スレハ

- (1) 目的ノ何タルヲ知ラサル
- (2) 作用ハ即時ニ成熟スル
- (3) 作用ハ過謬ナキ
- (4) 性状ハ變動セサル
- (5) 作用ハ齊一ナル

ノ五項アリト雖モ本能ノ物タル元ト實驗ノ結果ニ出ツル  
 モノナルヲ以テ境遇ノ感勢ニ由リテ移變ヲ生スルハ終ニ



免ル可カラサルノ數ナリ先ツ第一ニ本能ノ全ク無意識ニ出ツル所以ヲ証明スルガ爲メ胎兒ノ活動ヲ引示スヘシ是レ決シテ理性ニ由リ意志ニ由リ又々實驗ニ由ルモノニアラサルハ辯ヲ待タスシテ明白ナリ既ニシテ其生ル、ヤ未タ幾クナラスシテ母ノ胸邊ヲ探リ頭頸口舌ヲ運動シテ能ク吸乳シ更ニ數日ヲ經ルニ及テハ其手ヲ以テ胸邊ヲ壓シ以テ乳汁ノ流出ヲ促進スルノミナラス銳光ノ眼邊ヲ襲ヒ激音ノ耳底ヲ打ツニ方テハ之ニ即應シテ閉目スルニ至ル而シテ是等ノ行動ハ人畜共ニ其目的ノ方便ノ關係如何ヲ知ラスシテ做スモノナリト雖モ知識ノ進歩スルニ從ヒ漸ク之ヲ覺知スベシ唯ソノ奮昂ニ至テハ遂ニ自識スル能ハサ

ルノミ第二ニハ本能ノ即成ヲ証論スヘシ鳥類ハ學ハスシテ能ク其巢ヲ造リ肉食動物ハ其好餌ノ初メテ目前ニ來ルニ方テ直チニ之ヲ捕獲スルガ如キ決シテ各自ノ豫修ヲ經テ成ルモノニアラサルナリ然レモ元ト是レ有機作用ヨリ生スル一種ノ器械的機能ニシテ固ヨリ意志ノ指導ニ出ツルモノニアラス第三ニハ本能ヨリ生スル激作ハ百中シテ誤ルナキト恰モ天地ノ違フナキニ似タルガ如シト雖モ廣ク各般ノ事實ヲ查察スルハ未タ必スシモ然ル能ハサルモノアリ蚯蚓ハ地動ニヨリテ土籠ノ來襲ヲ知ルノ本能ヲ有スルモ鷗族若クハ漁夫ノ如キハ故ラニ地動ヲ利用シテ之ヲ捕獲スルト多シ蓋シ蚯蚓ハ地動ノ土籠ニ出ツルカ將



夕羽族若クハ人類ノ所爲ニ屬スルガチ識別スル能ハサル  
 ヨリ茲ニ至ルモノナリ又々雌鷄ノ卵ナキニ平臥シテ解卵  
 ナ企ツルガ如キモ小鳥ノ杜鵑チ恐レテ鷹ト爲スガ如キ皆  
 ナ以テ本能ノ過謬アルトチ証明スルニ足ルヘシ第四ニ本  
 能ノ不變ト齊一トチ併論セシニ意志ノ感勢チ受クルキハ  
 漸ク其本性チ變移スルニ至ルヘシ犬ガ危難ノ其身ニ及フ  
 チ豫知スルキ故ラニ其呼吸チ停止スル等ノ如キ是レナリ  
 本能ニシテ已ニ意志ノ抑制チ受ク可キモノトセハ其作用  
 ノ齊一ト性狀ノ不變トハ到底永存ス可キモノニアラサル  
 チ知ルヘシ雖シ生レナカラニシテ能ク歩行スルハ全ク本  
 能ノ力ニ出ツト雖モ其完成チ遂クル所以ノモノハ練習ト

注意トノ結果ニアラサルハ莫シ云々

(チ) ヘルバート (Herbart) 『本能 (Instinct) ナル作用ハ願望力  
 中ノ劣種ニ屬スルモノニシテ人類ニ在テハ僅ニ其一小片  
 チ具有スルモ畜類ニ至テハ其種類更ニ多ク其状態マター  
 層ノ完備チ存スルチ見ルナリ蓋シ畜類ニ於テハ其有機作  
 用ノ然ラシムル所唯、コノニ妙力ニ依リテ利害チ知リ生存  
 チ全フスルノミ而シテ人兒及ヒ獸仔ガ特ニ活動チ欲スル  
 奮昂ノ如キハ生活 (Life) ト靈魂 (Soul) トノ區別チ實際上ニ明  
 示スル例証ナリ此活動性ハ年齢ノ長スルニ從テ變化シ去  
 ルノミナラス生來各自全ク同一ナラサルモノ多シ是レ其  
 活動性ノ有機作用ニ出ツル明証ニシテ心理上ニ關係ナク



寧ろ生理上ノ原理ニ屬スル所以ナリ  
 從來世ノ心理學士ハ外部ノ感覺ト内部ノ心象トヲ對比シ  
 テ有機的奮昂ト自愛模擬、社交等ノ本能ト互ニ相聯申セル  
 所以ヲ發見セリ且ツ動物ハ幸福ヲ求ムル本能ヲ通用スレ  
 其性狀ニ至テハ各自同一ナラサルヲ以テ未タ一人ノ其  
 目的ヲ特指シタル者アルヲ聞カス畢竟スルニ本能ナル各  
 稱ヲ用フルモ其所謂ル幸福(Happiness)ナル觀念ニ就テハ一  
 定ノ基本アルヲナシト雖モ自愛及ヒ社交ノ本能ニ至テハ  
 願望ノ念之ガ先導ト爲リ利己ト利他トノ衝突ヲ感識スル  
 ニ從ヒ此二者ヲ調和セント欲スルヨリ生スルヲ必然ナリ」  
 (ワ) プレイエル(Preyer)——「人類ノ本能(Instinct)ハ獨リ其數

ノ多カラサルノミナラス構接ノ本能ヲ除クノ外一タヒ幼  
 時ヲ經過セハ其痕迹ヲ認ムルヲ難シ故ニ人類ノ本能ヲ研  
 究セント欲スル者ハ宜シク其幼時ノ行動ニ注目スヘシ然  
 レモ其眞性ヲ洞察セント欲セハ必ス先ツ鳥雛獸仔ノ本能  
 ヲ觀察セザル可カラズ鶏雛ノ如キハ其卵殻ヲ出ツルヤ否  
 直チニ各種ノ本能的行動ヲ現ハスニ至ル時トシテハ猶ホ  
 其卵殻中ニ在リテ自ラ之ヲ破壞スルニ方テ本能ノ端緒ヲ  
 表明スルヲナキニアラス出殻ノ後チ六分時間ニシテ能ク  
 十二吋ノ距離ニ在ル飛蠅ヲ追跡シ十分時間ニシテ能ク身  
 邊ニ接近セル昆蟲ヲ捕獲シ二十分時間ヲ經ルノ後ハ其形  
 ヲ見サルモ其聲ヲ聞テ能ク母鶏ヲ認識ス然ルニ人類ニ至



テハ生ル、ノ日己ニ能ク其手指ヲ屈伸スルモ未タ能ク外物ヲ把握スルヲ得ス……(中略)……先ツ第一ニ發現スルモノハ吸乳ノ本能ニシテ嚙下、咬齧、咀嚼、咀碎、舐吮、鼓舌等ノ本能ヲ繼發スヘシ而シテ凡ソ人類ト鳥類トヲ論セス生レテ直チニ能ク其頭部ヲ保支スル者ナシ若シ傍ヨリ之ヲ助ケ支フル者ナクハ或ハ前ニ垂レ或ハ左右ニ傾キテ恰モ生活ナキ者ノ如シ此一點ニ至テハ人兒モ鳥雛モ共ニ甚シキ大差ナシト雖モ鳥雛ハ生後僅々數時間ニシテ能ク人兒ガ數週後ニ做シ得ヘキ所ヲ行フナリ人兒ニ至テハ此種ノ筋肉的活動ハ其意志ノ發達ニ伴フテ生スルヲ常トス又々着坐ノ本能ニ就テハ諸說紛々一ツナラスプロツスハ第四

ケ月ニ在リト曰ヒシギスモンドハ第十七週乃至第二十六週ノ間ニ在リト曰ヒエイブルドハ健全ナル人兒ハ第五ケ月乃至第六ケ月ノ間ニ着坐スルヲ得ヘシト曰ヒデナムハ之ニ反シテ強壯ナル兒童ハ第七ケ月ノ終末若クハ第八ケ月ノ起首ニ至ラハ能ク數分時容易ニ着坐スルヲ得ヘシト曰ヘリ然レモ吾輩ノ實驗セル所ニ據レハ強健ナル兒童ハ第九ケ月乃至第十ケ月ニ至テ能ク着坐シ得ルモ虛弱ナル兒童ハ第十一ケ月乃至第十二ケ月ニ及ブニアラサレハ着坐シ能ハサルナリ  
起立ノ本能ニ就テ論スレハ余ガ愛兒ハ生レテ第三十九週ニシテ初メテ起ツヲ得タリ己ニシテ第十一ケ月ニ至リ



タレキハ全ク保支ヲ離レテ起立シタルノミナラス能ク頓足スルヲ得タリ第二年ノ始ニ及テ他人ノ助支ヲ受ケスシテ數分時間能ク起立スルヲ得ルニ至レリトランベルノ説ニ從ヘハ一女子アリ第十九週ニシテ初メテ能ク起立シ第十一ヶ月ニシテ全ク自立シタルヲアリシト云フ歩行ノ本能ハ特ニ不可思議ナルモノニシテ其兩脚ヲ交互屈伸スル作用ノ如キハ固ヨリ自ラ知ル所ニアラス而シテ兒童ガ歩行ヲ能クスルノ時限ハ概ネ一ツナラス多クハ生レテ第一ヶ年半若クハ二ヶ年ニ及フト雖田シギスモンドノ説ニ從ヘハ虚弱ナル一兒童ニシテ僅ニ八ヶ月ニシテ能ク歩行シタル者アリト云フ尋テ走馳ノ本能ハ第七十七週ニ至

テ現ハレ跳躍ノ本能ハ第二十八ヶ月ニ及テ生スルモノ多シ之ヲ要スルニ各種ノ本能ハ各兒ノ遺傳ト境遇トニ由リテ其發現上ニ多少ノ遲速ナキニアラスト雖田其順序ニ至テハ自ラ一定ノ常規アルモノニシテ着坐匍行起立投抛歩行走馳跳躍攀上等ノ各種ハ決シテ前後紊亂スルヲナキヲ信ス

(カ) カーペンター (Carpenter) — 『動物ノ本能 (Instinct)』ヲ具ハスルハ其必促ニ由テ運動スル生活體タルノ証ナリ蓋シ本能ノ作用ハ意匠ナク又々意志ナクシテ單純ナル器械的機能ニ屬スルヲ以テナリ且ツ本能ノ啓發最モ高度ナルモノハ智力 (Intelligence) ヲ表出マタ最モ低度ナリ是レ昆蟲ノ行動







ナ同フスル者ナキニアラスト雖也亦々各其固有ノ特色ヲ表出スルヲ以テ心理學ノ研究上讀者ノ參考ニ便益ヲ與フルヲ少シトセス今逐一ソノ長短ヲ批評セスト雖也バステンノ類別法、フレーズノ特性論等ノ如キ最モ注目ス可キ價値アルモノナリ然リト雖也バステンノ立論ニ至テハ舉証辯說ノ簡約ニ失スルヲ以テ讀ム者ヲシテ稍望洋ノ感アラシムルノミナラスベイン、ブレイエル等ノ如キハ其定釋ノ範圍ヲ過大ナラシムルノ瑕失ナキニアラサルナリ又タジームスノ如キハ本能ト反應作用トヲ同一視スルノ傾向アリ吾輩ノ肯テ取ラサル所ナリ而シテ猶ホ特ニ本能ノ性狀ヲ細査究明セント欲スル者ハ宜シクリンゼーノ劣等動物

心性論(Mind in Lower Animals.)ローマンズノ動物心性進化論(Mental Evolution in Animals.)カードポールンノ人蕃本能論

(Instinct in Brute and Men.)ルーボックノ蟻蛇及蜜蜂論(Ont

Ant Asp. and Bee.)等ヲ參閱スヘシ

又々本能ノ定義ニ就テハ己ニ上文ニ列示シタル十四大家ノ所說ヲ以テ參考ノ資料ヲ得ルニ充分ナリト信スト雖也尙ホ其他一二有明家ノ定釋スル所ヲ追録スレハ——(イ)ホワイト(White)ハ本能トハ智力ハ存在セサルハ示指誘導シテ行爲ハ恰當ヲ得セシムル奮昂ナリト曰ヒ——(ロ)ホプキンス(Hopkins)ハ本能トハ整理的性質ヲ有スル奮昂ナリト曰ヒ——(ハ)ハミルトン(Hamilton)ハ本能トハ終ニ智力上ハ目的ヲ達



スルニ至ルヘキ一種ノ盲目的傾向ナリト曰ヒ——(二)ボン、ハ  
ルトマン(Von Hartmann)ハ本能トハ行フ者ニシテ自ラ其目  
的ハ何タルヲ認識セサルモ能ク之ニ到達スルヲ得ヘキ行  
爲ナリト曰ヘリ

(10) 感覺

(イ) 定義

感覺(ensation)トハ感官ハ外物ニ觸レテ其勢力ヲ内部ニ傳  
達スルハ心狀ハ上ニ隨生スル變動ナリ元ト心意ノ状態ハ  
其靜平ナルト恰モ水面ノ風竭ミ波取マリタルキノ如ク然  
リ然レモ一朝ソノ感官ノ外力ニ接スルニ方テハ忽チ之ヲ  
心裏ニ傳達スルヲ以テ心狀自ラ靜平ナル能ハス必ス一種

ノ變動ヲ隨生スルニ至ル而シテ其作用ノ性質ヲ論スレハ  
心意的活動中ノ最モ簡單ナルモノニシテ其効用タル唯是  
レ外界ノ勢力ヲ心裏ニ傳收スルニ過キサルヲ以テ固ヨリ  
知覺力(Perception)ノ如ク外物ノ性狀ヲ認識スルヲ得ス光  
線ハ發光體ヨリ發射スル勢力ニシテ音聲ハ發音體ヨリ發  
出ス勢力ナリ其他含味體ノ味勢ヲ發シ發香體ノ香氣ヲ出  
シ有形體ノ觸勢ヲ生スル等ミナ是レ感覺ノ本源ナラサル  
ハ莫シ即チ光線ノ視官ニ由リ音聲ノ聽官ヲ經テ心裏ニ内  
傳スルキハ心意ハ其之ヲ發出セル外物ノ本體ヲ認ムル能  
ハサルモ單ニ光線ト音聲トノ存在ヲ知得スヘシ味香觸ノ  
三勢力ニ就テ論スルモ亦々然リ之ヲ要スルニ感覺ノ本性



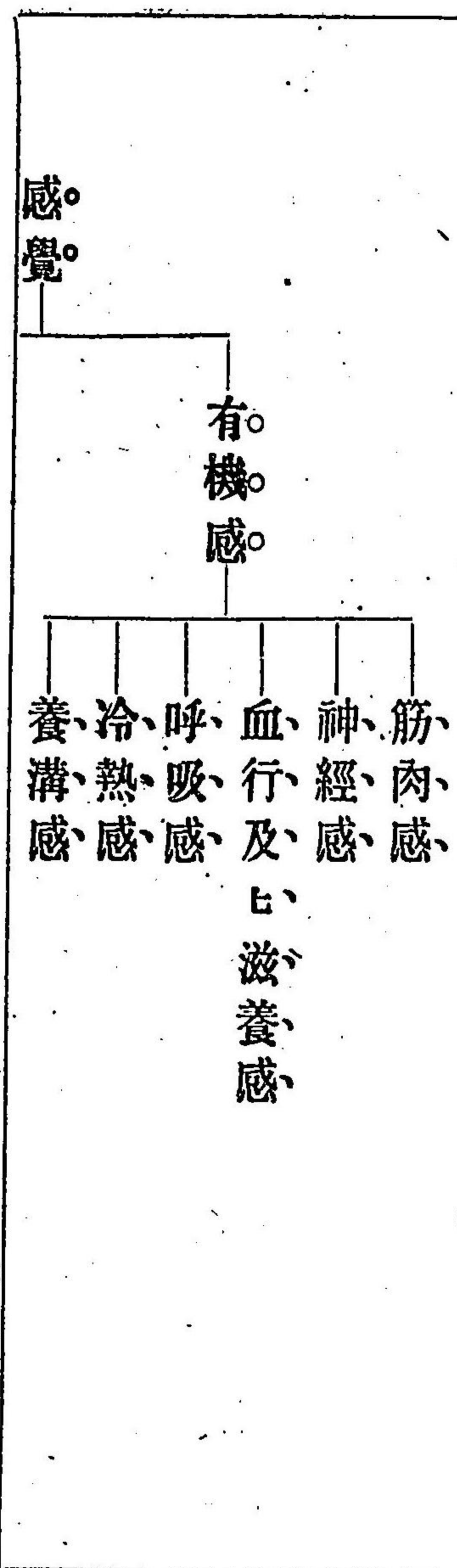
ハ神經ノ受動作用ニヨリテ外勢ノ存在ヲ知得スルニ止マ  
ルモノト知ルヘシ

(口)種別

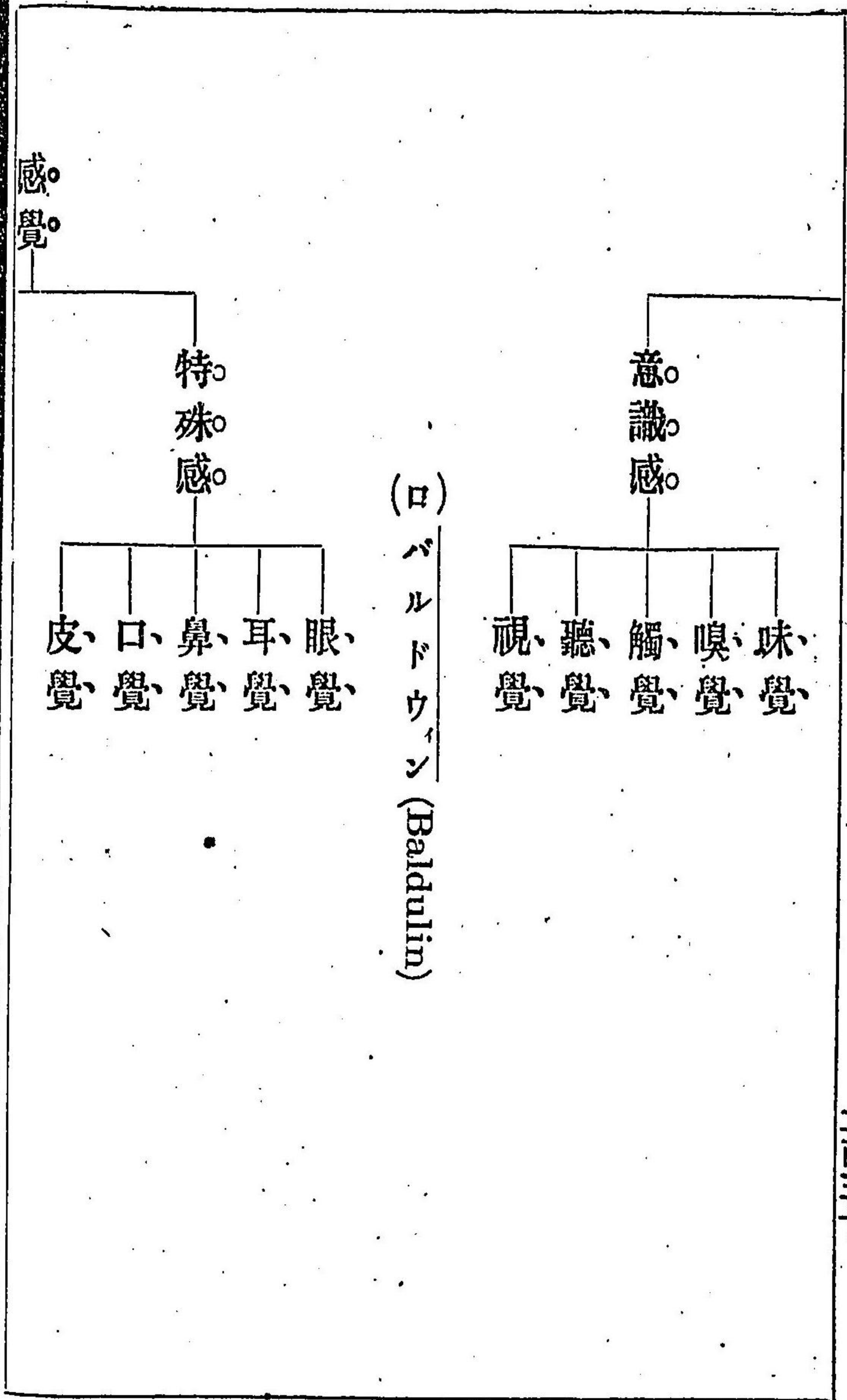
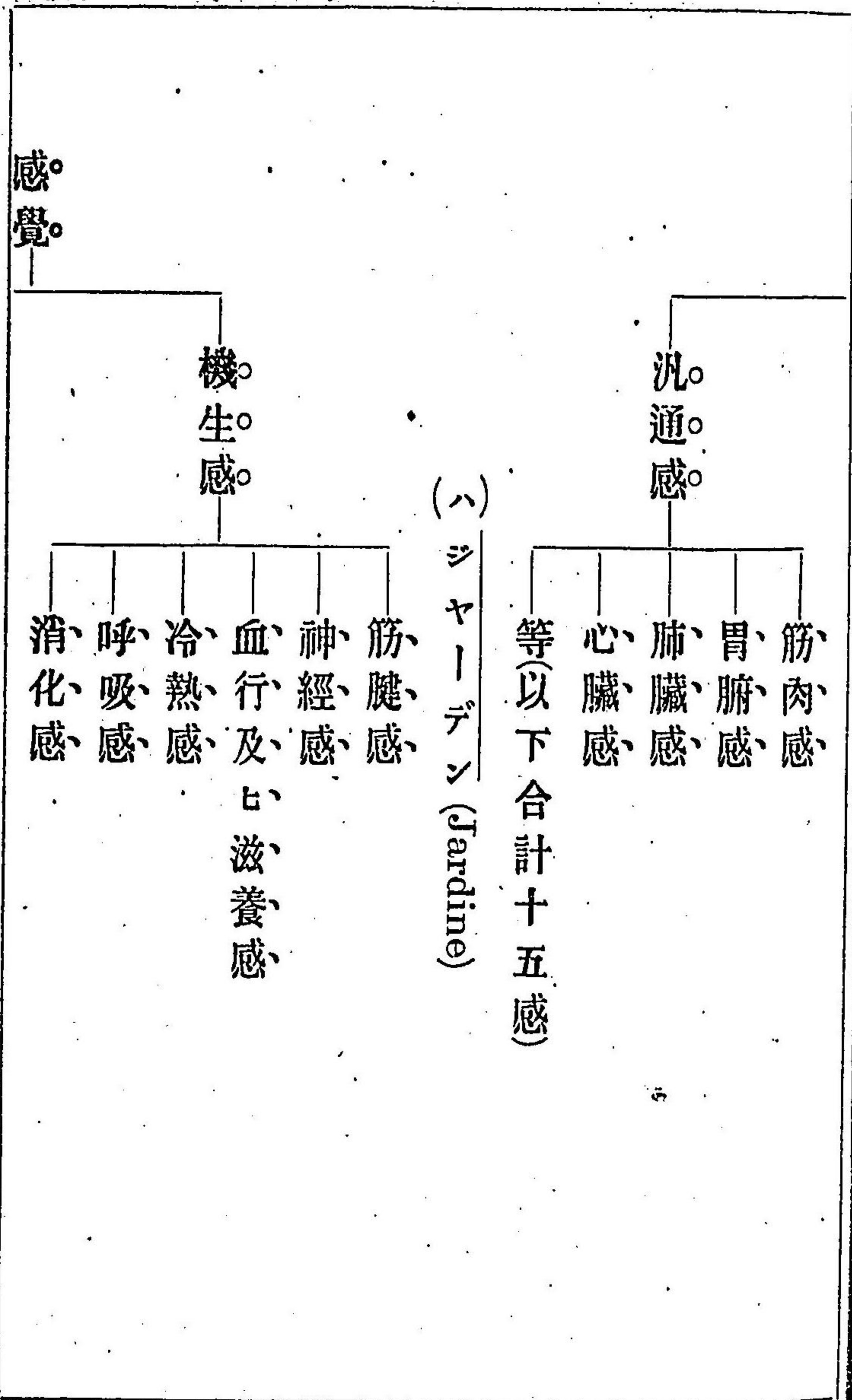
感。覺。(Sensation)ハ之ヲ大別シテ特殊感(Special Sensation)及ヒ  
汎。通。感。(General Sensation)ノ二種トス特殊感トハ所謂ル五官  
ノ作用ニ屬シ口鼻皮目耳ノ五門各、ソノ性質ヲ異ニシテ判  
然タル限界ヲ分立スルモノナリ汎。通。感トハ五官以外ニ在  
ル局部ノ受感作用ニ出テ明ニ一定ノ特性ヲ具ヘサルモノ  
ナリ即チ筋肉、心臟、神經、肺臟、等ヨリ生スル感。覺。ニシテ其苦  
樂ハ耳、目、鼻、口、等ヨリ生スル感。覺。ノ如ク顯然タル特性ヲ有  
シテ彼此相異ナル者ニアラス其受感ノ狀況汎漠ニシテ略

共通ノ性質ヲ有ス是レ此感。覺。ヲ名ケテ汎。通。感。ト曰フ所以  
ニシテバルドウインノ命名セル所ナリ然レトモ斯クノ如ク五  
官以外ニ數種ノ感。官。アルヲ發見シテ特ニ其作用ヲ條說  
シタルハ實ニペインノ創意ニ係レリ今夫レ感。覺。ノ種別法  
ニ就テ其特著ナルモノ一二ヲ列擧スレハ

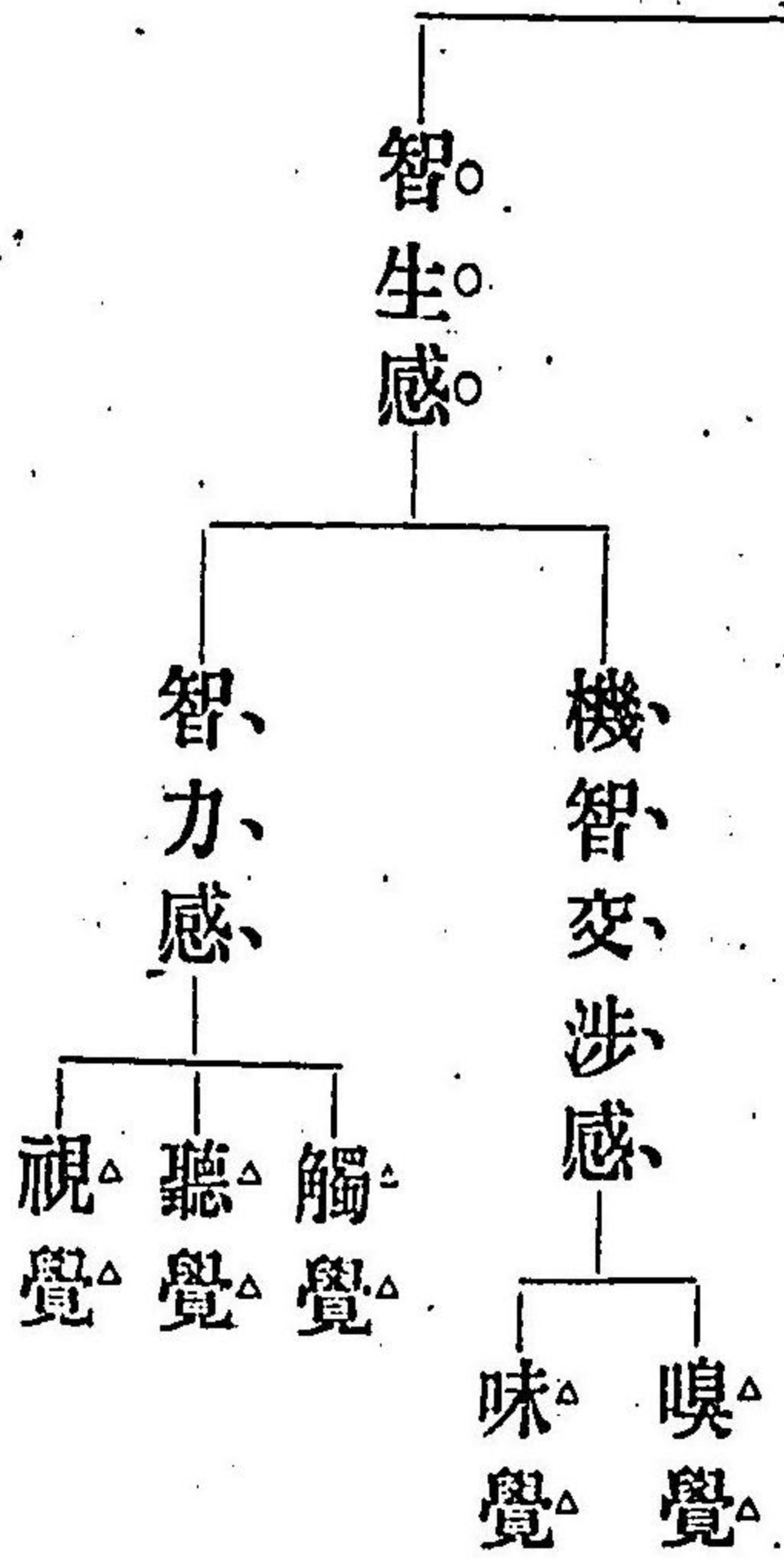
(イ)ペイン(Pain)











等ノ如シ而シテ今ヤ人ミナシヤードンノ種別法ヲ以テ完  
 全ヲ得タルモノト爲スト雖其本源ヲ溯ヌレハベインノ  
 種別法ヲ改補シタルニ過キス且ツ五官以外ノ感官ニ就テ  
 ハ未タベインノ創説セサル以前ニ於テ己ニセームスミル  
 ノ所説ナキニアラスト雖其種別ノ方法甚々明白ナラス  
 唯五官ヨリ生スル感覺ヲ名ケテ外部感(External Sensation)ト

曰ヒ其他ノ諸感ヲ總稱シテ無名感(Unamed Sensation)ト曰ヒ  
 更ニ此無名感ヲ細別シテ筋肉感ト養溝感トノ二種ト爲シ  
 タルノミ故ニ感覺ノ種別法ハベインニ至テ始メテ屹然タ  
 ル一新機軸ヲ出タシタルモノト知ル可シ  
 特殊感ヲ別稱シテ意識感(Conscious Sensation)ト曰フハ其  
 全ク體機ノ作用ヲ離レテ一ツニ心意ノ作用ニ屬スルヲ以  
 テナリ五官ノ機能ハ意識(Conscious)ノ息停セル睡眠中ニ  
 生セサルヲ見テ其然ルヲ知ル可シ又々之ヲ名ケテ智力感  
 (Intellectual Sensation)ト曰フガ如キモ其特ニ智力  
 ニ關係アルヲ以テノ故ノミ別ニ理由アルニアラス又々外  
 部感(External Sensation)ノ異稱アル所以ノモノハ五官ノ作



用ハ常ニ必ス外物ニ直接シテ其勢力ヲ感受スルニ由ルナ  
 リ  
 汎。通。感。ニ於テモ亦々特。殊。感。ニ均シク有。機。感。(Organic Sensa-  
 tion)無。名。感。(Unnamed Sensation)内。部。感。(Internal Sensation)等ノ  
 異稱アリ蓋シ有。機。感。トハ體官ニ屬スル有。機。作用。(Organic  
 Action)ニ基クモノニシテ呼吸、消化、等ノ如キハ全ク意識ノ  
 制裁ヲ離レ睡眠中ト雖モ猶ホ能ク其活動ヲ保續スルニ由  
 ルナリ無。名。感。トハ當時未タ明ニ命名スルヲ得サリシニ由  
 ルモノニシテ内。部。感。トハ筋肉、肺臟、等ノ如キ皆ナ身體ノ内  
 部ニ在リテ間接ニ外物ノ勢力ニ接スルヲ以テナリ而シテ  
 シヤードンハ智。生。感。ヲ細別シテ其中ニ機。智。交。渉。感。(Organ-

ico-Intellectual Sensation)ナルモノヲ創設セリ是レ味嗅ノ二  
 覺ハ有。機。作用ヨリ生スル體慾ニ關スルヲ多クシテ純然タ  
 ル智。力。的。作用ヲ有スルヲ少キヲ以テナリ又タリーランド  
 ハ汎。通。感。中ニ構。機。感。(Sexual Sensation)ナル一感覺ヲ加ヘテ  
 七種ト爲シバルドウンハ其總數ヲ十五種ト爲シタレモ僅  
 ニ四種ヲ明記シタルノミニシテ其餘ハ毫モ條舉例証スル  
 所ナシ  
 感。覺。ノ。種。別。法。ハ。上。文。ニ。列。示。ス。ル。如。ク。諸。家。各。ソ。ノ。所。見。ヲ。異  
 ニセリト雖モ吾輩ハ自ラ其粹ヲ抜キテ左記ノ順序方法ニ  
 從テ之ヲ講述スヘシ

(甲)特殊感



(h) 味覺

(a) 定義

味覺(Gustatory Sensation)トハ味官ノ媒介ニヨリ含味體ハ勢力ヲ内傳スルハ腦中ノ味覺神經叢ニ生スル感覺ナリ夫レ外界ニ在ル飲食物等ハ皆是レ含味の物體ニシテ各一種特著ノ味勢ヲ有スル者ナリ味官ノ機能ハ即チ此等ノ勢力ヲ媒導シテ内界ニ傳達セシメ以テ此味覺ヲ生セシムル者ト知ル可シ然レ味覺ノ品位ヲ論スルハ心理學上ニ於テハ之ヲ最下等ニ置クヲ常トス蓋シ味覺ノ作用ハ心意上ニ關スルヲ少クシテ體機ノ促進ヨリ生スル體慾上ニ關スルヲ多キヲ以テナリ飲食已ニ體慾ノ範圍ニ屬スト雖味覺

ニヨリテ外界ノ諸味ヲ知得シ及ヒ識別スルヲハ固ヨリ智力上ニ關スルモノナリ

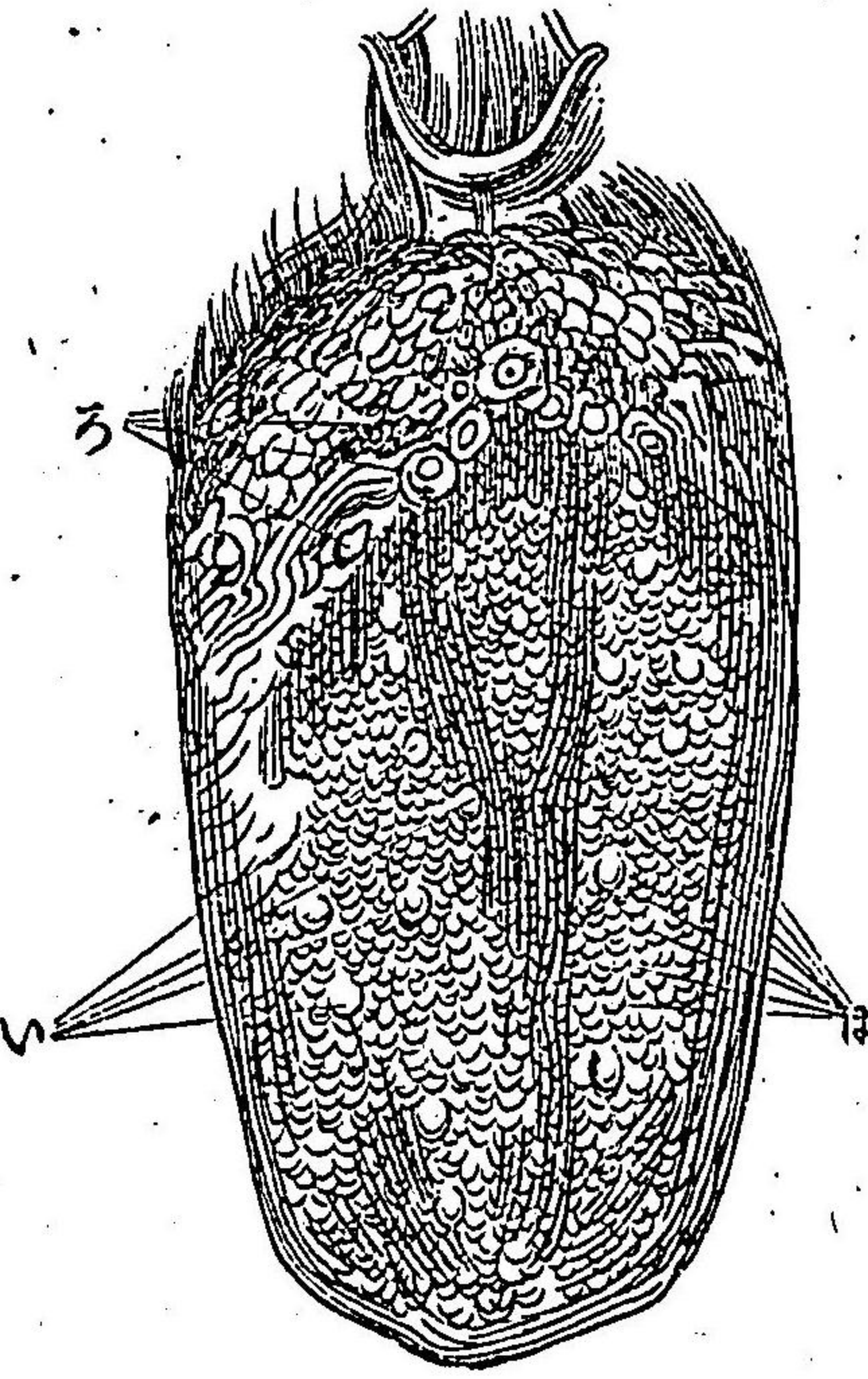
(b) 官機

味覺ヲ司ル官機(Sense Organ)ハ舌味覺神經及ヒ味覺神經叢會ノ三者ヨリ成ルツニ之ヲ名ケテ味器(Gustatory Apparatus)ト曰フ其位置ハ養溝ノ門口ニ在リテ受感ノ局部ハ概ネ舌表ヲ主トスルモ舌中央ハ鈍弱ニシテ舌根舌邊及ヒ舌端ハ強銳ナリ然レ苦味ハ舌根ニ感スルヲ最モ強ク酸味ハ舌頭ヲ刺衝スルヲ特ニ著シ而シテ甘鹹ノ二味ハ端根同一ニシテ滋味ハ專ラ舌邊ニ感シ易シ嗜味ハ舌端ヨリ舌根ニ至ルニ隨ヒ其受感漸ク強銳ナリ



舌ノ上表ニハ乳頭(Papillae)ト名クル小隆起體アリ其形狀ノ  
 乳房ニ似タルヲ以テナリ皆ナ其中ニ血管ト神經トヲ保有  
 ス即チ味勢ノ受感口ナリ之ヲ分テ大乳頭、中乳頭、及ヒ小乳  
 頭ノ三種トス大乳頭ハ其數八個乃至十五個ニシテ其形扁  
 平ナリ舌根ニ於テV字形ヲ成シ自ラ二列ノ銳角ヲ呈ス中  
 乳頭ハ一種ノ圓形的隆起體ニシテ舌央及ヒ舌前ニ散在シ  
 舌端ニ近ツクニ及テ其數最モ多シ小乳頭ハ其形圓錐狀ニ  
 シテ其個數最モ多ク幾ンド舌面ノ全部ニ散在シ舌根ニ至  
 テ漸ク跡ヲ沒ス即チ左記ノ圖解ニ就テ其然ルヲ知ル可シ

舌 表 全 圖



「し」ハ中乳頭  
 「ろ」ハ大乳頭  
 「は」ハ小乳頭

舌中ニアル主要ノ神經ハ舌咽神經ト三叉神經トノ二種ナ  
 レ味覺ヲ司ル神經ハ之ヲ分テ

- (1) 固有的味覺神經
- (2) 觸覺的味覺神經



(3) 養溝的味覺神經

ノ三種ト爲ス固有的味覺神經ハ即チ舌咽神經ニシテ本味  
(Taste Proper)ト名クル固有ノ味勢ヲ媒介スルモノナリ觸覺  
的味覺神經ハ皮膚ニ散布セル觸覺神經ト同種ノ神經ニシ  
テ飲食物ノ冷熱硬軟形狀等ヲ感別スル機能ヲ有シ養溝的  
味覺神經トハ腸胃ト交渉セル神經ニシテ嗜味 (Relish)ト名  
クル一種ノ味勢ヲ司ルモノナリ而シテ本味及ヒ嗜味ノ  
ハ味覺ノ種別ニ至テ詳説スヘシ

(c) 物質

味官ノ感受スヘキ物質 (Materials)ノ勢力ハ冷ク動植礦ノ三  
體ヨリ發スル勢力ヲ包含スト雖モ之ヲ類別スレハ

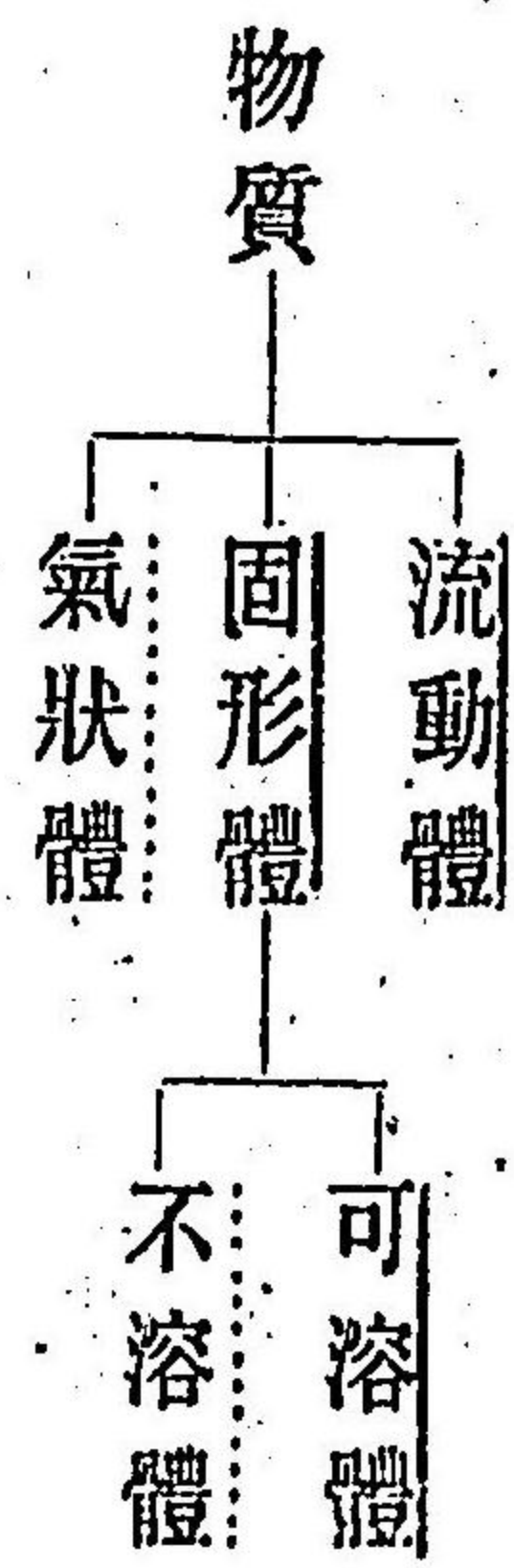
(1) 流動體  
(2) 可溶體

ノ二種ニ過キス流動體ハ水、酒、酸、油、等ノ物類ニシテ精粗強  
弱ノ別コソアレ一ツトシテ感受ス可カラサルモノナシ固  
形體ニハ可溶體ト不溶體トノ二種アリテ可溶體ノ味勢ハ  
之ヲ感受スルヲ得ヘシト雖モ不溶體ニ至テハ其勢力ヲ傳  
達スルニ由ナシ乾魚、糖塊、干餅、等ノ如キハ可溶體ニシテ唾  
液ノ混和ヲ受クヘキ性質ヲ有スルガ故ニ全ク水分ヲ包含  
セサルモ猶ホ能ク其味勢ヲ覺知スルヲ得ヘシ、鑛類中ニ  
テモ鐵、鉛、等ノ如キハ可溶性ヲ具フルト最モ大ナリ硝子、硅  
石、陶器、漆器、水晶、等ノ如キハ唾液ニ遭フモ決シテ溶解スル



ナキヲ以テ不溶體ニ屬ス即チ心理學上ノ無味體ナリ水  
 飯等ノ如キハ世俗ノ所謂ル無味物ナレモ心理學上ニ於テ  
 ハ猶ホ其味勢アルヲ確認スベインノ水ヲ以テ無味ナリ  
 ト爲スガ如キ謬妄ノ甚シキモノト謂フ可シ氣狀體ニ至テ  
 ハ毫モ味官ニ感スヘキ勢力ヲ有セス空氣蒸氣等ノ如キ是  
 レナリ煙草ノ煙ノ如キ間舌表ヲ刺衝スルヲナキニアラス  
 ト雖モ斯クノ如キハ一種ノ氣狀體タル煙ノ味官ニ感シタ  
 ルニアラスシテ煙中ニ包含セル煙脂ノ唾液ト混和シテ流  
 動體ニ變化シタルニ由ルノミ決シテ氣狀體ノ性質ヲ有ス  
 ル煙ソノ物ヲ感受シタルニアラサルナリ是ニ由テ之ヲ觀  
 レハ味官ノ感受スヘキ物勢ハ動植礦ノ三質ニ通シテ流動

體ト固形體中ノ可溶體トニ止マリテ氣狀體ノ全部ト固形  
 體ノ一部ナル不溶體ヲ包含セサルモノト知ル可シ即チ味  
 官ハ天地ヲ二分シテ其一半ヲ覺取スルモノナリ今之ヲ圖  
 解スレハ



ノ如ク天地ノ廣キ物質ノ多キモ榜柱アル部分ハ可覺性ヲ  
 有スル者ニシテ點線ヲ附シタル部分ハ感受ス可キ味勢ヲ  
 有セサルモノナリ今モシ絶對的論法ヲ以テ之ヲ極論スレ  
 ハ天地間ノ萬物盡ク味勢ヲ有スルモ未タ知ル可カラスト



雖味覺神經ノ之ヲ傳達セザル以上ハ姑ラク以テ無味ナ  
リト爲サ、ルヲ得ス凡ソ勢力ノ存否ハ唯感官ノ之ヲ傳フ  
ルト否ラサルトニ由リテ之ヲ判定ス可キノミ感官以外豈  
ニ物勢ノ存否ヲ證明ス可キ標準アラシヤ

(d) 境遇

凡ソ感官ノ物勢ヲ感受スル必ス境遇 (Circumstance) ノ宜シ  
キヲ得サル可カラス若シ感官ニシテ境遇ノ宜シキヲ得サ  
ルコトアラシカ縱令ヒ幾百ノ可覺體ニ接スルモ寸勢ノ以テ  
傳フ可キナシ即チ順境ニ在ル者ハ能ク感受シ逆境ニ立ツ  
者ハ遂ニ外勢ヲ傳達スルヲ得サルナリ是レ各種ノ感覺上  
ソノ境遇ヲ細論スルノ已ムヲ得サル所以ナリ今コノ味覺

ニ就テ其境遇ノ要條ヲ列舉スレハ

- (1) 滋潤
- (2) 温度
- (3) 物量
- (4) 時間
- (5) 接觸
- (6) 壓力
- (7) 覺醒
- (8) 健全
- (9) 單純

ノ九項アリ乃チ左ニ之ヲ逐論スヘシ



滋潤トハ味官ノ食物ニ接スルキ口中ニハ必ス濕氣水分ヲ要スルノ謂ナリ口中モシ全ク乾燥シテ一滴ノ潤ナク食物マタ干涸シテ毫末ノ水分ヲ留メサルキハ如何ニ強大ノ味勢ヲ有スル食物ニテモ其味官ニ感應セサルヲ無味體ニ接スルト一般ノミ發熱スルキ眠醒メテ舌表ヲ輕摩スレハ其全ク乾涸セルヲ皮膚ニ異ナラサルヲ覺ユルヲアルヘシ此時モシ干魚煎餅等ヲ舌表ニ試觸セシムレハ果シテ如何ナル感覺ヲ生スヘキヤ其漸ク唾液ヲ分泌シテ舌表ノ滋潤ヲ復スルニ至ルマデハ強性ノ味勢モ全ク之ヲ心裏ニ内傳スルニ由チキナリ乃チ滋潤愈大ニシテ食物ノ可溶性愈大ナルキハ味官ノ味勢ヲ感受スルヲモ亦々愈大ナリト知ル可

シ是レ味覺ノ境遇ニハ滋潤ヲ以テ之ガ第一ノ要項ト爲ササル可カラサル所以ナリ  
 温度トハ飲食スルキ味官ヲシテ其固有ノ血温ヲ保持セシムルノ謂ナリ如何ナル味勢ヲ有スル飲食ニテモ非常ニ寒冷ナルカ若クハ極度ノ温熱ヲ有スルキハ味官ノ之ニ接スルヲアルモ其結果タル恰モ無味ノ物質ニ觸ル、ト同一一般ナリ故ニ味官ヲシテ正當ニ味勢ヲ感別セシメント欲セハ必ス飲食物ノ温度ヲシテ血温ト平等ナラシメサル可カラサルナリ夏日食用スル氷菓子ノ如キ其温度非常ニ降下セラルガ故ニ其舌表ニ觸レタル瞬間ニ於テハ全ク其味勢ヲ感スルヲナク唯ソノ急ニ舌温ヲ奪ヒ去ルガ爲メ一種ノ苦痛



チ覺ユルノミ暫クアリテ稍之ガ温度ヲ本復スルニ及テ漸ク其眞味ヲ覺知スルニ至ルヘシ又々沸騰セル味噌汁、燒キタテノ燒芋等ノ如キ非常ニ高度ノ温熱ヲ有スル者ハ味官ノ之ニ觸ル、モ遂ニ其味勢ヲ感受ス可カラザル、前段ニ所謂ル極冷ノ飲食物ニ均キナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ味覺ヲシテ完全ナル作用ヲ得セシメント欲セハ必ス之ヲシテ血温即チ攝氏三十七度ノ温熱ヲ保持セシメサル可カラサルナリ即チ三十七度ノ飲料及ヒ食物ハ味官ノ媒介ヲ經テ能ク其味勢ヲ充分ニ心裏ニ内傳スル、チ得ヘキモ之ヨリ昇降スルモノハ其度位ニ從テ漸ク味覺ノ完全ヲ亡フモノト知ル可シ

物量トハ味覺ヲ激作スルニ足ルヘキ物勢ノ分量ナリ、最近心理的物理学(Psycho-Physics)ノ證明スル所ニ據レハ外界ノ物勢ニシテ其量度ノ微少ナルモノハ縱令ヒ感官ノ神經末端ヲ刺衝スルモ遂ニ高等中樞タル心府ニ達スル能ハスシテ止ムモノ多シト云フ果シテ然ラハ吾人ノ感官ニ接觸スル光音等ノ諸勢力モ未タ下等中樞ニスラ達スル能ハスシテ空シク神經纖維中ニ埋没セラル、者其數實ニ幾萬ナルヲ知ル可カラサルナリ是レ味覺ノ境遇上ニ於テ物量ノ一項ヲ要スル所以ナリ一匙量ノ砂糖モ之ヲ嘗ムレハ能ク其味勢ヲ覺知スヘシト雖田之ヲ井中ニ投シテ其水ヲ飲試セハ其澹白無味ナル、毫モ單純ノ清水ニ異ナラサルナリ是



レ匙中ノ砂糖深井ニ入リテ全ク消失シ去リタルニ由ルニ  
 アラス其物質ハ依然トシテ猶ホ現存スレト其味官ニ觸ル  
 ヘキ物量ノ稀薄ニ傾キタルガ爲ニ其勢力ノ遂ニ味官ヲ經  
 テ高等中樞ニ達スル能ハサルニ由ルノミ故ニ嚴密ニ之ヲ  
 極論スレハ數日ヲ費シテ其井水ヲ飲ミ盡セハ其味官ニ接  
 觸スル砂糖ノ實量ハ匙中ニ在リタルト同一ニシテ唯一  
 時ニ嘗試スルト數日ニ涉リテ飲用スルトノ差異アルノミ  
 然ルニ匙中ニ在リタルトハ明ニ其味勢ヲ覺知スルモ己ニ  
 井中ニ入リテ大量ノ水ト混和スルトハ恰モ無味ニ均シキ  
 ニ至ル所以ノモノハ何ソヤ他ナシ同時ニ味官ヲ刺激スヘ  
 キ物量ノ多少ニ職由スルナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ縱令ヒ

物勢ノ實量ハ同一ナルモ其感官ニ接觸スル物量ノ同時  
 ニ於テ同一ナラザルトハ其受感上ニ於テモ亦タ必ス同一  
 ノ成蹟ヲ生セサルモノト知ル可シ是レ獨リ此味感ニ就テ  
 ノミ然ルニアラス其他ノ諸官ミナ亦タ同一轍ニ屬スルモ  
 ノナリ

時間トハ飲料及ヒ食物ノ味官ニ接觸セル經過ノ長短ヲ云  
 フナリ縱令ヒ其物量充分ニシテ温度ノ宜シキヲ得ルノミ  
 ナラス味官ヲシテ味勢ヲ感受スルニ足ルヘキ完全ノ滋潤  
 アラシムルモ其舌表ヲ經過スル時間ノ非常ニ迅速ナルト  
 ハ味官アリト雖ト其味勢ヲ充分ニ感識ス可カラサルト恰  
 モ味官ナキニ均シキナリ故ニ其舌上ヲ經過スル時間ハ成



ル可ク之ヲ長カラシムルヲ要ス均シク是レ不快ノ味勢ヲ有スル藥品ナリ之ヲ丸藥トシテ飲下スルト之ヲ細末ニシテ服用スルト其之ヲ味官ニ感受スルヲ孰レカ最モ大ナルヤ苟モ此種ノ實驗アル者ハ已ニ自ラ其結果ノ同一ナラサルヲ明知スヘシ是レ他ナシ丸藥ト爲シテ用フル場合ニ於テハ獨リ其溶解ノ遲緩ナルノミナラス自ラ其飲下ノ急速ニシテ舌表ヲ經過スル時間ノ短キニ由ルナリ然ルニ細末ト爲シテ用フルキハ其舌面ニ粘着シテ經過ノ時間非常ニ久シキニ及ブガ故ニ同質同量ノ物體ニテモ之ヲ感受スル一更ニ強銳ナリ醫師ガ患者ノ服用シ難キ藥品ヲ丸藥ト爲スガ如キハ畢竟スルニ其經過ノ時間ヲ短フシテ固有ノ味

勢ヲ感受スル分量ヲ減殺スルノ方策ニ出テタルモノナリ故ニ心理學ノ正面ヨリ論斷スレハ丸藥ノ如キハ患者ノ苦痛ヲ減少スルノ效力コソアレ味勢ニ對スル正當ノ觀念ヲ造成セシメサルモノト謂フ可シ服藥ノ場合ノ如キハ實ニ萬止ムヲ得サルニ出テタルモノナレハ敢テ咎ムルヲ欲セサレ田其然ラサルモノニシテ謂ハレナク其經過ノ時間ヲ迅速ナラシムルガ如キハ觀念ノ啓發上決シテ正當ノ處置ニアラサルナリ茶漬飯ヲ用フル場合ノ如キ其一例ナリ飯ノ眞味ヲ感知スルハ全ク湯茶ヲ注カスシテ緩食スルキニ在リ茶漬飯ヲ急食スルキハ唯飯粒ノ舌上ヲ急過スルヲ覺ユルノミ甚シキハ其米飯タリ麥飯タルヲスラ辨別ス可カ



ラサルナキニアラス是レ味覺上ニ於テ時間ヲ以テ其境  
 遇ノ一要項ト爲ス所以ナリ  
 接觸トハ飲食物ノ舌表ニ直接スルノ謂ナリ如何ニ強盛ナ  
 ル味勢ヲ有スル物體ニテモ味官ニ觸ル、ナケレハ其勢  
 カチ心界ニ傳達スルニ由ナキハ最モ明白ナル事實ナリ砂  
 糖ノ甘ク芥子ノ辛キモ皆ナ是レ接觸ノ結果ニ外ナラサル  
 ナリ而シテ接觸ノ必要ナルハ諸官ミナ然リ豈ニ獨リ味官  
 ノミナランヤ然レモ味官ニ於テハ其必要ヲ見ルコト特ニ大  
 ナリトス  
 壓搾トハ味覺ノ境遇上ニ於テ食物ノ接觸ヲ完全ナラシム  
 ル一要項ナリ已ニ接觸アリト雖モ舌ト上顎トノ間ニ於テ

食物ヲ壓搾セサレハ充分ニ其味勢ヲ感受ス可カラサルナ  
 リ飲料ノ如キハ單ニ接觸ノミニテ充分ナリト雖モ食物ニ  
 至テハ必ス壓搾ヲ行ハサル可カラス若シ否ラスシテ之ヲ  
 食スルキハ其味勢ノ大半ハ空シク舌表ヲ經過シテ之ヲ心  
 裏ニ移達スル能ハサルヘシ即チ其結果タル物量ノ過少ナ  
 ルキト同一ノ現象ヲ生スヘシ蓋シ壓搾ヲ施スキハ食物ノ  
 面積悉ク舌表ニ直接シテ能ク乳頭間ノ際隙ニ周觸スルヲ  
 得ヘケレハナリ是レ味覺ニ於テハ已ニ接觸ノ一項ヲ要ス  
 ルモ猶ホ此一項ヲ添加セサル可カラサル所以ナリ  
 覺醒トハ受感ノキ意識ノ作用完全ナルヲ要スルヲ云フナ  
 リ吾人苟モ生命アル以上ハ夢幻ノ間酩酊ノ中ト雖モ猶ホ



多少ノ意識ヲ存セサルニアラス隨テ全ク受感ナキニアラサルヘシト雖其印象芒漠暗昧ニシテ細認ス可カラス故ニ夢境幻界若クハ酩酊中ニ在テ生シタル受感ハ縱令ヒ幾分ノ痕跡ヲ留ムルモ決シテ精明ナル能ハサルナリ所謂熟睡(Complete Sleep)ノ境涯ニ於テハ劇烈ノ味勢モ尙且ツ一時感セサルナキニアラス而シテ一タビ之ニ接スルルハ漸ク一種ノ夢境ニ入リテ略ホ之ヲ覺知シ其終ニ全ク覺醒スルニ至テ始メテ之ガ眞勢ヲ詳ニスルヲ得ヘシ受感ノ必ス覺醒中ニ行ハサル可カラサルヲ以テ知ル可キナリ是レ獨リ此味覺ノミナラス各種ノ感覺ニ於テモ其境遇中必ス覺醒ノ一項ヲ要スル所以ナリ

健全トハ外勢ニ接スルルル身心ノ常態ヲ失スルナキヲ云フナリ若シ病ニ罹リテ發熱シ又ハ負傷ニヨリテ味官ヲ害シ又ハ不幸ニ際會シテ悲哀鬱憂ヲ催フシタルル味勢ニ接スルヲアラハ啻ニ其十分ノ一ヲモ感受スル能ハサルノミナラス往々之ガ爲ニ一種ノ幻影ヲ生シテ意外ナル謬感ヲ生スルヲナキニ非ス發熱ノ非常ナルル砂糖ヲ嘗メテ苦味ヲ覺ユルガ如キ是レナリ故ニ獨リ味勢ノミナラス凡ソ各種ノ物勢ニ接シテ其天真ノ性狀ヲ詳ニセント欲セハ必ス身心ノ常態ヲ得テ無病靜平ノ時期ヲ撰ハサル可カラサルナリ故ニ苟モ健全ヲ失ヒタルルニ於テ試行シタル受感ハ決シテ其精確ヲ得サルモノト知ル可シ



單純トハ同時ニ各種ノ物勢ニ雜接セサルノ謂ナリ吾人苟  
 モ前述ノ諸項ヲ完備シテ外勢ニ接觸スルキハ其單純ナル  
 ト否ラサルトニ論ナク神經ハ必ス之ヲ感受セサルトナシ  
 ト雖モ吾人ノ意識ハ同時ニ數勢ヲ辨別スル能ハサルナリ  
 是レ心意ノ作用ト神經ノ内傳ト始終同一ナル能ハサル所  
 以ナリ故ニ各勢ニ接スル必ス之ヲ別個ニ感受セサル可カ  
 ラス今コノ味勢ニ就テ之ヲ例證スレハ其始メテ之ニ接ス  
 ルキ必ス甘、苦、辛、酸、鹹等ヲ別個ニ感受セシメ以テ其各味ノ  
 觀念ヲ完造セシメサル可カラサルガ如キ是レナリ已ニシ  
 テ一たび各勢ノ性狀ヲ詳ニシ以テ其觀念ヲ完成スルニ至  
 ラハ時ニ或ハ之ヲ雜感セシムルモ可ナリト雖モ心理學上

ヨリ論スルキハ各種ノ物勢ニ對スル感受ハ必ス之ヲ別個  
 ニ行ハサル可カラサルナリ何トナレハ心理學ノ目的ハ吾  
 人ヲシテ外界ノ物勢ニ對スル正當ハ觀念ヲ造成セシムル  
 ニ在レハナリ

以上列擧スル所ノ九項ハ吾人ノ味覺ヲ完全ナラシムルニ  
 最モ必須ナル境遇ナリ故ニ苟モ其一項若クハ數項ヲ欠ク  
 トアラハ決シテ完全ナル味覺ヲ得ル能ハサルナリ之ヲ換  
 言スレハ欠ク所ノ項數愈多ケレハ其感受スル所愈完全ヲ  
 失フニ至ルヘシ

(e) 種別

味覺トハ味官ノ内傳スル物勢ノ結果ニシテ其類多シト雖



所要スルニ之ヲ大別シテ

(1) 嗜味 (Relish)

(2) 本味 (Taste Proper)

(3) 觸味 (Tactile Taste)

ノ三種ト爲スヲ常トス是レペインノ創設スル所ナリ  
嗜味トハ腸胃ノ交渉補成ニヨリテ生スル味覺ニシテ佛書  
ノ所謂ル淡味ニ均シキモノナリ蓋シ此種ノ味覺ハ甘、苦、辛、  
酸等ノ諸味ノ如ク言語ノ特ニ命狀スヘキナシト雖モ消化  
機ノ狀況健全ニシテ饑渴ヲ生スルルハ能ク之ヲ感受ス可  
キモ其否ラスシテ饑渴ヲ生セサルカ若クハ健全ナルモ飲  
食後滿腹セルルルニ際シテハ全ク之ヲ感受セサルノミナラ

ス却テ一種ノ不快ヲ覺ヘ甚シキハ之ガ爲ニ嘔吐ヲ催フス  
ニ至ルヘシ是レ一ツニ之ヲ名ケテ消化的味覺 (Digestive Ta-  
ste) 又ハ養溝的味覺 (Alimentary Taste) ト曰フ所以ナリ湯、水、飯、  
等ニ接シテ生スル所ノ味覺ノ如キ是レナリ即チ一言以テ  
之ヲ蔽約スレハ淡水、脂肪、澱粉質、蛋白質等ヨリ生スル諸味  
ハ總テ此種類ニ屬スルモノト知ル可シ凡俗ハ是等ノ物質  
ヨリ生スル味勢ヲ誤認シテ無味 (Tasteless) ナリト爲スモ唯、  
是レ言語ノ以テ命狀ス可カラサルノミ決シテ味勢ナキニ  
アラサルナリ若シ之ヲシテ眞ニ無味ナラシメハ饑渴スル  
ルニ際シテ之ニ接スルモ不快ヲ覺ユルナカルヘシ然ル



ニ其全ク否ラサルモノハ是等ノ諸物自ラ一種ノ味勢ヲ有  
 スルノ致ス所ナリ硝子、水晶、陶器等ノ如キハ其物質ノ自體  
 ニ於テ一種ノ絶對的味勢ヲ有スルモ未タ知ル可カラスト  
 雖田唾液ノ溶解ヲ受ケサルヲ以テ味官ニ向テハ寸勢ヲ傳  
 フルニ由ナシ故ニ消化機ノ健全ナルキ之ニ接スルモ寸分  
 ノ快樂ナク其不健全若クハ滿腹ノキ之ニ觸ル、モ亦々毫  
 モ不快ヲ覺ユルナシ是レ則チ心理學上ノ所謂ル無味體  
 (Tasteless Substance) ナレハナリ讀者宜シク嗜味ト無味トノ  
 區別ヲ誤ルナ勿ルヘシ  
 本味トハ味官本然ノ味覺ニシテ全ク他官ノ補成交渉ヲ受  
 ケサルモノナリ之ヲ約言スレハ味官ノ獨立作用ヨリ生ス

ル味覺ナリ故ニ一ツニ之ヲ名ケテ固有的味覺ト曰フ即チ  
 純正ナル味覺ハ單ニ此一種ニ止マルモノト知ル可シ甘味  
 及ヒ苦味ノ如キ則チ然リ此二味ハ全ク腸胃ノ狀況ニ關セ  
 ス又々觸覺、視覺等ノ交補ヲ受クルナシ故ニ病故、負傷等  
 ニヨリテ味官ノ健全ヲ害ハサル以上ハ滿腹セルキモ饑渴  
 セルキモ其感受スル所毫モ相異ナルナシ而シテ此二味  
 ヨリ生スル苦樂ニ至テハ消化機ノ狀況ニヨリテ多少ノ差  
 異ナキニアラスト雖田其味勢ヲ感受スルノ度位ニ至リテ  
 ハ決シテ増減アルナキナリ滿腹若クハ嘔吐ヲ催シタル  
 片ニ於テハ甘苦共ニ一種ノ不快ヲ生ス嘔心アルキ甘味ニ  
 接スル場合ノ如キ殊ニ然リ然レ田其感覺ニ至テハ依然ト



シテ更ハルヲナシ固ヨリ病故、負傷等ニヨリテ味官ニ變動ヲ生シタル片ノ如キ結果ヲ生セサルナリ是レ此一種ノ味覺ヲ各ケテ本味ト曰フ所以ナリ  
 觸味トハ觸覺ハ交渉補成ヨリ生スル味覺ニシテ其味覺本然ノ獨立作用ヲ有セサルヲ恰モ嗜味ニ異ナラサルナリ故ニ觸覺ノ活動銳敏ナル片ハ隨テ之ヲ感受スルヲ亦々強烈ナリト雖モ麻痺等ニヨリテ觸覺ノ銳敏ナラサル片ハ又々隨テ其感受スル所強烈ナル能ハサルナリ辛味酸味及ヒ鹹味ノ如キ是レナリ本來コノ三味ハ觸覺ノ作用ニ基クモノナルヲ以テ縱令ヒ生レナカラニシテ味官ノ不具ナルカ若クハ全ク之ヲ具有セサル等ノトアルモ皮膚ニ由リテ粗ホ

之ガ觀念ヲ造成スルヲ得ヘシ甘苦ノ二味ハ味官以外ニ於テハ全ク其勢力ヲ感受スルニ由ナシト雖モ此三種ノ味勢ニ至テハ苟モ觸覺神經ノ及フ所必ス多少ノ感覺ナキニアラサルナリ唇端、鼻膜、眼瞼等ノ如キ表皮ノ軟薄ナル部分ニ於テハ其感覺殊ニ強烈ナリトス唯舌表ニ於テ感受スル片ノ如ク精明ナラサルノミ蓋シ味官ニ於テハ味覺神經ト觸覺神經トノ合動ニ由リテ感覺ヲ生スルガ故ニ真正ノ觸味ヲ知ルヲ得ヘキモ觸覺神經ノミヲ散布セル局部ニ於テハ其感受ノ度位之ニ及フ能ハサルナリ  
 (f) 交渉  
 味覺本然ハ作用タル本味ノ如キハ固ヨリ他官ノ交渉補成



ヲ受クルノ必要ナキモ本來獨立性ノ作用ヲ有セサル嗜味ト觸味トノ如キハ他官ノ幫助ニヨリテ其活動ヲ全フスルヲ多シ而シテ味覺ニ向テ特ニ重大ノ關係ヲ有スルモノハ

(1) 嗅覺 (Olfactory Sensation)

(2) 視覺 (Optic Sensation)

(3) 養溝感 (Alimentary Sensation)

(4) 觸覺 (Tactile Sensation)

ノ四種ナリ

嗅覺ハ特ニ嗜味ヲ補成スルモノニシテ蒲燒、海苔等ヲ食スル場合ノ如キ最も著明ナリトス若シ吾人ヲシテ全ク嗅覺ノ補成ヲ籍ルヲナク單ニ味官ノミヲ以テ飲食ヲ攝取セシ

メハ鰻ノ蒲燒ノ如キハ平常ニ感受スル十分一ノ味勢ヲモ感受スル能ハサルヘシ殊ニ海苔ノ如キニ至テハ其無味ナルヲ恰モ廢紙ヲ咬ムト同一一般ナラシノミ感冒等ニヨリテ嗅覺ノ鋭敏ナラサルキニ於テハ是等ノ食物ハ幾ンド味覺ニ感應セサルモノナリト曰フモ可ナリ若シ蒲燒、海苔等ノ嗜味の食物ニシテ味覺ヲ激作スヘキ香氣ナカラシメンカ猶ホ是レ月ニシテ光ナク花ニシテ色ナキガ如シ感覺上半鏡ノ價ナキモノト謂フ可シ其他嗜味ニ適合スル各種ノ飲食ハ必ス嗅覺ヨリ多少ヲ交補ヲ受ケサルヲナシ而シテ蒲燒、海苔等ノ如キハ嗅覺ノ幫助ヲ要スルヲ特ニ著大ナルモノナリ



視。覺。モ亦々特ニ嗜。味。ニ向テ交渉ヲ及ホスモノナリ食物ノ  
 彩色、食器ノ清美等ノ味。覺。ヲ補成スルガ如キ是レナリ縱令  
 其質味ノ同一ナルカ又ハ少シク劣等ナル飲食ニテモ着  
 色ノ宜シキヲ得テ食器ノ清美ナルキハ大ニ其感覺ヲ強烈  
 ナラシム可シ小兒ガ赤キ餅ヲ悦テ白キ餅ヲ採ラサルガ如  
 キ大人ガ敗器ニ容レタル美味ヲ食シテ美味ナリトセス却  
 テ銀盤ニ盛りタル粗食ヲ以テ旨シト爲スガ如キ知ラス識  
 ラス其自然ノ行爲上ニ於テ天真ノ本性ヲ表ハシタルモノ  
 ナリ是レ各種ノ飲料及ヒ食物ニ着色スルノ習慣ヲ造出シ  
 タル原因ニシテ視。覺。ノ必ス味。覺。ニ交渉スルノ證ナリ其他  
 暗室ニ在リ若クハ閉目シテ飲食スルト否ラヌシテ飲食ス

ルトノ如キ味。覺。上ノ結果決シテ同一ナラサルナリ又々均  
 シク是レ渴ヲ醫スルナリ良導體タル硝子盃中ノ氷水ハ不  
 導體タル木碗中ノ氷水ヨリモ寒冷ナルヲ覺ヘテ却テ其木  
 碗中ニ在ル氷水ノ一層寒冷ナルヲ知ラサルガ如キ又々均  
 シク是レ飢ヲ凌クナリ壯器ニ容レテ形狀ヲ美ニシ粉色ヲ  
 加ヘタル食物ハ其實味ニ差異ナキモ素器ニ盛りタル素形  
 素色ノ食物ヨリモ美味ナルヲ覺ユルガ如キ亦々是レ視。覺。  
 ノ交渉ニ由リテ然ルヲ致スモノナリ  
 養。溝。感。モ亦々嗅視ノ二覺ニ均シク專ラ嗜。味。ヲ補成スル機  
 能ヲ有ス滿腹セルキ若クハ病故、船暈等ニ由リテ腸胃ノ常  
 態ヲ失ヒタルキト否ラサルキトハ同一ノ飲食ニシテ同一



ノ感覺ヲ生セサルガ如キ以テ證ス可シ若シ味覺ヲシテ全ク養溝感ノ交渉ヲ受ケサルモノナラシメハ腸胃ノ狀況ニ關セス同一ノ飲食ハ常ニ同一ノ感覺ヲ生スヘキナリ然ルニ其成蹟ノ全ク否ラズシテ必ス腸胃ノ狀況ニ伴隨スル所以ノモノハ嗜味ノ養溝感ニ於ケル須臾モ相離ル可カラサルノ關係ヲ有スルヲ以テナリ又々驚喜悲憂等ノ如キ其發作劇烈ニシテ非常ノ感動ヲ生シタルキハ往々嗜味ヲ減退セシムルヲアリ斯クノ如キハ感動ニ由リテ腦髓ヲ激作シ胃邊ノ血液腦中ニ昇聚シテ胃液ノ分泌ヲ阻攔シ隨テ全體ノ消化機上ニ變狀ヲ呈スルノ致ス所ナリ新鮮純良ノ食物ニテモ若シ誤テ有害ナルヘシト思ヒツ、戰々競々トシテ

食用スル片ハ啻ニ其味勢ノ鈍弱ナルノミナラス往々食傷スルヲアルガ如キ亦々此理ニ基クモノナリ觸覺ハ前述ノ三者ニ異ナリテ特ニ觸味ニ向テ交渉ヲ及ホスモノナリト雖モ嗜味ニ向テモ亦々多少ノ關係ナキニアラサルナリ即チ辛酸鹹ノ三味ハ全ク觸覺神經ノ作用ニ基クモノナレモ均シク同質同體ノ食物ニシテ嗜味上ノ感覺同一ナラサルヲアルガ如キ以テ觸覺ノ嗜味上ニ交渉スル所以ヲ證明スルニ足ルヘシ均シク是レ同一ノ米穀ナリ白米ト米飯トハ其嗜味上ノ感覺決シテ同一ナラサルナリ均シク是レ同一ノ魚類ナリ生經ノ刺身ト乾製ノ經節トハ其嗜味上ノ受感固ヨリ同一ナル能ハス又々粗粉ヲ以テ製シ



タル團子ト細粉ヲ以テ製シタル團子トハ縱令ヒ其物質ヲ同フスルモ其嗜味上ノ感覺ヲ同フス可カラサルナリ是レ皆ナ觸覺ノ交渉ニ出ツルモノニシテ同質同體ノ食物ニテモ其精粗硬軟ニヨリテ舌表ニ感スル結果ヲ異ニスルノ致ス所ナリ蓋シ粗硬ノ物質ハ味勢ヲ移達スルヲ遲緩ニシテ精軟ノ物質ハ之ヲ内傳スルヲ迅速ナレハナリ

(g) 幻影

幻影 (Illusion) トハ心理上ハ虛謬ナリ一ツニ之ヲ名ケ自騙 (Self-Deception) ト曰フ蓋シ吾人ハ如何ニ境遇ノ宜シキヲ得ルモ猶且ツ實在セサル物勢ヲ誤認シテ實在セル者ト爲ス  
アルヲ以テナリ而シテ感覺ニ關スル幻影ニハ

(1) 留感 (After Sensation)

(2) 謬感 (Mis-Sensation)

ノ二種アリ留感トハ一旦接觸シタル物勢ハ已ニ感官ヲ去ルニ及テ猶ホ之ガ實在ヲ覺ユル幻影ニシテ謬感トハ現ニ物勢ハ感官ニ接觸スルニ方テ之ガ種類性質強弱方向等ヲ誤認スル幻影ナリ

今夫レ味覺ノ留感ニ就テ論スレハ其事例最モ多シ一片ノ糖塊ヲ把テ急ニ之ヲ舌表ニ隔接スル片ハ恰モ斷ヘス之ヲ續接スルト同一ノ甘味ヲ覺ユヘシ是レ其第一接ノ物勢未タ全ク消失シ去ラサルニ早ク已ニ第二接ノ物勢ニ遭接シ第三第四以下ノ各接總テ斯クノ如クニシテ已マサルガ故



ニ始終舌表ニ續接スルモノト同一ノ味勢ヲ感スルナリ甘、  
 苦、辛、酸、等ノ諸味ヲ交互連嘗スル片恰モ之ヲ合覺スルト同  
 一ノ結果ヲ生スルガ如キモ亦々然リ即チ雨滴ノ眼界ニ入  
 ルモノ之ガ滴形ヲ認メスシテ其線狀ヲ感スルト同一ノ理  
 ニ出ツルナリ又々上等ノ煎茶ヲ喫シタル後チ直チニ冷水  
 ニテ含漱シ暫クアリテ舌表ニ一種ノ甘味ヲ感ス是レ茶中  
 ニ含有セル糖分ノ餘勢ヲ留ムルノ致ス所ニシテ當初喫茶  
 ノ片却テ其甘味ヲ感セサルモノハ苦味ノ勢力特ニ強烈ニ  
 シテ甘味ノ勢力ヲ壓倒スルガ故ノミ是レ含漱ニヨリテ一  
 且其諸味ヲ洗除スレハ餘留ノ甘味ハ一時ニ其潛勢ヲ發シ  
 テ苦味ノ殘力ヨリモ強大ナルヲ覺ユルニ由リテ然ルナリ

味<sup>〇</sup>覺<sup>〇</sup>ノ謬<sup>〇</sup>感<sup>〇</sup>モ亦々數種アリ病ニ罹リテ發熱スル<sup>〇</sup>甚シケ  
 レハ甘、鹹、等ノ諸味總テ苦味ヲ呈スルガ如キ又ハ試酒者ガ  
 其連舐ノ終末ニ及テ酒ノ眞味ヲ鑑識ス可カラサルニ至ル  
 ガ如キ是ナリ前記ノ場合ニ於テハ發熱ノタメ味官上ニ變  
 動ヲ生シタルニ起因シ後記ノ場合ニ於テハ味覺神經ノ敗  
 壞迅速ニシテ之ガ補足ニ違アラサルニ由ル者ナリ故ニ少  
 シク時間ヲ經過シテ更ニ之ヲ試嘗スル片ハ其第一回ニ於  
 テハ明ニ其眞味ヲ覺知スルヲ得ヘシ又々味度ノ感覺ニ關  
 スル幻<sup>〇</sup>影<sup>〇</sup>アリ之ヲ例セハ一個ノ茶碗ニ清水一合ヲ容レ之  
 ニ投スルニ三匙量ノ砂糖ヲ以テスル<sup>〇</sup>ア<sup>〇</sup>リ<sup>〇</sup>ト假定セヨ之  
 ヲ飲用スルノ前ニ於テ毫モ甘味ヲ食セサル片ハ其味最モ



正確ナリ然ルニ鹹、酸、苦、等ノ諸味ヲ食シタル後ニ於テ之ニ接スレハ其甘味ヲ感受スルヲ特ニ強烈ナルモ之ニ數倍セラル糖量ヲ同量ノ清水中ニ溶解シタル者ヲ飲用シタル後チ之ヲ嘗試スルヲアラハ其甘味ヲ覺知スルヲ極メテ微弱ナリ斯クノ如キハ飲用者ノ預境ヨリ生スル幻影ニシテ前後二者共ニ味覺上ノ正確ヲ失ヒタルモノナリ此一例ハ專テ本味ニ關スルモノナレトモ觸味ニ於テモ亦々同一ノ幻影ヲ生スルヲナキニ非ルナリ又々嗜味ハ此幻影ノミナラス非常ニ饑渴シ若シクハ非常ニ滿腹シタル片ニ於テハ共ニ之ガ正確ヲ失シテ味度ノ幻影ヲ生ス孟子ハ今ノ所謂ル心理學者ニアラス然レト

「飢者甘食、渴者甘飲、是未得飲食之正也、飢渴害之也」

ト曰ヒタルガ如キハ暗ニ幻影ヲ將テ人ヲ戒メタルモノナリ蓋シ飢渴モ其極點ニ達スレハ飲食ニ固有セル真正ノ味勢ヲ認識ス可カラサルニ至レハナリ故ニ嗜味ノ如キモ正確ナル味度ヲ覺知スルノ時限ハ飢渴滿腹共ニ其極度ニ達セサル中正ノ間ニ在リト知ル可シ又々苦味若クハ鹹味ニ接シタル後チ淡水ヲ飲テ甘味ヲ覺ヘ甘味ノ後チ淡水ノ酸味ヲ呈スルガ如キハ一種ノ反感ニ出ツル者ナリ

(h) 引證

(イ) デウアー (Dewey) — (1) 物勢 (Physical Stimulus) — 味覺 (Gust-



atory Sensation)ハ電氣及ヒ厭力ヲ以テ之ヲ激發セシムルコトヲ得ヘシ今モシ電氣ヲ以テ舌表ヲ激作スルコトアリトセンカ積極ニ於テハ酸味ヲ覺ヘ消極ニ於テハ辛味ヲ感スヘシ若シ又タ舌根ヲ壓挫スルコトアレハ苦味ヲ生シ急ニ之ヲ撓打スルコトアレハ酸味ヲ發スヘシ然レモ旨味 (Sapidity)ト名クル物性ハ特殊ノ勢力ニ屬シテ單ニ液狀ヲ有スル諸體ニ止マルモノトス固形體ノ如キハ結晶シテ溶解スヘキ性質ヲ具フルニアラサレハ其味勢ヲ傳フルニ由ナシ而シテ味勢ノ強弱ハ各物一ツナラス硫酸ハ清水ノ中ニ百萬分ノ一ヲ投スルモ猶且ツ其味勢ヲ傳フルヲ得ヘシト雖モ砂糖ニ至テハ八十分一量ヲ混入スルニアラサレハ之

ヲ感受ス可カラサルナリ

(2)官機 (Organ)——味覺ハ唇端ヨリ胃腑ニ至ルマデ口腔ノ全部ニ及フモノナリト雖モ正當ナル受感ノ局部ハ舌及ヒ上顎ノ味蕾 (Taste-Buds)ヲ具有スル部分ナリ從來某種ノ味勢ニ對スル受感ハ味官ノ某部ニ局限スルモノナルヤ否ニ就テ各種ノ實驗ヲ行ヒタルモ未タ正確ナル成績ヲ得ル能ハス唯苦味ハ舌根ト上顎ノ軟區トニ於テ其感覺最モ鋭ク甘酸ノ二味ハ舌頭ニ於テ最強ノ感覺ヲ生スル者ト爲スノ二事ヲ發見シタルノミ然レモ各人ヲシテ未タ盡ク其然ルヲ信セシムルニ至ラス概テ十中ノ八九ヲシテ之ヲ信據セシムルニ至リタルニ過キス



(3) 味性 (The Sensation Itself) — 味性ノ彙類法ハ嗅覺ト其激因ヲ同フスルノ故ヲ以テ特ニ困難ナリトス然レモ之ヲ緊約シテ甘味、酸味、苦味、及ヒ鹹味ノ四種ト爲ス辛味ノ如キハ觸味嗅ノ三感ヲ合同シタル結果ナルヲ以テ姑ク之ヲ員外ニ排斥セサルヲ得ス鹹味、澀味、及ヒ鑛味ノ三種ヲ以テ論スルモ亦々然リ世ニ似非的味性多シ葱ノ如キ是レナリスクノ如キハ寧口之ヲ香氣ニ屬セシムルヲ以テ至當ナリトス而シテ嘔心ノ如キハ唯是レ一種ノ有機的感覺ノミ又々林檎ト橙果トノ如キ甲乙二物ノ味勢ヲ辨識スル特殊性ノ味覺ハ諸感ノ糾合ヨリ生シタル結果ニ過キス固ヨリ本然ノ味覺ニアラサルナリ

(4) 官能 (Organic Connection) — 味覺ハ體機全部ノ前營ニシテ其有益ナルモノハ採テ以テ同化シメ其有害ナルモノハ拒絶シテ體中ニ入ラシメサルノ官能ヲ有ス故ニ特殊ノ一知源ト爲スノ不可ナルヲ知ルナリ今心理學 (Psychology) 上ヨリ之ヲ論スルハ其等位ハ固ヨリ嗅覺ニ及ハサルナリ何トナレハ嗅覺ノ聯伴力ハ極メテ強銳ナルヲ以テナリ新收ノ乾草若クハ海邊ノ鹹水ヨリ發スル香氣ノ如キ是レナリ之ヲ要スルニ香氣ノ聯伴作用ニ對スル關係ハ更ニ高尚ナルヲ以テ往々詩人ノ利用スル所ト爲リタルヲナキニアラス且ツ嗅覺ハ之ヲ味覺ニ比スレハ各種ノ香氣ヲ連感識別スル一層明確ナリ然レモ味覺ハ特殊ノ研修ニ由テ高度



ノ啓發ヲ得ヘキ性能ヲ有スル者ナリ常ニ美食ヲ飡ル者酒  
茶ノ試査ヲ業トスル者等ノ如キ以テ證ス可キナリ』

(ロ) シヤリアス、バーンステイン (Julius Bernstein) 『味覺 (Ta-

ste) ハ吾人ノ幸福安全ニ關シテ最モ必要ナルモノナリト  
雖トモ理學上ニ於テハ未タ充分ニ之ガ本性ヲ究明スル能  
ハス其口腔内ニ於ケル受感ノ區域ニ就テスラ未タ一定明  
確ノ說アルヲ聞カス唯味官ノ主局ハ舌ニシテ受感ノ最モ  
強銳ナル區域ハ舌根ナルノ一事ヲ確定シタルノミ舌頭ノ  
如キモ亦々味覺ノ作用ヲ有セサルニアラス是レ各人ノ當  
ニ實驗シテ知ルヘキトコロナリ舌根及ヒ舌頭以外ノ部分  
ニ屬スル官能ニ就テハ實驗者ノ意見十人十異ニシテ彼此

固ヨリ大差アリ然レモ舌邊ハ概子味覺ヲ有スルモ舌背ニ  
至テハ全ク覺性ヲ有セズ或ハ僅ニ之ガ微影ヲ存スヘシト  
スルモ其受感極メテ鈍弱ナリ此三點ハ方今理學社會ニ行  
ハル、輿論ノ是認スル所ナリ而シテ觀察ノ特ニ困難ニシ  
テ其成績ノ明確ナル能ハサル所以ノ者ハ他ナシ舌ノ某部  
ニ接觸セシメタル物質ノ忽チ溶解散蔓シテ長ク隔在單立  
スル能ハサルノミナラス至微至細ノ物量ト雖モ尚ホ能ク  
明認スルヲ得ヘクシテ往々自騙ニ陥リ易キヲ以テナリ  
是ヲ以テ世人ハ上顎ノ具有スル味覺ノ極メテ精微ナルヲ  
信スト雖モ其銳鈍ニ就テ行ヒタル實驗ノ結果ハ今猶ホ疑  
雲ノ中ニ在リテ未タ清明ノ天ヲ仰視スルニ至ラス觀察者



ノ證言スル所ニ據レハ上顎ノ軟區及ヒ口峽ノ垂柱ハ味覺ノ官能ヲ具有セリト云フ又々或ル實驗者ノ證明スル所ニ據レハ全ク舌根ノ運動ヲ抑止シ遮斷シタル一局部ニ石筆ノ尖頭ヲ以テ一物質ヲ接觸セシムルトキハ毫モ感覺ヲ生セスト云フ然レトモ斯クノ如キハ各人固有ノ特性ニ因由スルモノニシテ其受感性ノ啓發ハ甲乙固ヨリ銳鈍ノ別ナキ能ハサルナリ古語ニ曰ク「味性ニハ定評ナシ」ト之ヲ要スルニ積年實驗ノ結果唯、コノ一語ヲ確證シタルニ外ナラサルノミ

輓近味官ヲ解剖シ及ヒ顯微鏡ヲ以テ之ヲ查察スルニ至リシヨリ以來大ニ味覺ノ局部ニ關スル論基ヲ鞏固ナラシメ

タリ舌表ノ全部ニハ味覺的乳頭 (Gustative Papillae) ト名クル小隆起體アリ肉眼ヲ以テ睇視スルヲ得ヘシ其中或ハ纖維ノ結束ヲ以テ其末端ヲ形成スルアリ或ハ其表面扁廣ニシテ分枝ノ叢生セルアリ而シテ舌根ニ於テハ大乳頭ヲ以テ半圓形ヲ描出ス大乳頭ハ正圓形ノ坡堆ヲ以テ繞圍セラレ其周邊稍、凹陷シテ内部ハ長方形ノ細胞ヲ以テ充實シ延テ神經纖維ト聯結ス舌ノ粘膜中ニ散在セル他ノ乳頭ニ就テモ亦々同一ノ妙機ヲ具フルヲ見ル味覺ヲ司ル真正ノ機關ハ蓋シ此中ニ存スルナラン吾人ノ必ス當ニ究査セサル可カラサル所ナリ

味官ニ特殊ノ神經アリヤ否ヲ確定スルハ他官ニ就テ其



固有ノ神經ヲ論スルキノ如ク容易ナル能ハスト雖モ味官中ニ舌咽神經 (Glosso-Pharyngeal Nerve) ト各クル一種ノ神經アルヲハ至テ確實ナリトス是レ固ヨリ味官中ニ存スル神經中ノ最モ重要ナルモノナリ然ルニ其味覺ヲ司ル纖維ハ下頭ニ在ル無數ノ發動神經ト聯結シテ視覺神經、聽覺神經、及ヒ嗅覺神經ノ如ク異種ノ混交ヲ離レテ全然單立スルモノニ非ス若シ畜類ニ就テ此舌咽神經ヲ截斷スルヲアレハ貪飡濫食ソノ極ニ達シテ食物ノ真味ヲ辨セス常態ヲ有スル畜類ノ舌頭ニ觸接スルストラ厭フガ如キ最モ強烈ナル苦味物ト雖モ悦テ之ヲ咀嚼シ毫モ苦惱ヲ感セサルナリ

舌中ニハ獨リ前記ノ神經ノミナラス舌機神經 (Lingual Nerve)

ト各クル別種ノ受感神經アリ此神經ハ觸覺神經ノ作用ヲ兼有シテ其性質極メテ鋭敏ナリ故ニ能ク至微至細ヲ明辨ス然レモ其中ニ尋常ノ受感的纖維ノミナラス併セテ味覺的纖維ヲモ包含スルヤ否ハ猶ホ未タ明確ナル能ハサルナリ唯強酸、鹼類等ノ如キ苛性ノ食物ニ接スルキ其必ス激應スルニ至ルノ一事ハ最モ明確ナルノミ

味覺ニ一特性アリ甘苦ノ二物ニ就テハ判然タル一種獨得ノ感覺ヲ生シ復タ敢ヘテ他ノ受感神經ト交渉セサルモノ是レナリ此二味ハ之ヲ緊聚シテ如何ニ強烈ノ極ニ至ラシムルモ曾テ苦痛ヲ生スルコトナシ酸味ノ收縮性苛烈ヲ有シテ一種言フ可カラサルノ苦惱ヲ生スルノ比ニアラサル



ナリ而シテ甘味ト苦味トハ固ヨリ互ニ正反對ノ位置ニ立ツモノニシテ前者ハ吾人ニ向テ快感ヲ與フルモ後者ハ吾人ニ向テ不快ノ感覺ヲ生セシム牛乳ハ幼兒ノ最モ嗜好スル所ニシテ兼テ其滋養ヲ助クルモノナリ是レ其甘味ノ致ス所ナリ然ルニ苦酸ノ二味ハ一定ノ度位ニ達スルマデハ吾人ノ食物中ニ混和スルモ苦惱ヲ覺ユルヲナシト雖モ之ヲ幼兒ニ應用スルモハ鋭敏ナル味官ヲ有スル者ハ以テ堪ユ可カラサルノ不快ト爲シ忽チ反拒シテ復タ受收セサルニ至ルヘシ

甘味ハ苦味及ヒ酸味ニ向テ反對ノ性質ヲ有スルモ吾人ハ能ク前記ノ一味ヲ以テ後記ノ二味ヲ緩和セシムルヲ得

ヘシ苦味若クハ酸味ヲ有スル食物中ニ砂糖ヲ混和スルモノ如キ以テ證ス可シ吾人ハ斯クノ如ク砂糖ヲ混入スルモ之ヲシテ苦酸二物ニ向テ化學的反應ヲ及ホサシムルヲナクシテ能ク其味性ヲ調整スルヲ得ヘシ是レ此等ノ諸味ニ就テハ必ス多少ノ干涉ヲ行ハサル可カラサル所以ナリ然レモ其干涉ニ由リテ其調整ヲ得ル所以ノ理由ニ至テハ吾輩未タ之ヲ釋明スル能ハサルナリ又々甘味ニ化合セシムルニ酸苦ノ二味ヲ以テシ以テ一種ノ快感ヲ生セシムルヲ得ヘシ然レモ鹹味ニ至テハ砂糖ヲ添加シテ之ヲ緩和シ其化合ニ由リテ一種ノ快感ヲ生セシム可カラサルナリ是レ世人ノ普ク知ル所ナリ



二百九十一  
甘味ト苦味トハ全ク背反ノ性質ヲ有スルモノナリ其事實  
ハ正ニ左記ノ現象ヲ以テ之ヲ證明スヘシ苦味ヲ有スル物  
質ヲ試嘗スルノ後チ直ニ淡水ヲ飲用セハ忽チ甘味ヲ覺ユ  
鹹味ニ接スルノ後ニ於テ斯クノ如クスルモ亦々然リ又々  
時トシテ多量ノ砂糖ヲ食シタル後チ口中自ラ一種ノ酸味  
ヲ感スルヲナキニアラス而シテ前述ノ諸現象ハ恰モ色性  
ノ背反ニ類似スル所アリト雖モ吾輩ハ未タ色味ニ性ノ現  
象ヲ對比スヘキ根由ヲ檢出スル能ハサルナリ  
各種ノ味勢ニ由リテ各種ノ感覺ヲ生ス是レ果シテ何等ノ  
原因ニ出ツルモノナルヤ吾輩ノ必ス先ツ究査セサル可カ  
ラサル所ナリ然リト雖モ不幸ニシテ未タ之ニ關スル正確

ノ報告ヲ公ニスルヲ得ス唯各種ノ末端ニ各種ノ妙機ヲ有  
スル神經ノ存スルアリテ甲種ハ甘味ヲ生シ乙種ハ苦味ヲ  
感シ丙種ハ酸味ヲ傳フヘキヲ推斷スルニ躊躇セサルノミ  
惜ムラクハ理學ノ進歩猶ホ幼稚ニシテ未タ實驗若クハ觀  
察ヲ以テ此問題ニ關スル完全ノ證言ヲ表白スル能ハサル  
ナリ  
甲種ノ物質ハ何故ニ甘味ヲ有シ乙種ノ物體ハ何故ニ苦味  
ヲ發スルヤノ理由ニ至テハ吾輩更ニ之ガ明言ニ苦ムナリ  
今各物ニ就テ其化學的結成ヲ細査スルモ未タ其理由ノ存  
スル所ヲ究明スル能ハサルナリ何トナレハ全然異成ノ物  
質ニシテ往々同一ノ味性ヲ有スルヲアレハナリ砂糖ハ炭



素、水素、及ヒ酸素ノ三元ヨリ成ルモノナリ然ルニ醋酸鉛ノ如キモ亦々等シク甘味ヲ有ス又々規尼涅硫酸癩佩涅失亞等ノ如キ全ク其結成ヲ異ニシテ毫モ通有スル所ノ化學的特性ヲ存セサル物質ニシテ往々一種ノ苦味ヲ有スルコトアリ

味性ト元素トノ契合ニ就テハ酸類(Acids)及ヒ鹼類(Alkalis)ヲ以テ更ニ之ヲ表明スルヲ得ヘシ酸類ハ化學上ノ所謂ル化合物ニシテ酸味ノ特質ヲ有シ兼テ又々物色ヲ變化セシムヘキ性能ヲ有ス藍色ヲ變シテ赤色ト爲スガ如キ是レナリ酸類ニ反對シテ鹼基(Bases)ナルモノアリ鹼類ハ溶解性、鹽基ナリ酸類ニ均シク苛性ニ屬シ赤色ヲ變シテ藍色ニ

復セシムルノ作用ヲ有ス酸類モシ鹽基ト化合シテ鹽類(Salts)ニ形成スルハ二者共ニ其特性ヲ亡ヒ竟ニ其特有ノ味性ヲ保持スル能ハスシテ或ハ鹹味ヲ生シ或ハ苦味ヲ呈シ或ハ甘味ヲ發スルニ至ル而シテ其鹹味ニ就テ論スレハ格魯兒曹達ノ如キ其苦味ニ就テ論スレハ硫酸癩佩涅失亞ノ如キ其甘味ニ就テ論スレハ醋酸鉛ノ如キ皆ナ以テ之ガ例證ト爲ス可シ

之ヲ要スルニ酸味、鹹味、及ヒ鹹味ノ三種ハ各異ノ化合物ニ屬シテ何レモ一定ノ化學的特性ヲ有スルモノナリ故ニ其特質ニ就テ其味性ヲ比較スヘキ理由ナキニアラサルナリ然リト雖モ其化學的特性ト味覺的特性トハ各、一定明瞭ノ



限界ヲ以テ之ヲ分判ス可カラサルナリ  
 酸味及ヒ鹼味ハ電流ヲ以テ人工的發作ヲ行フヲ得ヘシ  
 實ニ是レ人工上ノ一奇觀ナリ今ソノ陽極ヲ舌頭ニ接シ其  
 陰極ヲ頸背ニ置キ以テ電流ヲシテ舌根ノ末端ヨリ舌中ヲ  
 通過セシメハ舌頭ニ於テ忽チ一種ノ酸味ヲ生スヘシ然ル  
 ニ若シ其陰極ヲ舌上ニ觸接セシメハ其味性全ク相異ナリ  
 テ明ニ鹼味ヲ生スヘシ夫レ電流ハ能ク鹽類ヲ分離スルモ  
 ノナリ而シテ鹽類ハ本來口腔ノ唾液中ニ在リ酸類ノ陽極  
 ニ現ハレ鹼類ノ陰極ニ生スルハ其兩極ニ於テ鹽類ノ分離  
 シテ酸鹼ノ二類ニ復元スルニ方リ味覺ノ之ヲ認識スルニ  
 因ルナランカ然ルニ其電極ヲ舌面ニ接觸セシメサルキト

雖用液體若クハ唇端ヲ其間ニ挿入セハ尙ホ能ク此電造的  
 味勢ヲ感受スルヲ得ヘシ或ハ舌體ノ組織之ガ爲ニ分離  
 シテ此種ノ味勢ヲ生セシムルヲナキニシモアラスト雖用  
 方今ノ度智ヲ以テ其由來スル所ヲ究メ以テ満足ナル解説  
 チ與フルガ如キハ吾人ノ得テ望ム可カラサル所ナリ  
 或ハ薄弱ナル電流ヲ以テスルモ猶且ツ此種ノ味勢ヲ生セ  
 シムルヲ得ヘシ研磨シタル亞鉛片ト銅片トヲ把テ之ヲ  
 舌面ニ接觸セシムル場合ノ如キ是ナリ即チ其亞鉛片ヲ舌  
 頭ニ接シ銅片ヲ舌背ニ觸レシムレハ電味立ロニ生スヘシ  
 若シ又タ其二金屬片ノ外端ヲシテ互ニ相接觸セシメハ亞  
 鉛片ノ舌背ニ接スルキハ酸味ヲ感シ銅片ノ舌頭ニ觸ル、



片ハ酸味ヲ覺ユヘシ是レ舌面ニ在ル液體ノ此二金屬ト接  
 合シテ一種薄弱ナル濕電ヲ生スルヲ以テナリ  
 某種ノ物體ニ對スル味官ノ受感性ハ極メテ鋭敏ナリト雖  
 用之ヲ嗅官ノ機能ニ比スレハ其及ハサルヲ遠シ千分一ノ  
 比例ヲ以テ水中ニ溶解シタル硫酸ハ味官ヲ以テ能ク之ヲ  
 感受スルヲ得ヘシ或ハ硫酸一瓦ノ二千分一（即チ其一瓦  
ノ四百分三）ヲ含有セル一滴水モ之ヲ舌上ニ接觸セシメハ  
 尙ホ能ク明ニ其味勢ヲ覺知スルヲ得ヘシ斯クノ如キハ  
 實ニ至微至細ノ小量ニシテ化學的分析ヲ以テスルモ猶ホ  
 且ツ之ガ發見ニ苦ム所ナリ  
 吾人ノ日常遭接スル諸味ハ上文ニ於テ已ニ論述スル所ノ

如シ而シテ腐味、微味、油味、芳味、及ヒ類味ノ如キ別種ノ諸味  
 モ亦々常ニ舌面ニ觸レサルニアラス然リト雖用是等ノ諸  
 味ニ接觸スルニ方テハ吾人ノ鑑識ハ獨リ味官ノ一機能ニ  
 由ルニアラス嗅觸二官ノ交助ヲ受クルヲ固ヨリ少シトセ  
 ス即チ嗅覺ハ食物ヨリ發スル水氣ノ口峽ヲ經テ鼻腔ヲ衝  
 クニ起因シ觸覺ハ食物ノ形狀及粘性ヨリ生スルナリ葡萄  
 酒ノ味性ハ一種ノ香味ニ屬ス而シテ其良否濃薄ヲ判定ス  
 ルハ嗅覺ノ其中ニ包含セル各種ノ酒精ヲ鑑別スルヲ之ガ  
 主因タルヲ以テナリ馬鈴薯ノ如キハ本來無味ノ物體ナリ  
 然レ用其形狀ヲ異ニスルニ從テ其味性ヲ異ニスルヲ想フ  
 一ナキニアラス凡ソ斯クノ如キハ嗅味觸三感ノ結合ニ出



ツルヲ明白ナリトス』

(ハ) バルドウィン (Baldwin) 『味官 (Gustatory Apparatus) ハ口腔、味覺神經、及ヒ味覺神經叢會ノ三者ヨリ成ル而シテ味官ノ含味體ニ接スルニ及テ味覺的神經流動ヲ激作ス味覺的神經流動ハ分子的波狀ヲ生シ味覺神經ヲ經テ終ニ味覺神經叢會ニ到達ス其味の神經叢會ニ達スルトキ始メテ知覺ヲ生ス之ヲ名ケテ味覺 (Taste) ト曰フナリ是レ自心ノ一部ナル智力ノ其感覺ヲ辨識スルノ致ストコロナリ砂糖ヲ嘗メテ其甘キヲ知リ葡萄ヲ食シテ其美ナルヲ賞スルガ如キ是レナリ』

(ニ) シヤーデン (Jardine) 『味嗅ノ二覺ハ其互相ノ關係極

メテ親密ニシテ共ニ呼吸系ト消化系トニ聯申スルノミナ  
ラス外物及ヒ有機作用ノ性狀ニ關シテ吾人ニ知識ヲ與フルヲ甚々少シ故ニ其等位ハ夫ノ純正ナル有機感ト高等ナル智力感トノ中間ニ在ルナリ而シテ嗅官ハ呼吸機ノ門口ニ在リテ汚物毒氣ノ肺中ニ入ルヲ警メ香氣ノ嗅覺神經ニ接觸スルニ及テ嗅覺 (Smell) ヲ生スカーペンター (Carpenter) 曰ク「味官ハ外物ノ含味性ヲ辨別スル機能ヲ有シ兼テ口腔中ニ存スル受感器ニ接スルキ覺知スルヲ得ヘキ各種ノ物性ヲ鑑査スルノ作用ヲ有ス但々純乎タル觸性ニ至テハ之ヲ知得ス可カラサルノミ本來コノ官機ハ嗅官ノ交助ヲ要スルモノナリ蓋シ嗅官ハ凡ソ蒸發飛散スルヲ得ヘキ發



香性ヲ有スル諸物ヲ認識スルノミナラス能ク單純ナル味覺(Taste)ト結合シテ皮相上宛モ單獨ノ感覺ヲ形成スルヲ以テナリ之ニ加フルニ味官ヲ以テ受收スル感覺中ニハ其性質觸覺(Touch)ニ近似シテ其間ニ存スル差異ノ根底ヲ究明ス可カラサルモノアリ芥子胡椒揮發油等ニ接シテ生スル所ノ刺衝的感覚ノ如キ是レナリ而シテ是等ノ物質ハ久シク皮膚ニ接觸セシムルキハ幾ンド味官ヨリ生スル感覺ト同一ノ結果ヲ生スルナリ唯ソノ相異ナル諸點ハ其感覺ノ味覺ニ比シテ鈍弱ナルト香氣ノ蒸散ヲ生セサルトノ二者ニ過キス是ニ由テ之ヲ觀レハ前述ノ諸物ヨリ生スル味覺ハ精微銳敏ナル觸覺ト味官ヨリ發スル香氣ニ感應スル嗅

覺トヲ以テ感樞(Sensorium)ノ上ニ及ホシタル合感ノ結果ナルヲ知ル可シト是レ實ニ吾輩ノ心ヲ獲タルモノナリ疎放ナル世俗ノ彙類法ニ從ヘハ嗅味ノ二覺ハ之ヲ細分シテ數個ノ小類ヲ造出スルヲ常トス辛感酸感甘感等ノ如キ是レナリ然レトモ今ノ所謂ル彙類法ニシテ未タ能ク理學ノ原則ニ適ヒテ精細ヲ極メ物類ヲ盡シタルモノアルヲ聞カス故ニ其細分ノ當否ヲ論究スルガ如キハ幾ンド無益ノ舉タルヲ免レス然リト雖モ甲種ノ感覺ハ如何ナル方法ヲ以テスルモ之ヲ變形シテ乙種ノ感覺ニ移化セシム可カラサルナリ苦感ノ如キ是レナリ是ヲ以テ某種ノ感覺中ニハ一定明確ノ種類アルヲ知ル可シ』



(ホ) ヘルバート (Herbart) — 觸、味、嗅、聽、視、ノ五官中味官ノ發作スル感覺ハ其種類最モ多クシテ其區別至テ明白ナリ然レモ其感覺往々同時ニ發現スルヲ以テ互ニ交雜シテ單純ノ性質ヲ維持スル能ハサルヲ多シ而シテ舌ハ獨リ味覺 (Taste) ノ主機タルノミナラス兼テ各種ノ感覺ヲ司ルヲ極テ明銳ナリ何トナレハ舌中ニハ各異ノ神經ヲ雜容スレハナリ

(ヘ) ノア、ポーター (Noah Porter) — 味覺 (Taste) ノ官機ハ舌、上顎、及ヒ咽喉ノ一部ナリ此三者ハ實ニ觸官ノ作用ヲ兼有スルモ之ヲ其正官ニ比スレハ其感覺未タ完全ナラサルナリ而シテ味官ノ表面ハ一種ノ粘膜ヲ以テ之ヲ包被シ其構造味覺 (Taste) ト各クル特殊ノ感覺ヲ激發スルニ適合セリ吾人

今日ノ智度ヲ以テ之ヲ究察スルニ味官ノ構造ハ至微至細ナル乳頭ヨリ成リテ洽ク之ヲ舌ノ表面及ヒ口腔ノ裡後ニ散布ス

含味體ヲシテ味官ニ感受セシメント欲セハ必ス之ヲシテ液體ナラシメサル可カラサルナリ殊ニ堅密ナル含味體ノ如キハ必ス之ヲ咀嚼シテ唾液ノ中ニ溶解セシムルヲ要ス其物質愈堅硬ニシテ其溶解ノ歷程愈遲緩ナルハ其味勢ノ存續スルヲ亦タ愈久シキニ及フヲ常トス

味覺ノ種類ハ千狀萬態ニシテ其數幾ンド算窮ス可カラス故ニ互ニ相結合シテ奇異ノ變態ヲ生シ及ヒ赫著ナル反狀ヲ呈スルヲ多シ是レ其習慣ニヨリテ變化シ人工ヲ以テ創



出セシムルヲ得ヘキ所以ナリ初メテ接觸シタル片明ニ不快ヲ感スル味勢ニテモ別種ノ味勢ヲ以テ之ヲ緩和スル片ハ神経系ニ於テ終ニ愉快ヲ覺ユルニ至ルナキニアラス強性ヲ有スル酒類ノ刺味及ヒ烈性ヲ有スル煙草ノ嘔味ノ如キ是レナリ或ハ之ニ反シテ味官自ラ其機能ヲ減下シテ受感ノ烈度ヲ低フシ當初強銳ナル感覺ヲ生シタル物體モ之ニ接シテ感應甚々鈍ク竟ニ全ク絶對ノ不快ヲ覺ユルニ至ルナキニアラス

味。覺。ハ嗅覺ニ均シク其種別ヲ命狀スヘキ各目ニ乏シ即チ辛味、苦味、甘味、香味、刺味、烈味、等ノ如キ是レナリ然レモ是等ノ諸味ヲ發スル物質ニ就テ更ニ之ヲ細別スレハ胡椒ノ味、

明礬ノ味、梨子ノ味、李梅ノ味、茶類ノ味、肉類ノ味、等ノ數種アルヲ見ルヘシ吾輩ノ見ル所ヲ以テスレハ味。覺。ニ關スル前述ノ諸名辭ハ蓋シ觸覺上ノ學語ニ由來セルモノナラン何トナレハ其意義ト語原トニ就テ明ニ其然ルヲ證表スルニ足ルモノアレハナリ惟フニ味官ハ能ク觸官ノ作用ヲ兼有スルヲ以テ舌ニハ觸味ノ二覺アリ殊ニ某種ノ味。覺。ノ如キハ必ス苦干ノ觸覺ヲ伴隨スルヲ常トス

且ツ之ニ聯帶シテ吾人ノ必ス當ニ注意セサル可カラサルモノハ天造、人工、及ヒ文學ノ三者ニ於テ其美麗ト高尚トチ感得シ以テ之ガ眞源實相ヲ批判スル能力ヲ各ケテ趣味(Taste)ト曰フニ是レナリ其偶味。覺。(Taste)ト異義同語ナルハ



體欲中ノ最モ粗野ナル者ヨリ心能中ノ最モ高雅ナル者ニ  
 向テ各辭ノ移化シタル一變象ノミ畢竟スルニ斯クノ如キ  
 ハ肉體上ニ屬スル單純ノ味覺モ精妙微細ナル心性上ノ辨  
 異作用ヲ離ル可カラサルヲ以テナリ  
 味覺ハ果シテ純乎タル主觀的感覺ニシテ全ク外界ノ物倫  
 ヲ離脱セルモノナルヤ否ノ問題ニ就テハ世間未々之ヲ討  
 究シタル者アルヲ聞カス味覺ハ固ヨリ一種ノ感覺タルヲ  
 失ハスト雖田嬰スルニ舌表及ヒ上顎ニ遍蔓セル受感神經  
 ノ一激應タルニ過キサレノミ  
 (トリンド子ル(Lindner))「味嗅ノ二官ニヨリテ感受スル  
 特殊ノ勢力ハ化學的反應ヨリ生スルモノニシテ之ヲ總稱

シテ化學的感官(Chemical Senses)ト曰フ是レ流動體ト氣狀體  
 トノ二者ニ就テ更ニ之ヲ細別スル所以ナリ  
 コノ化學的感官ハ固ヨリ觸官(Touch)ト同一ナラス蓋シ觸  
 官ハ身體全部ノ皮膚ヨリ成ルモノニシテ味嗅二感ノ官機  
 即チ口鼻ノ窩腔内ヲ被底スル粘膜ニ延及スルモ要スルニ  
 觸官固有ノ作用ハ一種ノ器械的感覺ナルヲ以テナリ而シ  
 テ口内ニ在ル粘膜ハ其中ニ保有スル唾腺ヨリ唾液ヲ分泌  
 シテ各種ノ含味體ヲ溶解シ以テ味覺神經ノ末端ニ向テ充  
 分ニ其化學的作用ヲ及ホサシムルナリ  
 味嗅二官ノ作用ハ實用的感官(Practical Senses)ノ性質ヲ有  
 スルモノナリ何トナレハ味官(Taste)ハ飲食ニ對シテ直接ノ



關係ヲ有シ<sup>(15)</sup>嗅官(Snell)ハ呼吸ニ向テ直接ノ關係ヲ有スレハ  
 ナリ且ツ此二感ハ常ニ筋感ト觸覺トノ伴隨スル所ト爲ル  
 ノミナラス亦々之ト共ニ感量ノ不明ト感調ノ薄弱トヲ以  
 テ之ガ特色ト爲スナリ  
 味嗅ノ二官ハ吾人ニ向テ理論的知識(Theoretical Knowledge)  
 ナルヲ與フルコト極メテ少シ故ニ吾人ヲシテ若シ此二官ヲ亡  
 ハシムルモ外界ノ物象ニ關スル知覺ハ之ガ爲ニ明確ヲ減  
 スルコト固ヨリ大ナラス蓋シ此二官ハ肉慾上ノ整理ヲ助  
 クルコト多クシテ吾人ニ向テ外界ノ知識ヲ與フルコト少  
 キヲ以テ其作用ノ若干部ハ人類界ニ啓發スルコト淺クシテ  
 畜類界ニ發達スルコト深キヲ見ルモ決シテ驚愕スルニ足ラ

サルナリ是レ之ヲ名ケテ下等官(Lower Senses)ト曰フ所以  
 ナリ  
 味嗅ノ二官ヨリ生スル感覺ハ各人ノ心境ニ於テ千差萬別  
 ナリ隨テ大ニ其性質ヲ異ニスルヲ以テ固ヨリ權衡ヲ執テ  
 詳ニ秤量シ得ヘキモノニアラサルナリ嗅覺ノ如キハ數種  
 ノ特性ヲ有スルモ味覺ニ至テハ其性質ニ關スル爭點ヲ查  
 定スヘキ標準ナキナリ故ニ甘、酸、苦、鹹等ノ諸味ニ就テ稜鏡  
 的分光機ヲ造出シ得ヘキニアラス又々各種ノ嗅勢ニ從テ  
 音階的計度ヲ創案シ得ヘカラサルナリ是ニ由テ之ヲ觀レ  
 ハ時間ト空間トニ關スル外界ノ概念ニ至テハ味嗅二官ノ  
 吾人ヲ幫助スルコト極メテ鮮シ何トナレハ此等ノ感覺ハ



受感ノ廣度ヲ有スルコト恰モ皮膚ノ溫度ニ於ケルガ如シト雖モ外勢ノ其神經纖維上ニ衍達スルニ及テ空間ト時間トニ就テ明ニ各種ノ特性ヲ分別スル能ハサレハナリ』第一註——味覺ハ之ヲ研修スレハ貪食ノ量度ヲ加ヘ嗅覺ハ之ヲ啓發スレハ強健ト銳敏トヲ增益スル者ニシテ二者共ニ外物ノ具有スル分解性ノ多少ニヨリテ強弱アリトス嗅覺ノ如キハ時トシテ遠離セル物勢ヲ感知スルコトアリ是レ發香體ノ空氣中ニ蒸散布衍スルニ因由スルナリ而シテ此ニ官ニ感觸スル外勢ハ必ス實體ヲ存スルモノナリ何トナレハ嗅覺ノ如キハ其感收スル所極メテ少量ナリト雖モ味嗅ノ二覺ハ何レモ其發動スルニ際シテ必ス外物ノ若干量ヲ

消費スルノ實跡アレハナリ殊ニ味覺ニ至テハ每感ソノ消費スル所ノ物量甚々多ク固ヨリ嗅覺ノ比ニアラサルナリ且ツ此種ノ二覺ハ以テ快不快ヲ知ルノ媒介タル可シト雖モ決シテ醜美ヲ傳達スルノ要具ニアラサルナリ是ヲ以テ人性ノ情慾ニ傾流スル皆ナ争テ重キヲ味嗅ノ二官ニ置キ飲食吸烟及ヒ聞香ヲ以テ受感ノ度位ヲ強高ナラシメント欲ス彼ノ割烹術ノ如キ純正ナル徵驗法ヲ以テ常ニ味覺ノ研究ヲ專要ト爲スモノナリト雖モ未タ宇内公通ノ唯一原理ヲ確立スル能ハス只人心ノ向フ所ト古來ノ習俗トニ阿從セシコト是レカムルノミ割烹術ノ分子中ニハ固ヨリ審美ノ元素ヲ保有セサルナリ味覺及ヒ嗅覺ノ受感神經ハ之



テ觸覺神經ト分隔セシムルト已ニ容易ノ業ニアラス況ンヤ味覺ニ屬スル特殊ノ神經アルヤ否ニ至テハ生理學士ノ猶ホ未タ論定スルヲ得サル所ナリ蓋シ味嗅ノ二官ヨリ生スル感覺ハ觸感温感及ヒ體感ノ交渉ニヨリテ其性狀ヲ變易スルモノナルガ故ニ其絕對的本性ヲ究明スルト最モ難シ唯主觀界ノ作用ニヨリテ常ニ之ヲ臆斷スルノミ——第<sup>△</sup>二註——有名ナル生物學士ガスターブ、シエアガーハ近來味覺ヲ以テ保生上重大ノ機能ヲ有スルモノナリト確認セリ其說ク所ニ從ヘハ空氣中ニ散滿セル一種特著ノ嗅勢アリ是レ獨リ動物中ノ各類ヲ補益スルノミナラス其各個體ニ向テモ亦タ同一ノ補益ヲ與フル者ニシテ能ク其好惡嗜嫌ヲ

岐定シ及ヒ其飲食ト補衛トニ關スル本能ヲ指導スルノ效カチ有スト云フシエアガー嘗テ一書ヲ著ハシ題シテ靈魂發見錄(The Discovery of the Soul)ト曰フ書中靈魂ノ坐位ト元精トハ某種ノ含嗅的物質ニ存在スルモノナルトヲ立證セント欲シタレト其所謂ル發見(Discovery)ナルモノハ之ヲ確信スルト至テ難シ——(コノ補註ハ本書ノ英譯者ナル米國哲學博士デ、ガルモノ添加スル所ナリ)

(チ) <sup>△</sup> ペイン (Pain) —— (1) 味覺(Taste)ノ官機ハ養溝ノ門口ニ在リ以テ苦樂ヲ知ル可ク以テ食物ノ良否ヲ辨ス可シ而シテ味覺ニ對接スヘキ物質ハ要スルニ食料ナリ——礦物中ニテ水ノ如キハ無味ニ屬スト雖<sup>△</sup>液体及ヒ受溶性ヲ有スル固體ノ如キハ概シ味勢アリトス醋、食鹽、明礬等ノ如キ以テ卑



近ノ例證トス可シ又々植物及ヒ動物ノ如キモ大抵ミナ特殊ノ味勢ヲ有ス其中全ク無味ナルモノハ極メテ少シ卵白、澱粉、護謨等ノ如キ是レナリ然ルニ砂糖ノ甘ク、幾尼涅、阿片、鹽、馬錢子鹽、龍膽、括矢、亞煤粉等ノ苦ク、酸類ノ酸味ヲ有スル芥子、胡椒、薄荷等ノ刺味アル酒精ノ炎味ヲ有スル等ノ如キ皆以テ過半ノ物體中ニ特著ノ味勢アルヲ證ス可キナリ

(2) 味覺ノ官機 (Organ of Taste) ハ舌 (Tongue) ニシテ其受感ノ局部ハ舌表ナリ——舌ノ上表ニハ乳頭 (Papillæ) ト名クル小突起體アリ其大小ト形狀トニ從ヒ之ヲ分類シテ三種ト爲ス其最小ナルモノハ其數最モ多ク其形圓錐狀ヲ呈シテ舌面ノ大半ヲ包被シ舌根ニ近ツクニ及テ漸ク跡ヲ沒ス其中量ナ

ルモノハ其形小圓ニシテ舌頭及ヒ舌尖ニ散在シ前端ニ近ツクニ從ヒ其數最モ多シ而シテ其最大ナルモノハ總數八個乃至十五個ニシテ舌根ニ在リ恰モV字形ノ角度ヲ成シテ二行ニ整列ス總テ此等ノ乳頭中ニハ毛細血管ト神經纖維トヲ保有シ舌ノ感局ヲ形成ス

舌中ニハ二種ノ神經ヲ包含ス後部ニハ舌咽神經ノ支纖アリ前部ニハ第五對顏面神經ノ分支アリ是レ此官機ニ二様ノ感覺アル所以ナリ本味ハ舌咽神經ニ屬シ苦味ハ就中舌根ニ於テ之ヲ感受ス之ヲ要スルニ味官ノ感能ハ舌表ノ全部ニ散在スト雖モ舌尖ニ於テ稍鈍ク舌根舌邊及ヒ舌頭ニ於テ最モ強銳ナリトス且ツ食物ニ關スル嗜味ハ舌頭ヨリ



舌根ニ至リテ漸ク増進スルモノナリ是レ吾人ノ常ニ舌根ニ向テ食物ヲ輸送シ以テ之ヲ嚥下セント欲スル傾向アル所以ナリ

味覺ニ關スル必須ノ境遇ハ可溶性ナリ舌モ亦々常ニ必ス乾燥ナラサルヲ要ス而シ味官ノ感度ハ適當ノ壓力ニ由リテ増加シ冷氣ニヨリテ退滅スルモノナリ味勢ヲ感受スルハ其神經上ニ及ホス作用ニ就テハ未々明ニ其根由ヲ解説スル者アラス是レ蓋シ溶解シタル食物ト乳頭中ニ在ル血管ヨリ分泌セル流液トノ化合ヨリ生スル一種ノ化學的現象ナランノミ

(3) 味勢ノ感覺ハ之ヲ大別シテ三種ト爲ス即チ(イ)嗜味ハ如

キ胃腑ト直接ハ關係ヲ有スル味覺(口)本味及ヒ(ハ)觸味是レナリ——先ツ其第一種ニ就テ論スレハ舌ト養溝トノ間ニ於テ構造上ノ聯續アルコト明白ナリ即チ粘膜諸腺及ヒ乳頭ノ如キ其表面ハ必ス一種ノ共通性ヲ有スルノミナラス舌表ノ感覺ハ全ク本味ト隔離シテ能ク食物ノ胃腑ニ適合スルヤ否ヲ速斷スルモノニシテ舌ハ實ニ胃腑ノ開端ナリ且ツ吾輩ノ所謂ル嗜味(Belish)ナルモノハ元ト常味(Taste)ト同體ニアラス牛酪及ヒ烹肉ノ如キハ嗜味ニシテ食鹽及ヒ幾尼涅ノ如キハ常味ナリ畢竟スルニ嗜味ハ胃腑ノ狀況ニ從テ消長スルモノニシテ時ニ或ハ船暈ニ罹リタルキノ如ク一變シテ嘔心ト爲ルナキニアラサルモ其餘ハ總テ消化



力ノ増損ニ伴隨スルヲ常トス  
 (4) 胃、腑ニ聯申セル味覺ハ之ヲ分類シテ嗜味 (Relishes) 及ヒ嘔味 (Disgusts) ノ二種トス——前段ニ說示セル嗜味ナルモノハ動物的食品及ヒ濃腴性植物ノ如キ香味 (Savoury) ト名クル食料ヨリ生スル快感ナリ砂糖ノ如キハ嗜常ノ二味ヲ兼有スルモノナリ而シテ嗜味ハ一種ノ快感ナリト雖モ之ヲ消化感ニ比スレハ更ニ輕銳ナルモノ之ヲ單純ノ甘味ニ比スレハ一層鈍重ナリトス且ツ消化作用トノ聯結ヲ以テ之ガ特性ト爲スモノナリ凡ソ嗜味ヲ包含スル物質ハ時ニ或ハ不消化性ヲ有スルヲナキニアラスト雖モ其胃腑ニ下ルニ及テハ決シテ嘔氣ヲ發セシムルヲナシ夫レ意志ノ促進ハ飲

食ノ距針ナリ故ニ其發動ノ強弱ニヨリテ嗜味ノ感度ヲ高低セシム可キモ智力上ノ堅執ハ之ニ向テ效果ヲ及ホスト固ヨリ多カラサルナリ  
 嗜味中ニハ其反對性ナル嘔味 (Disgusts) ヲ包含ス嘔味ハ嗜味ニ均シク胃腑ノ交感ヲ受クルヲ以テ消化感ニ聯申スルノ特性ヲ有スルナリ  
 (5) 本味中ニハ甘味ト苦味トヲ包含ス——甘味 (Sweetness) ハ砂糖ノ味勢ヲ以テ之ヲ表證スルヲ得ヘシ菓實及ヒ食品中ニ甘味ヲ具有スルヲアレハ砂糖ノ存在ニ由リテ然ルナリ世間此種ノ感覺ヲ名ケテ味覺本然ノ快樂 (Proper Pleasure of Taste) ト曰フ即チ味覺神經ハ刺戟ニヨリテ生スル快感ナリ



其度位(Degree)ヲ論スレハ銳烈ニシテ其特徵(Speciality)ヲ論スレハ判然他ノ快感ト隔離シテ言語ノ命狀ス可カラサル一異性ヲ有ス而シテ其能ク意志ニ適合スルハ其本性ノ快樂ニ屬スルヲ以テナリ且ツ本味ハ之ヲ諸種ノ有機感若クハ嗜味ニ比スレハ智力的作用ヲ有スルヲ更ニ大ナルノミナラス其強弱ヲ辨別シ及ヒ之ヲ記憶スルヲ一層明確ナルヲ得ヘシ味覺ハ智性上ヨリ論スレハ五感中ノ最下等ニ位スルモノナリト雖用之ヲ有機感ニ比スレハ其最高ナル者ノ上位ニ在ルナリト

苦味(Bitter Tastes)ハ幾尼涅、龍膽苦味蘆薈及ヒ煤粉ヲ以テ之ヲ例證スルヲ得ヘシ苦味ハ固ヨリ酸味ト同シカラス全

ク甘味ノ反對ニシテ味覺本然ノ苦痛(Proper Pain of Taste)ナリ是レ其味覺神經ヲ逆衝スルヨリ生スルモノニシテ其特性ハ恰モ甘味ニ於テ論斷スル所ニ均シ但々其差異ヲ言ヘハ苦味ハ消極的傾向ヲ有スルノミ

(6) 觸覺神經ノ媒介ニヨリテ生スルモノヲ以テ味覺ノ第三種ト爲ス而シテ之ガ特著ノ性質ハ刺戟性(Pungency)ナリ鹹味、酸味、澀味、炎味、辣味等ノ如キ皆ナ此種類ニ屬スルモノナリ

鹹味(Saline Taste)ハ食鹽ヲ以テ之ヲ例證ス可シ此味ハ甘味ニアラズ又々苦味ニアラズ唯是レ單純ナル刺戟性ノ味覺ニシテ其感覺ハ第五對神經ノ媒介ニ出ツルモノナリ某種ノ鹽類ニ至テハ其刺戟性ヲ本味ト結合スルヲ



リ。馮利鹽ノ如キハ稍鹹味ヲ帶フルモ苦味ノ勢力更ニ強大ナリ——鹼味(Alkaline Taste)ハ曹達、劉篤亞斯、安母尼亞等ヨリ發スル味勢ナリ其刺衝特ニ強銳ニシテ味覺神經ヲ激動スルヲ極メテ暴烈ナリ故ニ其結果タル終ニ酸痛ヲ感スルニ至ル是レ其作用ニヨリテ舌體組織ヲ壞瀾スルヲ以テナリ——酸味(Sour Taste)ハ刺衝性中ノ最モ卑近ナルモノナリ日用ノ醋ノ如キ是レナリ或ル酸類ノ味勢ヨリ生スル苦痛ハ苦味ニ似ルヲ少クシテ寧口火傷ニ類スルヲ多シ而シテ酸味ヨリ生スル快樂ハ刺衝性ノ快樂ナルヲ以テ亦々之ニ必須ナル限度ヲ守ラサル可カラサルナリ——澀味(Astringent Taste)ハ刺衝性中ノ温和ナルモノニシテ明礬ヲ以テ之ヲ例證ス

可シ澀味ヨリ生スル作用ハ明ニ純正ナル味覺ニ異ナリテ唯是レ一種ノ器械的勢力ヲ以テ觸覺神經ヲ衝動スルノミ凡ソ澀味ヲ含有スル物體ハ舌面ヲ收縮セシムルヲ以テ其感覺恰モ溶鹽ノ皮膚上ニ曬乾スルキノ如ク然リ又々粗味(Rough Taste)ト名クルモノアリ澀味ノ一種ニ屬ス鞣素ノ如キ是レナリ——炎味(Fiery Taste)ハ芥子、酒精、龍腦、揮發油等ヨリ生スルモノニシテ幾分カ本味ト混同スル所アルモ皆ナリ共通均一ノ性質ヲ有ス而シテ辣味(Acid Taste)ハ炎味ト苦味トノ結合ヨリ生スルモノナリ」

(リ)ラド(Ladd)——「味覺ノ官端(End-Organs of Taste)——舌根ノ上表ト舌邊及ヒ舌頂ニハ若干ノ乳頭(Papillae)アリ又々時トシ



テハ軟顎ノ前部ニ於テ之ヲ發見スルコトナキニアラス凡ソ此等ノ乳頭ハ其中ニ味覺ノ官端ヲ包含シ且ツ之ヲ分テ二種トス。圍的乳頭 (Circumvallatae Papillae) 及ヒ菌狀的乳頭 (Fungiformes Papillae) 是レナリ。圍的乳頭ハ薄片的上皮ヲ以テ包被シタル聯串的組織ヨリ成ル而シテ其皮層ノ疎薄ナル側邊ニ至レハ味覺ノ官端ハ自ラ一種ノ帶狀ヲ呈シテ平面ニ及フ此平面ハ側壁ノ乳頭ヲ保護セサルニ至リタル局部ナリ而シテ菌狀的乳頭ニ於テハ味覺ノ官端ハ其薄片的上皮ト頭邊ノ表面トニ現出ス。

味覺的壺體 (Gustatory Flasks) — 乳頭中ニ壺狀的腔洞アリ之ヲ充實スル體機ヲ名ケテ味覺的壺體 (Gustatory Flasks) ト曰

フ又ターツニ之ヲ味覺的瘤塊 (Gustatory Knobs) 若クハ味覺的球根 (Gustatory Bulbs) ト曰フ其下部ハ聯串的組織ノ上ニ在リテ其上部即頸項ニハ直徑一吋ノ四千分一乃至千二百五十分一ナル細竅アリ此壺體ハ十五個乃至三十個ノ長薄形細胞ヨリ成リテ其狀恰モ洞蕾ノ如シ而シテ其竅邊ノ構造ハ衆胞ノ叢合ニ出ツ又コノ味覺的壺體ハ上皮の細胞 (Epithelial Cells) 及ヒ味覺的細胞 (Gustatory Cells) ナル二種ノ細胞ヨリ成ルコトアリ而シテ此上皮の細胞ハ一ツニ扮被的細胞 (Investing Cells) ト曰フ其狀長狹ニシテ屈曲シ宛然紡錘形ヲ成シテ中ニ仁核ヲ含有ス其外端ハ銳鋒形ヲ呈シ中央端ハ分枝狀ヲ現ハス味覺的細胞ハ長薄ニシテ高度ノ折光力ヲ有



シ全體幾ンド楕圓形仁核ヲ以テ充實ス其胞體ハ分レテ二方ニ延長シ其上方ニ在ルモノハ平扁ニシテ短鋒ヲ有ス其形硬髮ヲ束子タルガ如シ而シテ此短鋒ハ一種ノ溝管中ニ潜伏シテ壕竅ヨリ突出スルヲ甚々稀レナリ  
味覺ヲ司ル神經中最モ樞要ナルモノハ實ニ舌咽神經(Glossopharyngeal Nerve)ナリ然レモ或ハ三叉神經(Trigeminus)ノ舌支ヲ以テ味覺ヲ助クル者ナリト想定スル者アリ舌咽神經ハ分支放散シテ舌根ニ及ヒ延テ乳頭ニ入り以テ神經的粒體ト交雜セル一種ノ細叢ヲ形成ス而シテ舌咽神經ト受感神經ノ細胞トハ蓋シ此細叢ト粒體トノ媒介ニ由リテ間接ニ聯串スルモノナラン

味覺ノ局部(Excitable Regions for Sensations of Taste)——各種ノ含味體ハ味官ノ各部ニ適用スルモ果シテ同一ノ感覺ヲ生スルヤ否ノ疑點ニ關スル問題ハ實驗ヲ以テ之ニ明答スルヲ誠ニ難シ吾人が往々味覺ヲ命狀スルニ刺傷的(Prickly)刺戟的(Piquant)致冷的(Cooling)等ノ形容詞ヲ用フルトアリ斯クノ如キハ常ニ他感ニ混同スルノ患ナキニアラサルナリ之ヲ要スルニ甘酸ノ二味ハ舌頂ニ感スルヲ強クシテ苦酸ノ二味ハ舌根ニ感スルヲ明確ナリ千八百八十八年シヨンス、ホプキンス大學校ノ實驗室ニ於テ發見シタル成績ニ據レハ糖汁ヲ舌根ニ滴注スレハ苦味ヲ生シ之ヲ舌頂及ヒ前半ノ舌邊ニ接觸セシムレハ甘味ヲ感スト云フ然レモ又々別



種ノ觀察者ガ報告スル所ニ從ヘハ甘味ニ對スル舌根ノ感能ハ十中ノ九人マデ最モ強銳ニシテ酸味ニ對スル舌邊ノ感能ハ十中ノ七人マデ極メテ銳烈ナルヲ發見シタルモ舌根ハ苦味ニ敏ニシテ酸味ニ鈍ナルヲ知得セリト云フ  
 凡ソ此種ノ實驗ヲ施行スルニハ充分ニ各人ノ特質ト性癖トヲ諒察スルヲ最モ緊要ナリ且ツ味覺ノ官端ニ向テ外勢ノ適用ヲ制限スルノ困難ナルヲ忘ル可カラサルノミナラス時ニ或ハ其刺戟ニ對スル感能ノ舌域以外ニ及ブコアルヲ思ハサル可カラス味覺ノ感能ハ往々軟顎及ヒ其附近ノ上顎中ニ存スルヲナキニアラス嘗テ一患者アリ其全舌ヲ切斷シタルモ猶ホ能ク飲食ノ咽頭若クハ殘舌ノ粘膜ニ接

觸スルニ每ニ必ス多少ノ味覺ヲ留存セリト云フ  
 味覺ヲ刺戟スヘキ外勢(Stimulus of Sensation of Taste) 味覺ヲ激作スヘキ外勢ハ唯是レ液體アルノミ然レモ液體ニ觸レテ溶解スヘキ物體ノ如キモ亦タ之ヲ激作スルヲナキニアラス絶對的不溶性ヲ有スル物質ハ總テ無味ナリトス可溶性ヲ有スル物體ニシテ間味覺ヲ激作セサルコトアルモ吾輩ハ未ダ可溶體ト味覺トノ間ニ存スル關係ヲ整理スヘキ一定ノ天則アルヲ知ラサルナリ或ル實驗家ノ主張スル所ニ據レハ某種ノ氣體アリテ味官ニ接スルルル之ヲシテ其特殊ノ感覺ヲ生セシムルナリト云フ然レモ吾輩ノ見ル所ヲ以テスレハ全舌ノ甚シク乾燥シテ其所謂ル氣體ノ吸收ヲ



妨遮スルニ至ルヲアリヤ否ヲ證明スルガ如キハ至難ノ業タルヲ知ルナリ  
 味覺ノ機械的并ニ電氣的激作(Mechanical and Electrical Excitation of Taste)——機械的方便ヲ以テ能ク味覺ヲ激作シ得ヘキヤ否ハ吾輩ノ未タ斷言スルヲ得サル所ナリ或ル著名ノ一二大家ハ味覺中ニハ舌ノ摩擦若クハ壓搾ヨリ生スル感覺ト交雜セルモノアルヲ明言セリ而シテ電氣ノ能ク味覺ヲ激作シ得ヘキヤ否ノ問題ニ關スル諍論ハ一百餘年ノ久シキニ亘リテ猶ホ決定セサリシナリ其後ニ至リ終ニ電氣ノ可激力アルヲ證明スルヲ得タリ何トナレハ四人ヲ聯結シテ一列ト爲シ之ニ向テ電流ヲ通シ甲人ノ舌乙人ノ

目及ヒ丙丁二人ノ拿把セル蛙肉ヲ經過セシムル片ハ同時ニ甲人ノ口ニハ酸味ヲ覺ヘ乙人ノ目ハ閃光ヲ睇視シ丙丁二人ハ蛙肉ノ活動スルヲ目撃スレハナリ又々別種ノ實驗ニ由リテ電氣ノ味覺ヲ激作スヘキ一勢力ナルヲ確定スルニ至レリ  
 主觀的味覺(Subjective Sensation of Taste)——動物ノ血液中ニ含味體ヲ注射スル片果シテ味覺ヲ生スルモノナルヤ否ヲ證明セント欲シ實驗ヲ行ヒタルト一ニシテ足ラスト雖も終ニ明確ナル成績ヲ得ル能ハスシテ止ミタリ而シテ吾人ノ有スル主觀的味覺ハ唾液ノ媒介ニヨリ舌表ニ實接シタル物體ニ淵源スルモノニシテ各種ノ味勢ヲ夢想上ニ描成ス



ルガ如キハ幾シト絶無ナリト曰フモ可ナリ  
 含味體ノ諸性(Properties of Tastable Substances)——舌ノ官端及  
 ヒ上顎ノ軟區ヲ激作スヘキ物性ノ如何ニ就テハ吾人猶ホ  
 暗中ニ在リテ之ヲ明言スル能ハス唯含味體ノ化學的構成  
 及ヒ其作用ト各種ノ味勢トノ間ニ存スル關係ヲ發見セシ  
 ト欲シテ數回ノ實驗ヲ累テタルノミ而シテ此關係ハ酸類  
 ナリテ最モ簡單ナリトス蓋シ酸類ハ嗅覺ノ交渉ヲ絶チタ  
 ル場合ニ於テハ概テ同一ノ味勢ヲ有スレハナリ其他炭素  
 的化合物ハ大抵ミナ明白ナル酸味ヲ生シ各種ノ鹽化物ハ  
 總テ食鹽性ノ鹹味ヲ呈ス然レモ高等ナル位置ヲ有スル化  
 合物ニ至テハ其味漸ク鹹性ヲ帶ヒテ終ニ苦味ヲ發スルチ

常トス甘味性ノ物體ハ概テ酒精的物質ニシテ炭素十二水  
 素三酸素十六ノ比例ヲ以テ化合シタルモノナリ  
 前述ノ事實ニ就テ説ヲ作ス者アリ其言ニ曰ク凡ソ含味體  
 ニハ震動性ヲ有スル物質ノ周圍スルアリテ味官ノ受感的  
 表面ヲ激作ス故ニ其感覺ノ性質ハ其震動的物質ノ性質ニ  
 基キテ定マルナリト千八百八十七年ヘイクラフト(Haycraft)  
 ノ唱道セル立論ノ如キ是レナリ結合性ト親和性トヲ有ス  
 ル某種ノ鹽類ハ能ク震動シテ眼球ヲ刺戟シ以テ同一ノ色  
 感ヲ生ス含味の化合物ヲ以テ論スルモ亦然リ同根ノ元素  
 ナ包含スルモノハ必ス同一ノ震動ニ由リテ同一ノ味勢ヲ  
 發スルナリ但々味覺上ニ於テハ時トシテ皮相上ノ例外ナ



キニアラス是レ舌ハ目ノ如キ分解ノ能力ヲ有セサルニ職  
由スルナリ即チ震動ノ簡單ナルト復雜ナルトニ論ナク必  
ス同一ノ味勢ヲ生スルコトアル所以ナリ  
味覺ノ彙類法 (Classification of Taste) — 味官ヨリ生スル諸感  
ハ常ニ嗅覺觸覺温感通感及ヒ筋感ト交聯スルコト多シ而シ  
テ之ヲ區分シテ酸味甘味鹹味及ヒ苦味ノ四特感ト爲ス  
心理學上ノ慣例ナリト雖モウント (Wundt) ハ之ニ添加スル  
ニ鹼味 (Alkaline Taste) ト鑷味 (Metallic Taste) トノ二種ヲ以テセ  
リ其他ノ似而非的味覺ノ如キハ蓋シ各種ノ味覺及ヒ前示  
ノ諸感ノ互ニ交雜シテ生スルモノナラシカ然レモ此種ノ  
彙類法ヲ以テ果シテ能ク吾人ノ味覺上ニ有スル百般ノ實

驗ヲ網羅シ盡ス可キヤ否ハ吾輩ノ竊ニ感フ所ナリ惟フニ  
味官ヨリ生スル諸感ハ色感及ヒ光感ノ如ク意識上ニ於テ  
之ヲ分解シ以テ少數ナル單元ニ復歸セシム可カラサルナ  
リ即チ味覺ノ彙類シ盡ス可カラサルハ全ク茲ニ基因ス且  
ツ味覺ハ多種ニシテ混亂ヲ生シ易シ此點ニ於テハ大ニ嗅  
覺ニ似タル所アリ是レ吾輩ガ在來ノ彙類法ヲ以テ満足シ  
復々敢テ其中ニ就テ取捨ヲ行ハサル所以ナリ』

(i) 結論

上來引證シタル諸大家ノ味覺ニ關スル立論ハ獨リ精粗詳  
畧ノ相異ナルノミナラス亦々互ニ祖述ト創意トノ別ナキ  
能ハサルナリ中ニ就テバトンスティンペインラッドデウエー



等ノ意見ノ如キハ特ニ參考ノ價值アルモノト知ル可シ即チデウエーノ電味、搾味、撓味、物量、等ニ關スル意見バーンステインノ電味、幻影、物質、物量、等ニ關スル意見ノ如キ稍見ル可キモノナキニアラス且ツ受感ノ局部ニ就テハ舌ヲ以テ之ガ主器ト爲スト諸家概子一ツナリト雖田軟顎及ヒ口垂ヲ以テ其中ニ算入スル者ナキニアラス斯クノ如キハ實ニ立論者ノ一私言ニシテ未タ公通ノ定論タル能ハサルベシ蓋シ舌以外ノ局部ニ於テ能ク味勢ヲ感受スヘキヤ否ハ各人ノ實驗上未タ一定ノ成績ヲ得ヘカラサレハナリ又々味覺ノ種別ニ就テハ已ニベインノ立案ニ從ヒ假ニ之ヲ分テ嗜味、本味、及ヒ觸味ノ三種ト爲シタリト雖田今前記

ノ諸說ヲ參酌シテ更ニ完全ナル種別法ヲ案出セハ

- (1) 固<sup>○</sup>有<sup>○</sup>的<sup>○</sup>味<sup>○</sup>覺<sup>○</sup> (Taste Proper)
  - (い) 甘<sup>○</sup>味<sup>○</sup> (Sweet Taste) — 砂糖、醋酸鉛、等
  - (ろ) 苦<sup>○</sup>味<sup>○</sup> (Biter Taste) — 幾尼涅、熊膽、等
- (2) 養<sup>○</sup>溝<sup>○</sup>的<sup>○</sup>味<sup>○</sup>覺<sup>○</sup> (Alimentary Taste)
  - (い) 嗜<sup>○</sup>味<sup>○</sup> (Relish) — 水、澱粉質、等
  - (ろ) 嘔<sup>○</sup>味<sup>○</sup> (Disgust) — 腐敗物、滿腹後ノ飲食、等
- (3) 嗅<sup>○</sup>覺<sup>○</sup>的<sup>○</sup>味<sup>○</sup>覺<sup>○</sup> (Olfactory Taste)
  - (い) 芳<sup>○</sup>味<sup>○</sup> (Frayolant Taste) — 海苔、檸檬、蒲燒、等
  - (ろ) 臭<sup>○</sup>味<sup>○</sup> (Stink Taste) — 肝油、等
- (4) 觸<sup>○</sup>覺<sup>○</sup>的<sup>○</sup>味<sup>○</sup>覺<sup>○</sup> (Tactile Taste)



- (い) 辛味 (Pungent Taste) — 芥子、酒精、龍腦、等
  - (ろ) 炎味 (Fiery Taste) — 酒精、等
  - (は) 鹹味 (Saline Taste) — 食鹽、等
  - (に) 酸味 (Sour Taste) — 醋、等
  - (は) 鹼味 (Alkaline Taste) — 曹達、安母尼亞、等
  - (へ) 澀味 (Astringent Taste) — 明礬、柿澀、等
  - (5) 視覺的味覺 (Optical Taste)
  - (い) 快味 (Agreeable Taste) — 形狀、着色、陪器、等ノ純潔快美ナル飲食
  - (ろ) 厭味 (Odious Taste) — 全上ニ反對セル飲食
- ノ如クナルノ適當ナルヲ信スルナリ此外ナホ數種ノ味覺

アリ金屬固有ノ性質ヨリ生スル鑠味 (Metallic Taste) 辛苦ニ味ノ結合ヨリ生スル辣味 (Acrid Taste) 鞣素ヨリ生スル味勢ニシテ澀味ノ一種ニ屬スル粗味 (Rough Taste) 等ノ如キ是レナリ又々電氣ノ作用ニ由リテ生スル辛酸鹼ノ諸味ハ唾液ノ分離ニ起因スルヲ以テ固ヨリ別種ノ味勢ト爲スニ足ラス而シテ撓打ヨリ生スル酸味、壓搾ヨリ發スル苦味ノ如キハ一種ノ幻影ニ屬スルモノト知ル可シ

視覺ノ交助ニ由リテ生スル視覺的味覺ノ如キハ唯是レ明鏡ニ於テノミ發作スルモノニシテ暗中ニ在テハ全ク活動スルヲナシ故ニ盲人ノ心界ニハ終生此種ノ感覺ヲ生セサルナリ



(ろ) 嗅覺

(a) 定義

嗅覺 (Olfactory Sensation) トハ嗅官ノ媒介ニヨリテ外界ノ嗅勢ヲ内傳スル下等感覺ナリ凡ソ吾人ノ感官ニ憑リテ外物ヲ知ルモノ決シテ之ガ本體ヲ直識スルニアラサルナリ唯ソノ媒介ニヨリテ外物ヨリ發スル勢力ヲ知ルニ止マルトハ已ニ論明スル所ノ如シ而シテ天地間ニ存スル各種ノ嗅勢ノ如キ即チ物勢中ノ一種ニ屬スルモノニシテ發香體ノ作用ニ出ツル結果ナリ從來心理學 (Psychology) 上ニ於テハ體慾上ニ關係ヲ有スルト多クシテ專ラ其快樂ヲ助ケ及ヒ其指導ニ任スル感覺ヲ各ケテ下等感覺 (Lower Senses) ト曰ヒ

之ニ反シテ多ク智力上ノ關係ヲ有スル感覺ヲ總稱シテ高等感覺 (Higher Senses) ト名クルヲ常トス即チ此嗅覺ノ如キハ味覺ト共ニ下等感覺ニ屬スルモノナリ然レモ之ヲ味覺ニ比スレハ體慾上ノ關係少クシテ智力上ノ關係更ニ多キヲ知ルナリ是レ其味覺ニ比シテ一級ノ上位ヲ占ムル所以ナリ況ンヤ香水、抹香、線香、花香等ヲ嗅クニ至テハ全ク體慾上ノ關係ヲ離レテ純全ナル智力的作用ヲ有スルニ於テオヤ味覺ト雖モ試酒者ノ酒性ヲ鑑査スルガ如キ其作用已ニ高等ナル智力的性質ヲ有ス嗅覺ヲ以テ論スルモ亦タ然リ食品商ガ茶、珈琲等ノ良否ヲ鑑査シ化學者ガ藥品ノ試験、分析等ニ從事スル場合ノ如キ之ヲ花香、線香等ヲ嗅クノ場合



ニ比スレハ其作用更ニ數等ノ上ニ位ヌルヲ知ル可シリ  
 ド子ルハ味嗅ノ二感ヲ名ケテ化學的感化學的感覺(Chemical Senses)  
 ト曰フ蓋シ此二感ハ外物ノ官膜ニ觸レテ粘液ノ爲ニ一種  
 ノ化學的親和ヲ生スルニ起因スレハナリ亦以テ一個ノ新  
 機軸ヲ出シタルモノト謂フ可シシヤイデンガ此二感ヲ以テ  
 機機智智交交涉渉感感(Organico-Intellectual Sensation)ト爲シタルハ其有  
 機作用ヨリ生スル體慾ト心界ニ屬スル智力トニ並交聯申  
 スルヲ以テナリ蓋シ又々穩當ナル種別法ナランカ

## (b) 官機

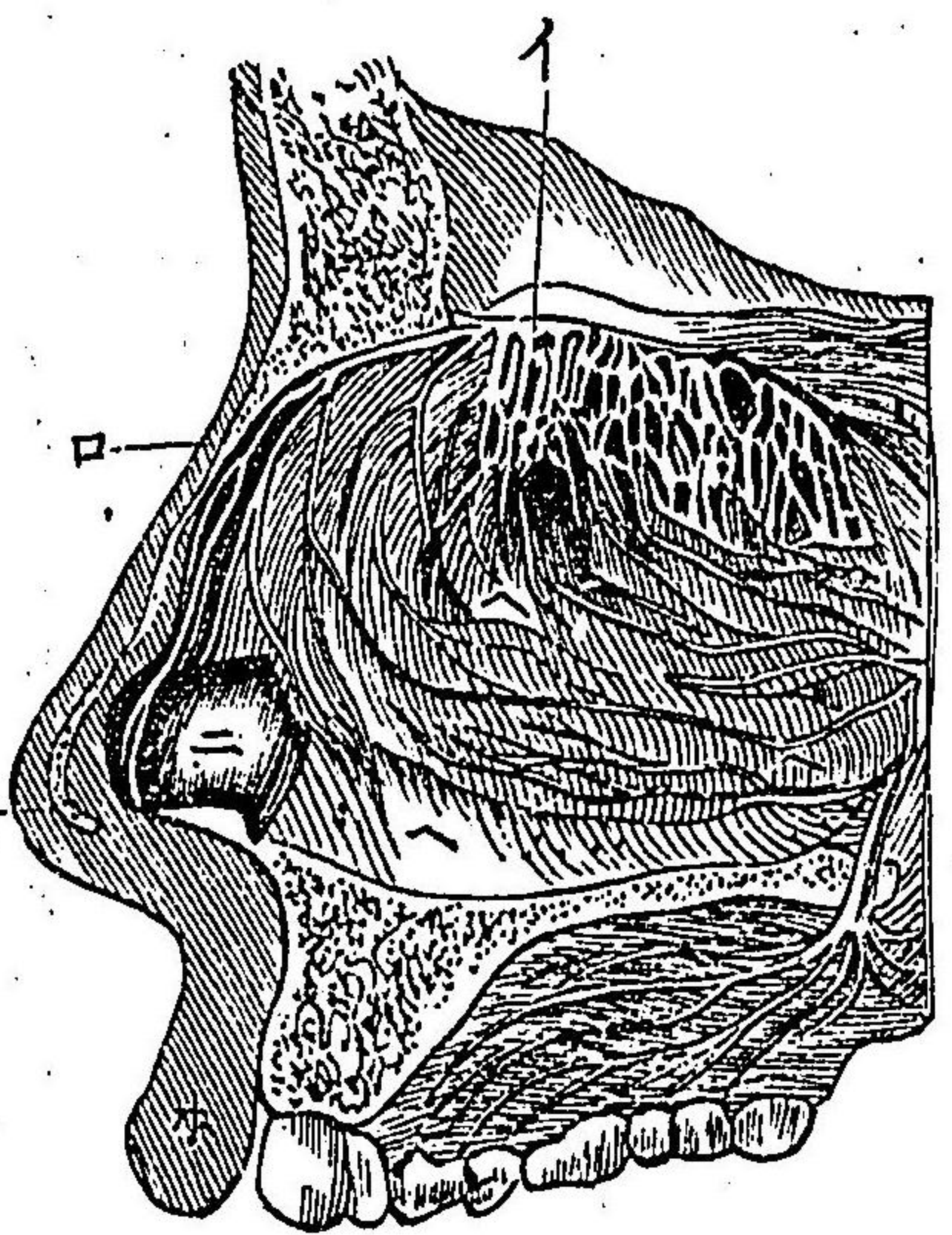
嗅覺ヲ司ル官機(Sense Organ)ハ鼻嗅覺神經及ヒ嗅覺神經叢  
 會ノ三者ヨリ成ルーツニ之ヲ名ケテ嗅器(Olfactory Apparatus)

ト曰フ而シテ鼻ヲ以テ之ガ主機ト爲スナリ其位置ハ肺臟  
 ノ門口ニ在リテ其受感ノ局部ハ鼻窩内ニ在ル粘膜ナリ嗅  
 覺神經ノ末端コノ處ニ至リテ畢リ紛如トシテ其裏面ヲ經  
 緯スルヲ以テ外界ニ飛散スル嗅勢ノ之ニ觸ル、トアル片  
 ハ忽チ之ヲ感受スルニ至ル鼻ハ肺臟ノ門口ニ在リテ舌ハ  
 養溝ノ門口ニ在リ其機能ニヨリテ其區別自ラ判然タリ然  
 ルニ世人往々其位置ヲ混同シ口鼻ノ二者ヲ以テ共ニ肺臟  
 ノ門口ナリト爲スモノ多シ蓋シ飲食ノ鼻ヨリ入ルトナキ  
 ハ誠ニ明白ナル事實ナレト呼吸スルト空氣ノ自在ニ此二  
 門ヨリ出入スルトアルヲ以テノ故ナラン思ハサルノ甚シ  
 キナリ鼻窩内ニ細毛アリテ其孔道ノ迂曲スルハ空氣ヲ吸



入スル片其中ニ混痰セル汚塵ヲ排除シ併セテ冷氣ノ直接ニ氣道ヲ冒スヲ防クガ爲メナリ以テ肺臟ノ門口ハ口ニアラスシテ鼻ナルヲ知ル可シ  
今左ニ鼻窩ノ横斷圖ヲ描示ス讀者宜シク之ニ就テ其構造ト形狀トヲ細察スヘシ

鼻窩横斷圖



- 「イ」ハ嗅覺神經
- 「ロ」ハ外鼻
- 「ハ」ハ鼻骨
- 「ニ」ハ鼻孔
- 「ホ」ハ上唇
- 「ヘ」ハ鼻窩内ニ在ル嗅覺神經ノ分支

鼻窩ニ通スル主要ノ神經ハ固有ノ嗅覺神經(Olfactory Nerve)ト第五對腦髓神經ナル三又神經(Tri-facial Nerve)トノ二種ニシテ特ニ觸覺上ニ關係ヲ有スルモノハ三又神經ノ分支ナリトス然レモ便宜上コノ感覺ヲ媒介スル神經ヲ大別シテ

- (1) 固有の嗅覺神經
- (2) 肺臟的嗅覺神經
- (3) 觸覺的嗅覺神經

ノ三種ト爲スヘシ固有の嗅覺神經トハ所謂ル嗅覺神經(Olfactory Nerve)ニシテ固有の嗅覺(Smell Proper)ト名クル嗅官本然ノ感覺ヲ司ルモノナリ肺臟的嗅覺神經ハ肺臟ノ作用ナル呼吸上ニ關スル嗅勢ヲ媒介スル機能ヲ有スルモノニ



シテ觸覺的嗅覺神經ハ觸覺ト交渉セル神經ナリ即チ刺戟性ヲ有スル嗅勢ヲ内傳スルヲ以テ機能ト爲スモノナリ

(c) 物質

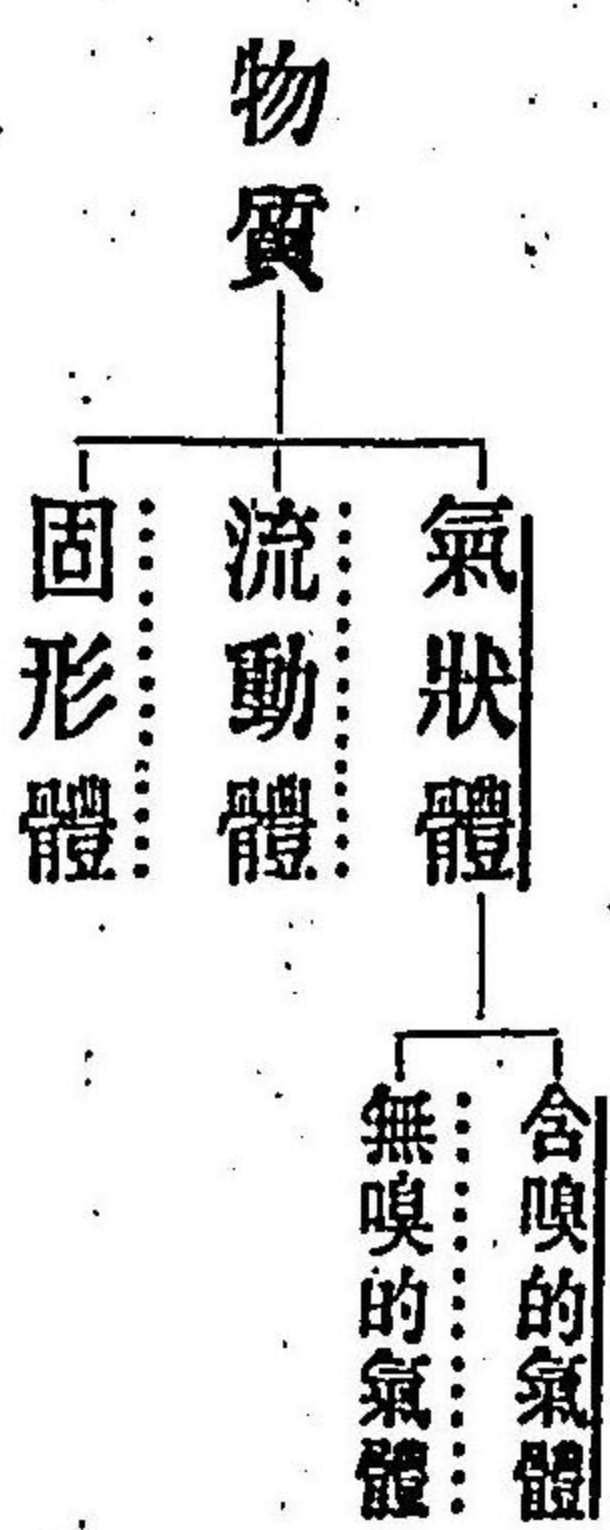
嗅官ノ感受スヘキ物質(Matter)ノ勢力ハ冷ク氣流固ノ三體ニ通スルガ如シト雖モ其實ハ僅ニ氣狀體中ノ一部分ニ止マルモノトス何トナレハ純全ナル流動體及ヒ固形體ニ至テハ固ヨリ其勢力ヲ感受ス可カラサルノミナラス氣狀體ト雖モ盡ク之ヲ覺收シ得ヘキニアラス空氣、水蒸、等ノ如キハ全ク吾人ノ嗅官ニ感應セサルモノナリ故ニ之ヲ分テ含嗅的氣體(Odorous Gases)ト無嗅的氣體(Inodorous Gases)トノ二種トス即チ動植金石等ノ諸體ヨリ發散スル嗅勢ハ含嗅

的氣體ナルモ空氣、水蒸、等ノ如キハ毫モ吾人ノ感受スヘキ嗅勢ヲ有セサルヲ以テ無嗅的氣體ト爲スナリ或ハ絶對的觀察ヲ以テ之ヲ論スルハ空氣、水蒸、等ノ諸體中ニモ猶ホ幾分ノ嗅勢アルヘシ啻ニ幾分ノ嗅勢ヲ有スルノミナラス或ハ更ニ別種ノ嗅勢ヲ有スルモ未タ知ル可カラスト雖モ苟モ嗅官ノ之ヲ媒介シ得サル限リハ心理上ニ於テ之ヲ無嗅ノ物質ト爲スヘキト固ヨリ當然ナリトス猶ホ是レ味覺ノ場合ニ於テ硝子、陶器、等ノ無味ナルヲ論斷シタルト同一ノ筆法ナリ

今夫レ前述ノ理由ニヨリ嗅覺ノ感受スヘキ物質ト否ラサルモノトテ區別スルハ其範圍内ニ屬スヘキ物質ハ僅ニ



天地間ノ一小部分ヲ占ムルニ過キサルヲ知ルヘシ乃チ其  
状態ヲ圖解スレハ



ノ如ク茫々タル此宇宙間ニ於テ嗅官ノ能ク感受スヘキ物  
勢ハ榜柱ヲ以テ標示セル一小部分ニ止マリ其點線ヲ施シ  
タル過半ノ部分ハ全ク嗅官ノ無覺界ニ屬スルモノナリ是  
ニ由テ之ヲ觀レハ嗅官ノ感受スヘキ物質ノ範圍ハ三物質  
中ノ一種ナル氣狀體ノ全部スラ治占スル能ハサルヲ以テ  
之ヲ味覺ノ流固二體ニ聯申スルニ比スレハ其狹隘ナルヲ

更ニ一層ノ甚シキヲ知ルナリ

酒ニハ酒ノ香氣アリ肉ニハ肉ノ香氣アリ其他痰汁膾養ノ  
各種ヨリ動植金石ノ諸類ニ至ルマデ皆ナートシテ多少ノ  
嗅勢ヲ有セサル莫シ是ニ於テカ人或ハ流固ノ二體ニ接シ  
テ直ニ其嗅勢ヲ感受シ得ヘシト爲スニ至ル妄想ノ甚シキ  
モノト謂フ可シ畢竟スルニ是等ノ諸物ニ接シテ其嗅勢ヲ  
感受スル所以ノモノハ光温氣水ノ緣助アリテ其物質ノ氣  
狀體ニ變化スルニ由ルノミ決シテ物勢ノ單純ナル作用ニ  
出ツルニアラサルナリ故ニ動植金石ノ諸物アリト雖モ若  
シ之ヲシテ温熱ナク水分ナキノ境遇ニ在ラシメハ吾人ハ  
全ク之ヲ覺知スル能ハサルナリ以テ流固二體ノ直感ス可



カラサルヲ知ル可シ

(d) 境遇

内ニ心意ノ作用アリ間ニ感官ノ媒介アリテ外ニ物質ノ勢カアレハ必ス感覺ノ生セサルヲナキガ如シト雖モ苟モ其境遇(Circumstance)ノ宜シキヲ得サルヲアラハ縦令ヒ千百ノ含嗅體アリト雖モ以テ其勢力ヲ内傳ス可カラサルナリ是レ味覺ニ均シク此嗅覺ニ於テモ必ス逆境ヲ避ケテ順境ニ就クノ已ム可カラサル所以ナリ今ソノ特ニ須要ナルモノヲ列擧スレハ

- (1) 滋潤
- (2) 溫度

- (3) 日光
- (4) 物量
- (5) 時間
- (6) 接觸
- (7) 覺醒
- (8) 注意
- (9) 健全
- (10) 單純

ノ十項アリ乃チ其各項ニ就テ逐論細説スヘシ  
滋潤トハ鼻窩内ノ裏膜常ニ粘液ヲ分泌シテ嗅勢ノ之ニ接スルニ方リ一種ノ化學的親和ヲ生シテ之ヲ内傳スルニ便



ナラシムルト固形體ヨリ發散スル細分子ヲ誘導シテ空氣中ニ混入セシメ以テ氣狀體ニ變化セシムルトノ二點ニ就テ最モ必要ナル條項ナリ蓋シ如何ニ強盛ナル嗅勢アリト雖モ鼻膜モシ全ク乾燥シテ皮膚ノ如クナルヲアラハ毫モ其物勢ヲ感受スル能ハサルノミナラス外界ニ水分ナキキハ固形體ノ細分子ヲ蒸散セシムルニ由ナキヲ以テナリ嗅勢ヲ包含セル氣狀體中ニハ多少ノ水分ヲ有スルモ鼻膜ヨリ分泌スル粘液ナケレハ其感受上ニ必須ナル化學的親和ヲ生スル能ハサルナリ是レ此二點ニ於テ滋潤ノ欠ク可カラサル所以ナリ

溫度トハ嗅官ヲシテ其本然ノ血溫ヲ保持セシムルニ必要

ナルノミナラス外界ニ於テ含嗅體ノ蒸發飛散ヲ促スニ必要ナル條項ナリ蓋シ鼻ノ嗅勢ニ於ケル猶ホ口ノ味勢ニ於ケルガ如シ苟モ其官機ヲシテ適度ノ溫熱ヲ保持スルヲナガラシメハ其結果タル恰モ口ノ極冷極熱ノ飲食ニ接シタルキト同一轍ナランノミ且ツ外界ニ在ル凡百ノ含嗅體ハ縱令ヒ充分ナル濕氣ヲ有スルモ溫熱ノ之ニ加ハルヲナクシハ決シテ氣化蒸散スルヲナキナリ況ンヤ之ヲシテ溫熱ナク水分ナキノ境遇ニ在ラシムルキハ千萬年ヲ經ルト雖モ終ニ寸毫ノ嗅勢ダニ發スルヲナクシテ已ミヌヘシ盛夏金ヲ鏢スノ日ニ在テハ香臭共ニ之ヲ感覺スルヲ銳烈ナレモ嚴冬霜ヲ履ムノ晨ニ於テハ其感受極メテ微弱ナリ是レ



幾分カ鼻窩ノ冷却スルニ基因スト雖其主要ノ原因ハ外界ニ於ケル温熱ノ欠乏ニヨリテ嗅勢ノ飛散ヲ促スト少キニ存スルヲ知ル可シ  
 日光ハ固流二體ノ中ニ存スル各種ノ嗅勢ヲシテ蒸發飛散セシムルニ必須ナル一要素ナリ固形體若クハ流動體ヲシテ氣狀體ニ變化セシムルニハ滋潤ト温度トノ二項ヲ具備スレハ已ニ充分ナルガ如シト雖日光ハ物質ノ分壞ヲ促スニ最モ強盛ナル化學的勢力ヲ有スルヲ以テ其有無多少ハ嗅覺ノ作用上ニ重大ノ關係ヲ有スルヲ明白ナリ是レ日光ノ滋潤及ヒ温度ノ二境ニ亞テ嗅覺上必須ノ一動力タル所以ナリ

以上三項ノ外物量及ヒ時間ヨリ健全及ヒ單純ノ諸項ニ至ルマデ已ニ味覺ノ境遇ニ於テ反覆細論セリ吾輩固ヨリ贅言ヲ費スヲ欲セス因テ更ニ茲ニ是等ノ諸項ニ關スル解説ヲ再述セサルナリ然レ其中心ニ在ル注意ノ一項ニ至テハ味覺ノ境遇ニ於テ之ヲ脱落シタルヲ以テ特ニ之ガ解説ヲ試ミ併セテ其欠漏ヲ填補スヘシ  
 注意トハ外界ノ物勢ヲ感受スルニ方テ心意ノ精力ヲ其一點ニ專傾凝聚スル作用ニシテ獨リ此嗅覺ノ上ニノミ必要ナル條項ニアラス味觸聽視等ノ諸感ニ必要ト爲ス所ノ境遇ナリ今嗅覺ノ上ニ就テ之ヲ論スレハ外界ノ嗅勢ニ接シテ充分ニ其性狀ヲ詳ニシ以テ完全ナル嗅勢上ノ觀念ヲ



啓發スルニハ必ス其心力ヲ此一點ニ凝注シテ之ガ散動ヲ防カサル可カラサルナリ受感ノキ其心力八方ニ散漫シテ一定スル所ナケレハ如何ナル強勢ニ接スルコトアルモ感應スルコトナカルヘシ或ハ全然感覺セサルコトナキモ其物勢ノ十分一ヲモ感受スル能ハサルヘシ故ニ縱令ヒ完全ナル覺醒ノ境遇ニ在リト雖モ注意ノ一項ヲ怠ルコトアラハ嗅官ハ幾ンド其機能ヲ表ハス能ハスシテ空シク無用ノ長物ニ屬スヘキノミ簫ヲ聞テ肉ノ味ヒテ忘ルナド日ヘル場合ノ如キハ味覺ノ境遇ニ於テ注意ノ一項ヲ怠リタル一適例ナリ聽覺ノ上ヨリ論スレハ或ハ此一項ニ努メタルノ跡ナキニアラサルモ之レトテモ決シテ注意ノ完全ヲ得タルモノニ

ハアラサルナリ故ニ食ヒナガラ聞キ聞キナガラ食フガ如キハ共ニ境遇ノ宜シキヲ得タルモノニアラサルヘシ感官ハ多キモ心力ハ一ツナリ必ス同時ニ數官ヲ併用シテ感受ノ不完全ヲ來タスコトナキヲ要ス即チ感覺ナルモノハ其種類ノ高下ヲ論セス注意ノ多少厚薄ニヨリテ著シキ徑庭ヲ生スルコト以テ知ル可キナリ關羽ガ荖ヲ圍テ創ヲ療シタルガ如キハ苦痛ヲ避クルガ爲メ實ニ已ムヲ得サルニ出テタルモノニシテ故ヲニ觸覺上ノ注意ヲ視覺上ニ遷シタルナリ斯クノ如キ場合ト雖モ心理上ヨリ之ヲ論スレハ皮膚上ノ受感ハ決シテ完全ヲ得タルモノニ非サリシコト固ヨリ論ヲ待タス注意ノ感覺上ニ必須ナル則チ斯クノ如キノミ



(e) 種別

嗅覺ノ種別ハ猶ホ味覺ノ種別ニ於ケルガ如ク諸家ノ説ク  
所各一ツナラスト雖田其性狀ニ從テ之ヲ分類スレハ

- (1) 固有的嗅覺 (Smell Proper)
- (い) 芳香的嗅覺 (Fragrant Smell)
- (ろ) 惡臭的嗅覺 (Stink Smell)
- (2) 肺臟的嗅覺 (Pulmonary Smell)
- (い) 致快的嗅覺 (Fresh Smell)
- (ろ) 壓迫的嗅覺 (Close Smell)
- (3) 胃腑的嗅覺 (Gastric Smell)
- (い) 動嗜的嗅覺 (Relishing Smell)

(ろ) 促嘔的嗅覺 (Nauseous Smell)

(4) 觸覺的嗅覺 (Facile Smell)

(い) 温和的嗅覺 (Mild Smell)

(ろ) 苛烈的嗅覺 (Harsh Smell)

又四大類及小種アルヲ見ルベシ今逐次ソノ各項ニ就テ舉  
證細説セシトス  
固有的嗅覺ト云フ者ハ他官ノ交渉助成ヲ受ケルコトナクシテ全ク  
嗅管本然ノ獨立作用ニ出ツルモノナリ此種ノ嗅覺ハ更ニ  
之ヲ小別シテ芳香的嗅覺及ヒ惡臭的嗅覺ノ二種トス芳香  
的嗅覺トハ薔薇素馨薑茶橙皮柑皮柚皮等ヨリ發スル香氣  
ニ觸ルニ生ズル感覺ニシテ惡臭的嗅覺トハ汚泥人糞沼



(e) 種別

嗅覺ノ種別ハ猶ホ味覺ノ種別ニ於ケルガ如ク諸家ノ説ク  
所各一ツナラスト雖モ其性狀ニ從テ之ヲ分類スレハ

- (1) 固有的嗅覺 (Smell Proper)
  - (い) 芳香的嗅覺 (Fragrant Smell)
  - (ろ) 惡臭的嗅覺 (Stink Smell)
- (2) 肺臟的嗅覺 (Pulmonary Smell)
  - (い) 致快的嗅覺 (Fresh Smell)
  - (ろ) 壓迫的嗅覺 (Close Smell)
- (3) 胃臟的嗅覺 (Gastric Smell)
  - (い) 動嗜的嗅覺 (Relishing Smell)

(ろ) 促嘔的嗅覺 (Nauseous Smell)

(4) 觸覺的嗅覺 (Tactile Smell)

(い) 温和的嗅覺 (Mild Smell)

(ろ) 苛烈的嗅覺 (Harsh Smell)

※ 四大類ハ小種アルヲ見ルヘシ今逐次ソノ各項ニ就テ舉  
證細説セントス

固有的嗅覺トモ他管ノ交渉助成ヲ受クルコトナクシテ全ク  
嗅管本然ノ獨立作用ニ出ツルモノナリ此種ノ嗅覺ハ更ニ  
之ヲ小別シテ芳香的嗅覺及ヒ惡臭的嗅覺ノ二種トス芳香  
的嗅覺トハ薔薇素馨董菜橙皮柑皮柚皮等ヨリ發スル香氣  
ニ觸ル、并生スル感覺ニシテ惡臭的嗅覺トハ汚泥人糞沼



氣膠質、阿魏、纈草等ニ接シテ生スル嗅覺ナリ而シテ柚皮、橙皮、柑皮等ノ如キ又々膠質、汚泥等ノ如キハ幾分カ胃腸的嗅覺ニ聯申スル所アルヲ以テ固有的嗅覺ヲ激作スヘキ純正ノ材料ニアラサルナリ蓋シ柚皮、柑皮等ヲ加味スレハ食慾ヲ獎メ飲念ヲ熾シナラシムルハ吾人日常ノ經驗ニ於テ明白ナル事實ニシテ食事中膠臭、泥氣等ニ接スルルキハ啞ニ其慾念ヲ減殺スルノミナラス甚シキハ之ガ爲ニ嘔吐ヲ催フスニ至ルヲアレハナリ

肺臟的嗅覺トハ肺臟ハ主能ナル呼吸上ニ聯申スル嗅覺ニシテ肺臟ノ状態ニヨリテ銳鈍強弱ノ變化ヲ生スルモノナリ故ニ一ツニ之ヲ名ケテ呼吸的嗅覺(Respiratory Smell)ト曰

フ此嗅覺ハ更ニ之ヲ細別シテ爽開的嗅覺及ヒ壓迫的嗅覺ノ二種トス爽開的嗅覺トハ香水、薄荷、酒精、麝香、拉芬陀草等ノ香氣ニ觸レテ生スル嗅覺ニシテ肺臟ノ開動ニヨリテ自ラ一種ノ爽快ヲ覺ユルモノナリ故ニ嗅官ニ故障ナキモ肺臟ノ不健全ナルルキニ於テハ充分ニ是等ノ嗅勢ヲ感受スルヲ能ハサルヘシ且ツ爽開性ノ香氣ハ未タ必スシモ所謂ル芳香(Fragrance)ナルモノト合體スルニアラサルナリ是レ讀者ノ特ニ注目セサル可カラサル所ナリ壓迫的嗅覺トハ肺臟ヲ壓迫シテ呼吸ヲ妨害スルヨリ生スル嗅覺ナリ而シテ此種ノ嗅覺モ肺臟ノ健否ニヨリテ受感ノ完否ヲ來タス下亦々爽開的嗅覺ニ異ナラサルナリ群衆ノ呼氣、動植物ノ腐



敗、酸素ノ欠乏、炭酸ノ累積等ヨリ發スル一種特異ノ惡臭ノ如キハ吾人ノ生活作用ヲ減殺スルノ傾向ヲ有スルヲ以テ必ス此種ノ嗅覺ヲ激作スルニ至ルナリ。胃腑的嗅覺トハ胃腑ノ交感ヨリ生スル嗅覺ナリ更ニ之ヲ細別シテ動嗜的嗅覺ト促嘔的嗅覺トノ二種トス動嗜的嗅覺トハ嗜味ヲ策厲スヘキ性質ヲ有スル嗅覺ニシテ炙肉煎茶、珈琲、柑皮、海苔等ノ嗅勢ニ觸レテ生スルモノナリ故ニ胃腑ノ狀況完全ニシテ疾病事故ナキキハ其作用銳烈ナルモ否ラサルキハ全ク之ニ反スルヲアルヲ常トス管ニ之ニ反スルノミナラヌ甚シキニ至テハ却テ之ガ爲ニ嘔吐ヲ催フスニ至ルヘシ是レ其嗅勢ノ本性<sup>体</sup>ハ動嗜的性質ヲ有スルモ

受感ノ主源タル胃腑ノ狀況ニ由リテ反對ノ結果ヲ呈スルナリ促嘔的嗅覺トハ嘔吐ヲ促發スヘキ性質ヲ有スル嗅覺ニシテ硫化水素、肝油等ノ嗅勢ニ接シテ生スルモノナリ固ヨリ胃腑ノ交感ニ職由スルモノナルヲ以テ其健否ノ之ニ向テ重大ノ關係ヲ有スルヲ夫ノ動嗜的嗅覺ニ異ナラサルナリ唯ソノ前者ト相異ナル所ノ要點ハ前者ハ健全ニ順比例シテ其銳烈ヲ加フルモ後者ハ之ニ逆比例シテ其感受ヲ強盛ナラシムルニ在ルノミ。觸覺的嗅覺トハ觸覺ハ交渉ヨリ生スル嗅覺ニシテ一ツニ之ヲ各ケテ刺衝的嗅覺(Pungent Smell)ト曰フ固ヨリ刺戟性ヲ有スル嗅勢ニ接シテ生スル所ノ感覺ナルヲ以テ鼻窩中、



ニ交羅セル觸覺神經ノ狀況ニヨリテ其感受ニ銳鈍ヲ別テ  
 主能ハサルナリ而シテ更ニ之ヲ小分シテ温和的嗅覺ト苛  
 烈的嗅覺トノ二種トス温和的嗅覺トハ温和ナル刺衝的嗅  
 勢ニ接シテ生スル嗅覺ニシテ醋酸、食鹽等ノ嗅勢ニ觸レタ  
 ルキノ如キ是レナリ苛烈的嗅覺トハ劇烈ナル刺衝的嗅勢  
 ニ觸レテ生スル嗅覺ニシテ芥子、山葵等ノ嗅勢ニ由リテ激  
 作セラル、モソナリ斯クノ如ク之ヲ細別スルモ苟モ其適  
 度ヲ失スルヨリナケレハ之ガ爲メ快樂ヲ生スルノ點ニ至テ  
 ハ二者共ニ毫モ相異ナルヨリナキナリ且ツ烟草ノ如キハ其  
 種類ニヨリテ或ハ温和的嗅覺ノ激因ト爲リ或ハ苛烈的嗅  
 覺ノ動力ト爲ルコトアルヲ以テ孰レカ其一方ニ偏限セル材

料タル可カラサルナリ

(五) 交渉

嗅官本然ノ作用ニ屬スル固有的嗅覺ノ如キハ全然他官ノ  
 交動ヲ須ヒスト雖モ肺臟的嗅覺、胃腑的嗅覺及ヒ觸覺的嗅  
 覺ノ三種ニ至テハ其作用タル自ラ獨立スル能ハサルモノ  
 ナルヲ以テ必ス他官ノ助成ヲ藉ラサル可カラズ是ヲ以テ  
 此等ノ諸感ニ向テ特殊ノ關係ヲ有スルモノヲ列擧スレハ

(1) 呼吸感 (Respiratory Sensation)

(2) 養溝感 (Alimentary Sensation)

(3) 觸覺 (Tactile Sensation)

(4) 味覺 (Gustatory Sensation)



ノ四感覺アルヲ見ルベシ而シテ肺臟ノ作用ニ屬スル呼吸感ハ專ラ爽開的嗅覺ト壓迫的嗅覺トニ向テ特殊ノ關係ヲ有シ養溝感ハ其官機ノ一部分ナル胃腑ノ胃腑的嗅覺ニ對シテ聯串スル所アリ觸覺ハ觸覺的嗅覺ノ根底ヲ形成スルモノニシテ温和的嗅覺タリ苛烈的嗅覺タルニ論ナク其銳鈍ハ常ニ觸官ノ健否ニ繫連シ味覺ハ自ラ進テ嗅覺ノ作用ヲ幫助スル能ハサルモ僅ニ受動ノ位置ニ立テ互ニ密接ノ關係ヲ有スルモノナリ

(g) 幻影

嗅覺ハ味覺ト共ニ下等感覺ニ屬スト雖其作用ノ精微ニ至テハ味覺ニ及ハサルヲ遠シ故ニ其性質ノ肉體的傾向ヲ

有スルノミナラス其作用ノ極メテ茫漠ナルヲ以テ嗅覺ハ吾人ノ感覺中最モ下等ノ位置ニ立ツモノナリ隨テ此感覺ニ屬スル幻影(Illusion)ノ如キモ其種類甚々多カラス先ツ其留感ニ就テ論スレハ惡臭ニハ腐魚膠質等ノ如キアリ芳香ニハ薔薇、橙皮等ノ如キアリ是レ皆ナ強烈ナル嗅勢ヲ發スルモノニシテ一タヒ之ニ接スルキハ終ニ全ク之ト相隔離スルモ尙ホ依然トシテ其餘勢ヲ保留スルニ至ル而シテ其謬感ニ就テ論スレハ麝香、樟腦等ニ對シテ嗅接久シキニ及フトキノ如キ竟ニ全ク其眞性ヲ詳ニスル能ハスシテ一種異樣ノ變勢ヲ感スルコトアリ又々嗅勢ノ度位ニ關スル謬感アリ均シク是レ同種同量ノ嗅勢ニシテ嗅官ノ預狀ニヨ



リテ強弱鋭鈍ノ別ヲ生スルコトアルガ如キ是レナリ之ヲ例  
セバ一毛量ノ麝香ニ接スルニ方リ已ニ之ヨリモ一層強盛  
ナル麝香又ハ其他ノ嗅勢ニ觸ルハコトアラハ其受感極テ鈍  
弱ナルヘキモ更ニ之ヨリモ少量ニシテ且ツ微薄ナル嗅勢  
ニ接シ若クハ全ク之ヲ嗅カサルハ其感覺至テ鋭烈ナル  
ヘシ即チ其受感ノ鈍弱ナルハ豫メ強勢ニ觸レテ痛ク嗅覺  
神經ノ敗壞ヲ來タシタル後ニ屬スルヲ以テノ故ノミ決シ  
テ之ガ爲ニ嗅勢ノ減少シタルニ由ルニアラサルナリ然レ  
モ全ク何等ノ嗅勢ニモ預接スルコトナクシテ之ニ接スルハ  
ハ其受感最モ強鋭明白ナルヘシ是レ嗅官ノ預接ナキガ爲  
ニ嗅勢ノ増加シタルニアラス其預狀ノ正當ナルニ因リ真

正ノ嗅勢ヲ内傳シタルノミ之ヲ換言スレハ前記ノ場合ハ  
幻影ニ屬スレモ後記ノ場合ハ真正本然ノ感覺ナリト知ル  
可シ又々感冒、鼻炎等ニ罹リタルハ嗅勢ノ變狀ヲ呈スルコ  
トアリ烟草ノ如キ殊ニ然リ是レ發熱、痲衝等ニ由リテ其官機  
上ニ變動ヲ生シタル結果ニシテ猶ホ味覺ノ場合ニ於テ罹  
病發熱ノハ甘味ノ苦味ニ化スルト同一ノ幻影ナリ人或ハ  
曰ハシ均ク是レ同一ノ嗅勢ニシテ身體ノ健否ニヨリ其受  
感ヲ同フセサルハ吾人ノ實驗ニ於テ已ニ明白ナリ然リト  
雖モ健全ノハ感收スルモノ果シテ真正ニシテ罹病ノハ感  
覺スルモノ果シテ虚偽ナルヤ否ヤ吾人未タ其如何ヲ證明  
スヘキ標準アルヲ聞カサルナリト此說マタ一理ナキニア



ラス然レモ受感ノ真偽ハ身體ノ健否ニ基クノ外別ニ評査ノ標準ナキヲ如何セン是レ獨リ此嗅覺ノミニアラサルハ已ニ論述セル所ノ如シ外界ニアル絶對的物勢ハ吾人ノ得テ覺知スヘキ所ニアラサルナリ苟モ健康ハ常態ニシテ疾病ハ其變狀タルヲ知ラハ常時ノ感覺ヲ以テ真正ナリト爲スノ至當ナルハ多辯ヲ待タスシテ自ラ明白ナラン

(h) 引證

(イ) デューー (Dewey) — 『1) 物勢 (Physical Stimulus) — 吾人今日ノ智度ヲ以テ推査スルニ嗅覺ヲ激作スル勢力ハ温熱ニ非サルヲ已ニ明白ナリ果シテ然ラハ其激因ハ電氣ノ作用ニ在ルカ將タ機械的壓力ノ然ラシムル所ニ係ルカ吾輩未タ一

定ノ確說アルヲ聞カサルナリ吾人ノ所謂ル物體的嗅勢 (Physical Odor) ナルモノハ一種特殊ノ勢力ナルヲ信スト雖モ其之ヲシテ嗅勢ヲ發スルニ至ラシムル所以ノモノハ果シテ如何ナル物性ノアル在リテ然ルヤ否ヤ吾人ノ未タ明知スル能ハサル所ナリ然リト雖モ合嗅體ノ必ス氣狀體タルヲ得ヘキ性能ヲ有セサル可カラサルヲハ吾人ノ已ニ明認スル所ナリ故ニ苟モ發散性ヲ有セサル物體ハ其固形體タリ流動體タルニ論ナク總テ嗅覺ヲ激作スヘキ勢力ナキナリ時トシテ某種ノ物體ノ如キハ極度ノ小量ヲ以テ能ク之ヲ醒起スルヲアリ麝香ノ如キハ一密里瓦蘭一瓦蘭我ガ二分六厘八毛餘ノ千分一ナリノ二百萬分一ヲ以テスルモ



尙ホ充分ノ嗅勢アリト云フ

(2) 官機 (Organ) — 嗅覺ノ官機ハ鼻腔ノ上部ト下部トヲ包被セル粘膜中ニ散蔓スル嗅覺神經ノ末端ヨリ成ル然レモ其之ヲ激作スル所以ノ状態ニ至テハ吾人未タ其實因ヲ詳ニスル能ハス唯其一種ノ化學的作用ニ出ツルト分子ノ定靜不動ナルキハ毫モ嗅覺ヲ生スルコトナキトノ二點ヲ確立シ得タルノミ

(3) 嗅覺ノ本性 (The Sensation Itself) — 嗅覺ニ就テハ未タ充分ニ其辨異力ノ準率ヲ查定シ得サルノミナラス其感受スヘキ嗅勢ノ彙類法ニ至テモ未タ全ク圓滿ノ域ニ達スルヲ得サルナリ蓋シ均シク是レ同一ノ物體ナリ而シテ其人ヲ異

ニスレハ其嗅勢モ亦々互ニ相異ナルノミナラス同一ノ人ニシテ其時ヲ異ニスレハ隨テ其感覺ヲ同フセサルコトナキニアラサレハナリ然レモ世ノ通習ニヨリ濫ニ嗅覺ノ列ニ加ヘタル某種ノ感覺ノ如キニ至テハ全ク然ラサルコトアリ鼻烟カキタバコ等ヨリ發スル銳刺的感覺ノ如キ是レナリ吾輩ハ是等ノ感覺ヲ以テ機械的衝激ヨリ生スルモノナリト爲スノ至當ナルヲ信スルナリ夫ノ所謂爽開的嗅覺 (Fresh Smell) 及ヒ壓迫的嗅覺 (Close Smell) ノ如キ似而非的嗅覺ハ鼻腔ノ激作ニ因ルニアラスシテ寧口肺臟ノ感覺ニ基キタルモノナリ故ニ其作用タル有機的性質ニ屬スルナリ又々嘔感 (Empyrosis) ノ如キハ一種ノ養溝的的感覺ニシテ真正ノ嗅覺ニアラ



サルナリ

(4) 有機感ニ對スル關係 (Connection with Organic Feelings) —  
 凡ソ嗅覺ハ有機感ト密接ノ關係ヲ有スルモノニシテ吾人  
 ノ心理界ニ在テハ智力的邊面 (Cognitive Side) ニ關スルト少  
 ク寧ロ全然感動的邊面 (Emotional Side) ニ聯串スルト多シ是  
 ナ以テ心理學上ニ於テハ嗅勢ニ關スル彙類ハ之ヲ大別シ  
 テ合意的嗅勢 (Agreeable Odor) ト不合意的嗅勢 (Disagreeable  
 Odor) トノ二種ト爲スナ以テ最良ノ方法ナリト信スルナリ  
 何トナレハ此方法ニ據ルルハ明ニ其主觀的性質ヲ證表ス  
 レハナリ而シテ嗅覺ハ其有機感ニ聯串スルノ故ヲ以テ衛  
 生上實ニ重大ノ關係ヲ有スルモノナリビダー (Bidder) ノ言

ヘル如ク嗅官ハ呼吸機ノ門口ニ在リテ恰モ門監ノ職司ヲ  
 行フモノナリ故ニ嗅勢ノ之ニ觸レテ不合意ナルモノハ之  
 ナ體外ニ排斥シテ遂ニ入ルヲ得サラシムノミナラス味  
 覺ニ對シテハ消化機ノ守衛ト爲リテ有害物ノ侵入ヲ防遮  
 スルナリ

(5) 體慾ニ對スル關係 (Connection with Appetite) — 嗅覺ハ其特  
 ニ感情上ニ關係ヲ有スルノ故ヲ以テ含嗅體ニ向テハ要否  
 排容ヲ變動スルノ作用ヲ有スルノミナラス各種ノ昂奮ト  
 貪慕トヲ誘發シテ或ハ渴慾ヲ生シ或ハ飢慾ヲ捉シ或ハ嫌  
 慾ヲ動カスニ至ル是レ禽獸ニ於テ多ク見ル所ノ事實ニシ  
 テ人類ニ在テハ之ヲ證明スヘキ實例極メテ少シ蓋シ禽獸



ノ嗅覺ハ其本能ト最モ密接セル關係ヲ有スルヲ以テナリ  
 即チ保生上ノ一要具ニシテ友ヲ認メ敵ヲ避ケ及ビ食ヲ求  
 メテ之ヲ伴侶ニ示スガ如キ皆ナ一ツニ其作用ニ賴ルナリ  
 禽狀ノ腦髓中ニアル嗅覺的中樞ハ往々發達シテ其大半ヲ  
 占ムルモ人類ノ腦髓中ニアル嗅覺的中樞ニ至テハ痛ク萎  
 縮シテ僅ニ其一小部分ヲ有ツモノ固ヨリ故ナキニアラサ  
 ルナリ而シテ人類ニ於テ嗅覺ノ鈍弱ナルハ其智力的作用  
 ノ過敏ニ壓倒セラル、ノ致ス所ナリ人類モシ黨讎ノ所在  
 ナ知ラント欲スルヲアラハ毫モ其諸感ヲ用フルヲナク直  
 ニ考察推度シテ之ヲ求ムルモ狗ニ至テハ則チ然ラス唯是  
 レ其嗅覺ヲ籍リテ嗅踪ヲ追查スルノミ」

(ロバインズテイン(Bernstein)) 『氣狀ヲ有スル某種ノ物體  
 ハ空氣ト共ニ之ヲ鼻腔内ニ吸入スレハ忽チ一種ノ嗅覺ヲ  
 生ス而シテ其物體ノ受感機ニ直接シテ立ロニ之ヲ激作シ  
 以テ純全特殊ノ一感覺ヲ生スルニ至ルヲ猶ホ是レ味覺ノ  
 場合ニ於ケルガ如ク然リ夫レ嗅覺ハ本來特殊ノ一感覺ナ  
 リ故ニ之ヲ以テ觸覺若クハ味覺ノ一種ト爲シ以テ他種ノ  
 感覺ト併論ス可カラサルハ理ノ最モ賅易キ所ナリ何トナ  
 レハ嗅覺ノ是等ノ諸感ト相異ナル所以ノモノハ恰モ視聽  
 二覺ノ互ニ相異ナリテ全然ソノ性能ヲ同フセサルガ如ク  
 自ラ屹出シテ一種特異ノ感覺ヲ形成スレハナリ  
 是ヲ以テ嗅官ノ作用ハ嗅覺神經(Olfactory Nerve)ト名クル特



殊ノ一神經ニ因由スルモノニシテ其根軸位置及ヒ範圍ハ全ク他官ノ神經ト同シカラス嗅覺神經ノ根軸ハ頭蓋ノ前部ニ在リテ自ラ一種ノ球根的脹起ヲ形成ス之ヲ各ケテ嗅覺神經叢會(Olfactory Ganglion)ト曰フ下等動物ニ在テハ其啓發殊ニ著大ナリトス而シテ其纖維ハ頭基ニ至リテ自ラ蔓延シ更ニ眼窩ノ間ニ在ル篩骨ノ篩狀板ヲ洞貫シ多數ノ細孔ヲ經テ鼻腔ノ上部ニ及フ鼻腔ノ上部ハ分レテ三條ノ淡菜形竅路ヲ成シ一種ノ粘膜之ヲ包被ス

鼻腔ノ下部ト其中路ノ一半ハ特ニ空氣ノ呼吸ニ便ナラシムル要機タルヲ以テ之ヲ各ケテ呼吸部(Regio Respiratoria)ト曰フ此局部ハ氣管及ヒ肺臟中ニ在ル氣道ノ如ク互ニ相密

接セル圓柱狀ノ内皮的細胞ヲ以テ之ヲ包被シ其梢端ハ行動自在ニシテ一種ノ纖毛ヲ有ス是レ一種ノ波動ニヨリテ其粘膜ヨリ分泌セル各種ノ汚泄及ヒ外界ヨリ散入セル塵埃ヲ推前排斥スルノ機能ヲ有スルモノナリ

鼻腔ノ上部ト其下路ノ一半ハ嗅覺ニ對スル受感機ノ占ムル所ニシテ之ヲ各ケテ嗅覺部(Regio Olfactoria)ト曰フ而シテ其表面ハ色素ノ作用ニヨリテ黄色ヲ呈シ自ラ呼吸部ト別區ヲ畫成スルノミナラス纖毛ヲ有スル内皮的細胞ヲ具フルヲナクシテ全然別種ノ構造ヲ顯出ス

嗅覺神經ガ鼻腔ノ粘膜ニ至テ終局スル所以ノ狀態ハ數年前マキシシルセ(Max Schultze)ノ發見スル所ナリ而シテ其狀



態ノ他官ノ受感機ニ彷彿タル所アルヨリ之ヲ推想スレバ  
 嗅管ノ神經纖維モ亦タ一種特殊ノ末機アリテ能ク外勢ヲ  
 感傳スルニ堪ユルモノナラン  
 又タ此嗅覺的粘膜炎ハ圓柱狀ノ内皮の細胞ヲ以テ之ヲ包被  
 シ其廣梢ヲ膜面ニ表出ス然レ其梢末ハ内下ノ網狀層ニ  
 至テ漸ク細薄ト爲リ了ルナリ而シテ其間際ニ長キ棍竿狀  
 纖維アリ其下部ハ自ラ脹加シテ一種ノ核子狀隆節ヲ形造  
 シ延テ内層ニ向テ伸長シ終ニ一種ノ細纖ニ化ス此細纖ハ  
 恰モ至細ノ神經纖維ニ彷彿タルノミナラス其終局スル部  
 分ハ嗅覺神經ノ最モ細微ナル纖維ノ附近ニ在ルヲ以テ必  
 スヤ其間多少ノ關係アルモノナランシルゼハ之ヲ名ケテ

嗅覺的細胞(Olfactory Cells)ト曰フ某種ノ動物ニ就テ之ヲ觀  
 察スルニ其標本ノ完鮮ナルモノハ其細棍ノ梢端ニ極メテ  
 細微ナル纖毛ノ存スルヲ見ルヲナキアラス  
 凡ソ空氣ト共ニ吸入スル含嗅體ハ嗅覺的粘膜炎ニ觸レテ嗅  
 覺神經ノ末機ヲ衝動スルモ之ヲ感受スルモノハ其神經纖  
 維ノ直接作用ニ由ルニアラスシテ全ク嗅覺的細胞ノ機能  
 ニ出ツルナリ何トナレハ其神經纖維ノ本性ハ含嗅體ノ激  
 作ヲ受クルニ適セサレハナリ視覺的の神經纖維ノ光波ニ感  
 スルヲナク聽覺的の神經纖維ノ音波ニ感セサルハ吾輩ノ已  
 ニ銘記スル所ナリ今コノ嗅覺的の神經纖維ニ就テ之ヲ論ス  
 ルモ亦タ同一ノ局論ニ到達スルノ不可ナキヲ信スルナリ



是ニ由テ之ヲ觀レハ嗅覺神經ナルモノハ香水ノ散漫セル  
 空氣中ニ在ルモ其芳香ヲ感スルヲナク又々硫化水素ヲ以  
 テ充滿セル空氣ニ直接スルモ其惡臭ヲ覺ユルヲナキヲ知  
 ル可シ即チ含嗅體ノ作用ハ嗅官ノ粘膜中ニ存スル末機ヲ  
 シテ一種ノ變狀ヲ生セシメ更ニ之ヲシテ其附近ニ並接セ  
 ル神經纖維ノ末端ヲ激作セシムルニ根由スルナリ之ヲ約  
 言スレハ含嗅體ニ接シテ其物勢ヲ感受スルモノハ唯是レ  
 嗅官ノ末機アルノミ固ヨリ神經纖維ノ作用ニアラサルナ  
 リ何トナレハ嗅覺神經ノ纖維モ亦々全身ニ洽及セル他種  
 ノ諸神經ト均シク僅ニ外勢ノ刺戟ヲ腦髓ニ傳達スル機能  
 ナ有スルニ過キサレハナリ

凡ソ嗅官ヲ以テ感受スヘキ物體ハ必ス氣狀體ニシテ吸入  
 スル空氣ト共ニ之ヲ嗅覺的粘膜ニ輸接セシメサル可カラ  
 ス各種ノ氣狀體ト水蒸氣トハ幾分カ水中ニ溶解スヘキ性  
 質ヲ有スルヲ以テ細分子ト爲リテ能ク鼻腔ノ濕膜ニ透入  
 ス其嗅覺神經ノ末機ニ觸レテ之ヲ激作スルモノハ蓋シ一  
 種ノ親和作用ニヨリテ然ルモノナラン何トナレハ物體ノ  
 嗅勢ハ其化學的合成ニヨリテ異同ヲ生スレハナリ且ツ嗅  
 覺ニハ一種必須ノ機械的境遇ヲ具備スルヲ要ス即チ呼吸  
 ニヨリテ鼻腔中ニ空氣ノ常流ヲ生セシムルモノ是レナリ  
 故ニ苟モ此境遇ヲ欠クコトアラハ決シテ嗅勢ヲ知覺スル能  
 ハサルナリ今モシ卒然呼吸ヲ歇止スルコトアラハ縱令ヒ銳



烈ナル嗅勢ヲ含有スル空氣中ニ在ルモ嗅官ヨリ生スル各種ノ感覺ハ全ク其跡ヲ絶ツニ至ルベシ又々嗅覺ハ吸氣ノ瞬間ヲ以テ最モ強銳ナリト爲スガ故ニ精微ナル嗅勢ヲ感受セント欲セハ必ス急ニ之ヲ連行セサル可カラサルナリ是レ他ナシ吾人ノ神經ハ其境遇ノ劇變ニヨリテ激厲セラレ、ト多ク常定不變ノ境遇ニ在リテハ外勢ノ刺戟ヲ受クルコト鮮キヲ以テナリ之ヲ例セハ流電ノ如キ是レナリ間斷アレハ能ク之ヲ感受ス可キモ連歴不斷ナレハ毫モ之ヲ知覺ス可カラサルナリ即チ絶ヘス鼻腔中ノ空氣ヲ更新スルキハ嗅勢ノ知覺ヲ銳烈ナラシメ空氣ノ供給ヲ減スル片ハ其受感ノ烈度ヲ低下セシムルモ皆ナ此理ニ職由セス

ンハアラサ蓋シ其更新愈迅速ナレハ空氣ノ連流ニヨリテ含嗅體ノ嗅覺的粘膜ニ接觸スルト愈多量ナルハ自然ノ理勢ナレハナリ

吾人ガ嗅官ヲ以テ能ク認識スルヲ得ヘキ物量ハ極メテ微少ナリトス故ニ薔薇油ノ一滴量ヲ蒸散セシムルモ猶且ツ其至微ノ痕跡ヲ以テ鼻腔中ニ芳香ノ感覺ヲ促發セシムルニ足ルナリ麝香ノ如キハ其至細ノ分子ヲ以テ數年間吾人ノ衣服ニ特殊ノ清香ヲ宿住セシメ強烈ナル長風モ遂ニ之ヲ奪ヒ去ル能ハサルニ至ルナリヴァレンチン(Valentin)ノ算測ニ據レハ吾人ノ能ク感受スルヲ得ヘキ麝香ノ最少量ハ大約一<sup>我</sup>億<sup>毛</sup>強<sup>ナリ</sup>一厘<sup>ナリ</sup>ノ一億分ノ三ナリト云フ以テ吾人ノ嗅



三百八十六  
官ハ其作用ハ精微ナルコト他官ニ優ル數等ナルヲ知ル可  
シ吾人ガ常ニ嗅官ニヨリテ感受スル物體ノ細分子ハ全ク  
吾人ノ味官ヲ激作ス可カラサルノミナラス縱令ヒ之ヲシ  
テ固形狀ヲ有セシムルモ其觸知ス可カラサルハ固ヨリ論  
ナキナリ況ンヤ目以テ之ヲ睹察スルガ如キハ縱令ヒ烈日  
ノ光明ニ照ラスモ吾人ノ得テ做ス可カラサル所ナリ吾人  
ノ嗅官ヲ以テ感受スルガ如キ物體ノ細分子ハ如何ナル化  
學的反應ニ由ルモ之ヲ檢發ス可カラサルナリ分。光。術。(Spe-  
ctro Analysis)ヲ用フルキハ視官ヲ以テ能ク一偈ノ百萬分  
ノ十五ヲ認識スルヲ得ヘシト雖モ其精微ノ度位ニ至テハ  
嗅官ノ作用ニ及ハサルト遠シ

嗅。覺。ノ啓發ハ動物ノ人類ニ優ルコト數等ノ上ニ在リテ其體  
系上實ニ重要ノ機能ヲ有スルナリ獵犬ハ全ク視官ヲ以テ  
覺知ス可カラサル鳥獸ト雖モ嗅。覺。ニヨリテ能ク其踪跡ヲ  
認識スルニアラスヤ然レモ獵害ニ慣レタル鳥獸ニ至テハ  
其嗅。覺。ノ鋭敏ナルコト更ニ數倍ニシテ若シ風向ノ順便ヲ得  
タルキハ數哩外ノ遠キニ居テ能ク獵夫ノ所在ヲ嗅知スル  
コトアリ是ニ由テ之ヲ觀レハ斯クノ如キ遠隔ノ距離ニ在テ  
鳥獸ノ感受スル浮遊物ノ數量ハ固ヨリ吾人ノ得テ覺知ス  
可キ所ニアラサルナリ其微細ナルコト評查ノ外ニ在リト謂  
フ可シ  
水中ニ棲息セル動物ノ嗅。覺。ヲ有スルヤ否ノ問題ニ就テハ



未タ一定明確ノ立證アルヲ聞カヌ其嗅官ノ發達ニ基テ之ヲ推究スレハ其果シテ之ヲ具有スルヲ確言シ得ヘキナリ今試ニ魚類ニ就テ之ヲ證セシニ其嗅覺神經ノ發達最モ著シク嗅覺神經叢會ノ局部ナル頭蓋ノ前葉ヨリ發根シテ頭皮ノ上ニ開放セル鼻囊(Nasal Sacks)ノ粘膜中ニ蔓延スルヲ見ルヘシ而シテ水生動物ノ具有スル嗅覺神經ノ末機ハ單ニ流動體ノミヲ感受ス可キモノナルヲ以テ氣狀體ニ至テハ全ク其激作ヲ受收スルヲナキナリ是レ蓋シ味覺ノ獨リ液體ノミヲ感受スルト同一ノ作用ニ出ツルモノナランカ且ツ水生動物ノ嗅覺ハ幾分カ吸氣動物ノ嗅覺ニ彷彿タル能ハサルモノアリ殊ニ人類ニ至テハ水中ニ在テ能ク嗅勢

ヲ感受スルヲ得サルナリ或ハ無難ニシテ能ク注水ヲ鼻腔中ニ通過セシムルヲアルモ之ヲ感受スルヲ固ヨリ難シイ<sup>1</sup>、エチ、ウーベル(E. H. Weber)ノ行ヒタル一種ノ有興的實驗アリ以テ其然ルヲ證ス可キナリウーベルノ之ヲ行フヤ自ラ香水ヲ濃混セル淡水ヲ以テ其鼻腔ヲ充實シタリ凡ソ此種ノ實驗ヲ行フニハ先ツ其身體ヲ地平線ニ横臥セシメ其頭部ヲ鉛直線ニ後垂セシメ以テ鼻腔ヲシテ全ク上向スルニ至ラシメサル可カラス然ルル<sup>2</sup>、口垂(Volum Palati)ヲシテ鼻腔ト口窩トノ間際ヲ閉塞セシムルヲ以テ注水ノ洩出スルヲナク隨テ完成ノ成功ヲ收ムルヲ得ヘキナリウーベルハ其水ヲ鼻腔内ニ注入スルニ方リ嗅勢ノ作用ヲ感受



セシモ其已ニ鼻腔内ニ滿溜スルニ至テハ全ク嗅覺ノ痕跡ヲ存セサルニ至リタルノミナラス更ニ其注水ヲ流出セシメタル片ハ其後數分時ノ間何等ノ嗅勢ヲモ感受スル能ハサリシト云フ是ニ由テ之ヲ觀レハ人類ニ於テハ水ハ決シテ嗅覺ノ適媒ニアラサルヲ知ル可シ

凡ソ嗅官以外ノ諸官ニ就テハ其感覺ヲ分釋シテ數種ト爲スコトヲ得ヘシ然レモ獨リ此嗅官ニ至テハ其感覺極メテ多ク隨テ之ヲ彙類スルコト幾ンド難シ之ヲ要スルニ吾輩ハ其愉快ヲ生スルモノヲ總稱シテ合意的嗅覺(Agreeable Smells)ト曰ヒ其不愉快ヲ生スルモノヲ概括シテ惡劣的嗅覺(Bad Smells)ト曰フナリ而シテ合意的嗅覺ハ特ニ依的兒及ヒ植

物ヨリ搾取スル香油ヨリ生スルモノニシテ香水ノ製造ノ如キ皆ナ之ニ基クモノナリ且ツ是等ノ芳香的物質ハ各特異ノ嗅勢ヲ有スルモ更ニ一步ヲ進メテ之ヲ定釋ス可カラサルノミナラス若シ之ヲ過度ニ聚結セシムルハ其勢力銳烈ニシテ間刺戟性ヲ發シ甚シキハ嗅官ヲ壓擁スルニ至ルヘシ

芳香的物質ニ向テ正反對ノ性質ヲ有スルモノハ惡臭ナリ某種ノ氣狀體及ヒ單純的構成ヲ有スル水蒸氣ノ如キ皆ナ之ニ屬ス硫化水素、磷化水素、砒化水素、復硫化炭素、及ヒ某種ノ揮發性炭化水素ノ如キ則チ是レナリ又々合成的有機物ノ如キハ概チ一種特異ノ惡臭ヲ有スルヲ常トス殊ニ動物



セシモ其已ニ鼻腔内ニ滿溜スルニ至テハ全ク嗅覺ノ痕跡ヲ存セザルニ至リタルノミナラス更ニ其注水ヲ流出セシメタル片ハ其後數分時ノ間何等ノ嗅勢ヲモ感受スル能ハザリシト云フ是ニ由テ之ヲ觀レハ人類ニ於テハ水ハ決シテ嗅覺ノ適媒ニアラザルヲ知ル可シ

凡ソ嗅官以外ノ諸官ニ就テハ其感覺ヲ分釋シテ數種ト爲ストイテ得ヘシ然レモ獨リ此嗅官ニ至テハ其感覺極メテ多ク隨テ之ヲ彙類スルヲ幾シト難シ之ヲ要スルニ吾輩ハ其愉快ヲ生スルモノヲ總稱シテ合意的嗅覺 (Agreeable Smells) ト曰ヒ其不愉快ヲ生スルモノヲ概括シテ惡劣的嗅覺 (Bad Smells) ト曰フナリ而シテ合意的嗅覺ハ特ニ依的兒及ヒ植

物ヨリ搾取スル香油ヨリ生スルモノニシテ香水ノ製造ノ如キ皆ナ之ニ基クモノナリ且ツ是等ノ芳香的物質ハ各特異ノ嗅勢ヲ有スルモ更ニ一步ヲ進メテ之ヲ定釋ス可カラサルノミナラス若シ之ヲ過度ニ聚結セシムルハ其勢力銳烈ニシテ間刺戟性ヲ發シ甚シキハ嗅官ヲ壓擁スルニ至ルヘシ

芳香的物質ニ向テ正反對ノ性質ヲ有スルモノハ惡臭ナリ某種ノ氣狀體及ヒ單純的構成ヲ有スル水蒸氣ノ如キ皆ナ之ニ屬ス硫化水素、磷化水素、砒化水素、復硫化炭素、及ヒ某種ノ揮發性炭化水素ノ如キ則チ是レナリ又々合成的有機物ノ如キハ概チ一種特異ノ惡臭ヲ有スルヲ常トス殊ニ動物



